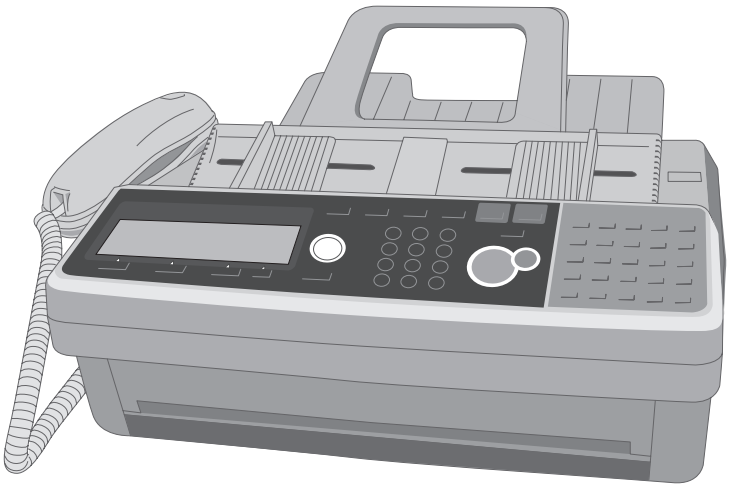
技術基準適合認定品

取扱説明書

NTTFAX T-360



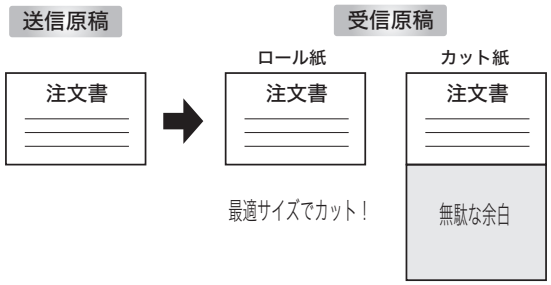
ご使用になる前に 第1章
ファクス機能を使う 第2章
インターネットファクス機能を使う 第3章
電話およびコピー機能を使う 第4章
宛先を指定する 第5章
通信管理 第6章
機器設定のしかた 第7章
管理設定をする 第8章
メンテナンスについて 第9章
こんなときには 第10章
主な仕様 第11章
付録 第12章

このたびは、NTTFAX T-360をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
●ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
●お読みになったあとも、本商品のそばなどいつもお手元においてお使いください。

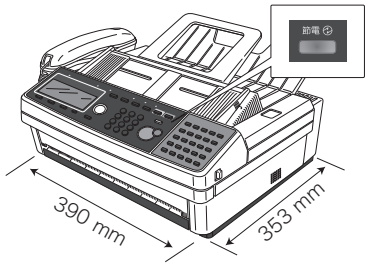
NTT

主な特徴

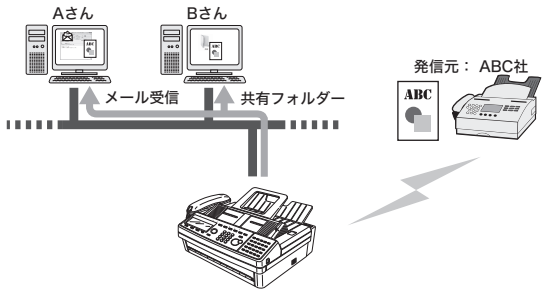
ビジネスユースに最適な B4 / 100 m ロール紙対応（→ 11-2 ページ）
ビジネスに最適な B4 / 100 m ロール紙に対応し、伝票や長尺サイズなど不定形原稿も最適なサイズで受信してカットします。記録紙の無駄を出しません。



省スペース設計 & エコ（→ 1-13 ページ）
横幅 390 mm × 奥行き 353 mm のコンパクトボディに、受信トレイを本体に収めた省スペース設計。デスクトップや店舗カウンターなど限られたスペースにもすっきり収まります。
また、国際エネルギースタープログラム バージョン 2.0 にも適合。節電モードも搭載しているので、オフィスの省エネルギー対策にも役立ちます。



インターネット FAX（第 3 章）、PC-FAX 送信標準 (『ネットワーク機能編』第 2 章)
パソコンからダイレクトに FAX 送受信が可能。受信ファクスをパソコンに転送したり、パソコンで作成したデータをそのまま送信したりできます。オフィスの「ペーパーレス化」を促進し、「通信コスト」の削減に貢献します。



スーパー G3&JBIG・誤送信防止機能（→ 2-42 ページ）
超高速 2 秒台電送のスーパーＧ 3 対応し、通信コストの削減に貢献します。さらに新標準圧縮方式 JBIG の採用により、写真原稿等も超高速で送信できます。
誤送信を防いで情報を確実に伝える FASEC1 に準拠。宛先 2 度押し機能、閉域通信機能、同報禁止設定など、誤送信を防止する多彩な機能を搭載しています。

目次

本書の表示について vii
安全に関する表示 vii
操作キーとボタンの表記 vii
ご使用の前にお読みください viii
安全にご使用いただくために viii
その他の注意 xii
機器の設置場所について xiii
消耗品の取り扱いについて xiii
製品のリサイクルについて xiv
使用済み機器の受け入れ場所について xiv
廃棄（または譲渡、返却）される場合のご注意 xiv
取扱説明書について xv
取扱説明書の種類について xv
CD-ROM 内の取扱説明書をみる xvi

第 1 章　ご使用になる前に

同梱品の確認 1-3
各部の名称 1-4
操作パネル 1-5
機器の接続のしかた 1-6
原稿台・記録紙受けの取り付け 1-6
ハンドセットの取り付け 1-6
電話機ヒモの接続 1-7
増設電話（留守番電話）の接続 1-7
電源コードの接続 1-8
LAN ケーブルの接続 1-9
ワンタッチシートへの記入のしかた 1-9
記録紙をセットする 1-10
電源について 1-12
電源スイッチ 1-12
節電モードについて 1-13
初期設定をする（設置モード） 1-14
設置モードを表示する 1-15
言語を設定する 1-15
現在時刻を登録する 1-16
ダイヤル種別を設定する 1-16
ファクス受信モードを設定する 1-17
ダイヤルトーン検出を設定する 1-18
発信元名を登録する 1-18
標準発信元名を設定する 1-19
発信元番号を登録する 1-19
タイムゾーンを設定する 1-20
LAN（有線）を設定する 1-20
スーパー G3 を設定する 1-20
ファクシミリ通信網を設定する 1-21

ファクス待機画面とコピー画面について 1-22
ファクス待機画面 1-22
コピー画面 1-22
ファクス応用機能画面について 1-23
応用機能一覧 1-23
機能アイコンについて 1-24
メニュー画面 1-25
ログインする／ログアウトする 1-26
ログインする 1-26
ログアウトする 1-27
原稿をセットする 1-28
原稿をセットするとき 1-28
読み取り範囲について 1-28
使用できる原稿サイズ 1-29
原稿をセットするときの注意 1-29

第 2 章　ファクス機能を使う

ファクス送信の基本操作 2-3
ファクス送信のしかた 2-3
手動送信する 2-4
スピーカーボリュームを調整する 2-4
読み取りに関する設定 2-5
画質 2-5
濃度 2-5
済スタンプ 2-6
送信に関する設定 2-7
複数の宛先へ一度に送信する（同報送信） 2-7
送信宛先を確認する（宛先確認） 2-7
リダイヤルする 2-8
送付案内書を付けて送信する（送付案内書） 2-9
送信時刻を指定する（時刻指定送信） 2-12
メモリー送信／リアルタイム送信を切り替える 2-13
発信元情報を送信する 2-14
ダイヤル記号について 2-15
通信モードを選択して送信する 2-15
ポーリング送信／受信をする 2-16
ファクスを中止・確認する 2-19
送信中のジョブを中止・確認する 2-19
通信予約中のジョブを中止・確認する 2-20
同報送信の宛先を個別に中止・確認する 2-21
通信結果を確認・プリントする 2-22
蓄積原稿リストをプリントする 2-23
受信のしかた 2-24
受信方法について 2-24
手動で受信する（電話待機） 2-25
自動で受信する 2-26
増設電話でファクスを受ける（リモート受信） 2-28
受信中の動作について 2-29

受信中の表示について 2-29
代行受信について 2-29
受信中の動作について 2-30
1 回線で複数の番号をつける（ダイヤルイン） 2-31
ダイヤルインについて 2-31
ダイヤルインサービスのときの動き 2-32
受信文書を配信する（自動配信） 2-33
設定項目について 2-33
配信設定を登録／変更する 2-35
自動配信を設定する 2-38
ダイレクトメールを防止する 2-39
ダイレクトメール防止を設定する 2-40
ダイレクトメール防止リストをプリントする 2-41
セキュリティー通信機能 2-42
ファクス通信する相手を限定する（閉域通信） 2-42
特定の相手機とだけポーリングする（パスコードポーリング） 2-44
パスコードを登録する 2-45
相手機番号を確認してから送信する（ID チェック送信） 2-47
宛先を確認してから送信する（宛先確認） 2-48
宛先を 2 度入力してから送信する（2 度押し） 2-49
同報送信を禁止する（同報送信） 2-51
受信文書をメモリーに蓄積する（セキュリティー受信） 2-52
F コード通信機能 2-54
F コードボックスについて 2-54
F コードボックスを登録する 2-55
F コードボックスを変更する 2-59
F コードボックスを削除する 2-60
F コードボックスリストをプリントする 2-60
掲示板ボックスへ文書を保存する 2-61
掲示板ボックスの文書を削除する 2-62
F コード受信通知について 2-63
F コードボックス内の文書をプリントする 2-64
F コードボックスへ送信する（F コード送信） 2-65
F コードボックスの文書を受信する（F コードポーリング） 2-66

第 3 章　インターネットファクス機能を使う

事前に必要な設定 3-2
インターネットファクスの初期設定 3-2
インターネットファクスのしかた 3-3
インターネットファクス送信の基本操作 3-3
インターネットファクスを受信する（POP 受信） 3-4
インターネットファクスに関する設定 3-5
メール件名と本文を選択・編集する（メール編集） 3-5
読み取った原稿を分割して送信する（分割送信） 3-6
ファイル形式を選択する（ファイル形式） 3-7

第４章　電話およびコピー機能を使う

電話について 4-2
電話をかける 4-2
電話を受ける 4-3
ハンドセットについて 4-3
ハンドセットの便利な機能を使用する 4-4
相手の番号を表示する（ナンバー・ディスプレイ） 4-6
ディスプレイ表示について 4-6
ナンバー・ディスプレイを設定する 4-7
コピーのしかた 4-9
コピー禁止事項 4-9
コピー中にメモリーオーバーしたとき 4-9
コピーをとる 4-10
読み取りに関する設定 4-10

第５章　宛先を指定する

宛先を指定する 5-2
登録宛先から指定する 5-2
直接入力して指定する 5-7
履歴から指定する 5-8
ハンドセットで指定する 5-9

第６章　通信管理

送信結果を確認する（送信確認証） 6-2
送信確認証を発行する 6-2
送信確認証のみかた 6-3
通信履歴を管理する 6-4
通信管理レポートを手動でプリントする 6-6
通信管理レポートを自動でプリントする 6-7
通信管理レポートのみかた 6-8

第７章　機器設定のしかた

宛先を登録する 7-2
宛先表に登録する 7-2
宛先グループを登録・変更する 7-7
ハンドセットの短縮ダイヤルに登録する 7-10
初期値を設定する 7-11
初期値設定一覧 7-12
コピー機能の初期値を設定する 7-13
メール機能の初期値を設定する 7-15
ファクス機能の初期値を設定する 7-16
節電モードを設定する 7-19
優先応用機能を変更する 7-21
ご愛用スイッチの登録内容を変更する 7-22
ジョブメモリーを使用する 7-23
ジョブメモリーを登録する・変更する 7-23

ジョブメモリーを削除する....7-24
ジョブメモリーリストをプリントする....7-25
ジョブメモリーを実行する....7-25
リストをプリントする....7-26
プリントのしかた....7-26
リスト一覧....7-26
機器情報を確認する....7-28
文字を入力する....7-29
文字入力に使用するキー....7-29
文字入力画面について....7-30
かな漢字変換について....7-30
入力モードについて....7-32
文字の割り当て....7-33
漢字・ひらがなを入力する....7-34
英字を入力する....7-35
数字を入力する....7-35
記号を入力する....7-35
空白を入力する....7-36
文字を削除する・挿入する....7-37

第 8 章　管理設定をする

機器管理設定一覧....8-2
セキュリティーコードを設定する....8-4
管理者パスワードを設定する....8-4
プロテクトコードを設定する....8-5
設定や操作を制限する（機能プロテクト設定）....8-7
機能プロテクトを設定する....8-8
機能プロテクトを使う....8-9
モード禁止設定をする....8-10
ユーザーの使用状況を管理する....8-11
ユーザー使用状況管理リストをプリントする....8-11
集計データを消去する....8-12
ネットワーク設定をする....8-13
TCP ／ IP 設定をする....8-15
自動ログアウト時間を設定する....8-21

第 9 章　メンテナンスについて

記録紙を交換する....9-2
済スタンプを交換する....9-4
清掃する....9-6
外装、操作パネルのお手入れ....9-6
読み取り部のお手入れ....9-6
記録部のお手入れ....9-8

第 10 章　こんなときには

紙づまりを処理する 10-2
記録紙づまりを解除する 10-2
原稿づまりを解除する 10-4
エラーメッセージが表示されたときは 10-5
アラームランプについて 10-5
プリントされるチェックメッセージ 10-5
エラーコード 10-7
主なメッセージと処置のしかた 10-12
故障かなと思ったら 10-15
動作しない 10-15
送信できない 10-16
受信できない 10-17
画質が悪い 10-18
停電のときは 10-20
本体の動作 10-20
消去通知 10-20

第 11 章　主な仕様

主な仕様 11-2
主な仕様 11-2
外形寸法 11-6

第 12 章　付録

アフターサービスについて 12-2
保証について 12-2
修理を依頼されるときは 12-2
その他の場合 12-2
オプション品・別売品について 12-3
オプション品について 12-3
別売品について 12-3
環境対応および規格について 12-4
国際エネルギースタープログラムについて 12-4
高調波の抑制について 12-4
FASEC について 12-4
ハンドセット接続時の直流抵抗値について 12-4
環境基準ラベル「ダイナミックエコマーク」について 12-5
さくいん 12-6

本書の表示について

安全に関する表示

本書では、安全にお使いいただくために守っていただきたい事項や操作する上での重要情報に、以下のマークをつけています。

⚠警告	取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性のある警告事項が書かれています。 安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
⚠注意	取り扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性または物的損害が発生する恐れがある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
お願い	誤った操作によるトラブルを防ぐために、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。
補足	操作の参考情報や補足説明が書かれています。

この取扱説明書で使われている絵表示の意味は以下の通りです。

△	警告・注意を促す内容を告げるものです。	表示例： 高温注意　指はさみ注意
⃠	禁止の行為を告げるものです。	表示例： 禁　止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止
●	必ず行っていただきたい行為や指示を告げるものです。	表示例： 指　示　電源プラグを抜け　アースを接続せよ

操作キーとボタンの表記

〈　〉操作パネル上のキー
　（例：スタートキー →〈スタート〉）
[　] 液晶ディスプレイ上のボタンやコンピューター画面上のボタンなど
　（例：画質ボタン →［画質］）

ご使用の前にお読みください

本書には、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。
本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、ファクスの送受信、通話、録音などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

安全にご使用いただくために

本商品を安全にご使用いただくために、ご使用の前にこの「安全にご使用いただくために」をよくお読みの上、ただしくお使いください。

❑ 設置について

⚠警告

本商品の上に、水や液体の入った容器（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品など）、金属物（ネックレスやクリップ）、ろうそくなどを置かないでください。
内部に水などの液体や金属類が入ると、火災や感電、故障の原因となることがあります。 水などの液体や金属類が製品内部に入った場合は、直ちに電源スイッチをオフにし、電源コードをコンセントから抜いて、NTT 通信機器お取扱相談センタにご連絡ください。

アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。
引火性溶剤が製品の電気部分など接触すると、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意

振動の多い場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に設置しないでください。
落下したり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

次のような場所に製品を設置しないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。
・直射日光の当たる場所
・湿気やほこりの多い場所
・高温な場所
・火気に近い場所
・温度変化の激しい場所
・酸性ガス、アルカリ性ガス、水蒸気などが発生する場所
・磁気を生ずる機器に近い場所
・水気のある場所
・幼児や児童の手の届くところ
・油飛びや湯気のあたる場所

本商品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと製品内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

屋外での設置や使用はしないでください。
本商品は屋内用機器です。

本商品を構内交換機（PBX）等に接続してお使いになる場合は、あらかじめ NTT 通信機器お取扱相談センタに確認してください。
確認できない場合には、絶対に接続してお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。

❑ 換気について

⚠注意

風通しの良い場所でご使用ください。
新品の電子機器は、一般的に揮発性物質を室内空気に放出することが多いため、特に最初の数日は本商品を設置した場所の換気を十分に行ってください。

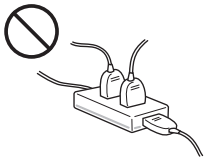
❑ 電源について

⚠警告

指定の電源電圧で使用してください。
指定以外の電源電圧でご使用になると、火災や感電の原因になることがあります。

延長コードを使用しないでください。
やむを得ず延長コードを使用する場合は、本商品の消費電力以上の容量を持っている延長コードを使用してください。容量が不足すると、過熱して火災の原因になることがあります。(本商品の最大消費電力は、11-2 ページをご参照ください。)

テーブルタップ、分岐コンセント、分岐ソケットを使用したり、たこあし配線をしたりしないでください。
火災や感電の原因となることがあります。



電源コードはコンセントに確実に差し込んでください。
接触不良で火花が飛んだり、電源プラグとコンセントの接合部分に金属などが触れたりすると、火災や感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。
感電の原因になることがあります。

電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。
火災や感電の原因になることがあります。

電源コードを熱器具に近づけないでください。
コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となることがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。
また、重いものを置いたり、挟み込んだり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだ場合は（芯線の露出、断線など)、NTT 通信機器お取扱相談センタに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグとコンセントの接合部分やその周辺にほこりやごみが付着している場合は、乾いた布でよく拭き取ってください。
電源プラグとコンセントの接合部分にほこりなどが溜まっていると、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意

電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
電源コードを引っぱると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

旅行などで長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源スイッチを切ってから、電源コードをコンセントから抜いてください。

電源コードのまわりには物を置かないでください。
いつでも電源コードが抜けるように、電源コードの周りには物を置かないでください。非常時に電源コードが抜けなくなります。

雷が激しいときは、本商品の電源コードをコンセントから抜いてください。
落雷により火災や感電、故障の原因となることがあります。

次のような場合は電源プラグをコンセントから抜いて、NTT 通信機器お取扱相談センタまでご連絡ください。
・電源コードやプラグが傷んでいたり、断線していたりするとき
・本商品を落としたり、破損したりしたとき
・本商品の動作に異常があるとき
・本商品内部に水などの液体をこぼしたとき

❑ アース

⚠警告

接地されたコンセントに電源コードを接続してください。
万一漏電した場合、火災や感電の原因となることがあります。

❑ 分解・改造の禁止

⚠警告

本商品を分解したり、改造したりしないでください。
修理技術者以外の人は、分解したり修理をしたりしないでください。火災や感電、けがの原因となることがあります。

❑ 取り扱いについて

⚠警告

本商品の内部にクリップやホチキスの針などの金属片を落としたり、異物を差し込んだりしないでください。また、水などの液体をこぼしたりしないでください。
火災や感電の原因となることがあります。万一、金属物、水、液体などの異物が本商品の内部に入った場合は、直ちに本商品の電源スイッチを OFF にし、電源コードをコンセントから抜いて、NTT 通信機器お取扱相談センタまでご連絡ください。

床や壁の清掃時に液体洗剤などの液体を使う際は、液体が電話機ヒモや電源プラグに付着しないようにしてください。付着した場合は、すぐに乾いた布などでふき取ってください。
火災や感電の原因となることがあります。

お客様がお求めになりました電話機器のご使用にあたっては、以下の火災、感電、人体傷害を防止する上で基本となる安全性に関する注意事項を必ずお守りください。

1. 本商品は、浴槽、洗面器、台所の流し台、選択機など水を使用する場所の近傍、湿度の多い地下室、水泳プールの近傍で使用しないようにしてください。
2. 激しい雷雨の間は電話を使用しないでください。稲妻による間接的な感電の危険を引き起こす恐れがあります。
3. ガス漏れが生じている近傍で、電話によるガス漏れ通知をしないようにしてください。

⚠注意

本商品を移動させる場合は、必ず電源コードをコンセントから抜き、電話機ヒモなど各種コードを外してください。
電源コードや電話機ヒモなどが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

カバーなどを閉めるときは手をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

数年に一度、本商品の内部の掃除を、NTT 通信機器お取扱相談センタにご相談ください。
本商品の内部にほこりが溜まったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。本商品の内部の掃除費用については、NTT 通信機器お取扱相談センタにご確認ください。

液晶ディスプレイを必要以上に強く押したり、先の尖ったもので突いたりしないでください。
万一、ディスプレイから液体が出てきた場合は手を触れないでください。手についたときは水で洗い流してください。目や口に入ったときは水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

取扱説明書に記載されている以外のことは行わないでください。
思わぬ事故や故障を起こす原因となることがあります。

製品を落としたり、強い衝撃をあたえたりしないでください。
故障の原因となります。

サーマルヘッド（印字部）には触れないでください。
動作直後は高温になっており、やけどの原因になります。また、画質低下の原因になります。

本商品を長距離移動させる場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタにご相談ください。

本商品は国内仕様になっていますので、海外ではご使用になれません。
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

❑ 異常時の処置

⚠警告

次のような異常が発生した場合は、直ちに電源スイッチを OFF にし、電源コードをコンセントから抜いて、NTT 通信機器お取扱相談センタにご連絡ください。
・本商品から煙がでている
・本商品の外部が異常に熱くなっている
・異常な音がする
・異臭がする

万一、本商品を破損した場合は、電源スイッチを OFF にし、電源コードをコンセントから抜いて、NTT 通信機器お取扱相談センタにご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

その他の注意

❑ 設置時の注意

- 本商品の PHONE2 端子は、電話網の仕様と完全には一致していないため、接続される通信機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- 電話網と本商品のあいだに、アダプター (ナンバー・ディスプレイアダプター、ターミナルアダプターなど）が接続された場合、アダプターなどが電話網の仕様と完全には一致していないため、本商品が正常に動作しないことがあります。
- 本商品の設置および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対おやめください。
- 設置する場所が交換センターから遠い場合、ご使用になれないことがありますので、設置や移動にあたっては NTT 通信機器お取扱相談センタにご相談ください。（裏表紙）

❑ 設定時の注意

- 簡易取扱説明書を使用の際は、必ず取扱説明書をよく読み理解した上でお使いください。
- ファクスの誤送信による迷惑電話を防止するため､宛先表には加入者番号（相手の電話番号）を正しく登録してください。
- 本商品は、お買い上げのときには国内の相手と通信することを前提とした設定になっています。海外との通信を主に行われるかたは、重要な通信を行う前に相手と正常に通信できるか確認してください。正常に通信できないときは、本商品の設定を変更することにより通信できるようになる場合もありますので、NTT 通信機器お取扱相談センタにご相談ください。（裏表紙）

❑ キャッチホンサービスについて

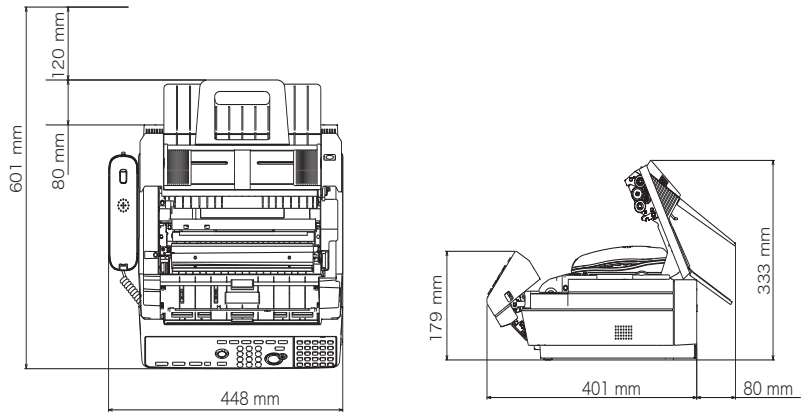
キャッチホンサービスをご契約になる場合は、次の点にご注意ください。

・ファクスの送信や受信中に、他のかたから電話がかかってくると、画像に線が入ったり、通信が中断してしまったりすることがあります。
・また、上記の場合、電話がかかってきたことはこちらではわかりません。キャッチホンサービスの異常ではありませんので、ご了承願います。
・なお、キャッチホン II サービスをご利用になり、割り込み音の回数を「0 回」に設定していただくと、ファクス通信中にキャッチホンが入っても異常なく通信できます。

機器の設置場所について

⚠注意

- 本商品の背面にある通風孔を、壁やほかの機器などから 20 cm 以上離してください。
- 本商品の操作に十分なスペースを確保してください。
- 温度 5 ～ 35 ˚C、湿度 10 ～ 80 % RH の環境でお使いください。



お願い

- 本商品の底面には、ゴム製とプラスチック製のすべり止めを使用していますので、すべり止めとの接触面がまれに変色する恐れがあります。
- テレビやラジオ、こたつの上など磁気が発生する場所には設置しないでください。本商品が正常に動作しないことがあります。
- 本商品の設置場所等によっては、近くに置いたラジオへの雑音やテレビ画面のチラツキなどが発生する場合があります。このような現象が本商品の影響によると思われましたら、本商品の電源コードを抜いてください。電源を切ることにより、ラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、本商品をテレビ等から遠ざけるか、本商品またはテレビ等の向きを変える等を試みてください。

消耗品の取り扱いについて

❑ 感熱記録紙について

- 記録紙は当社推奨品をご使用ください。推奨品以外の記録紙をお使いになった場合のトラブルにつきましては、当社では保証いたしかねますのでご了承ください。
- 記録紙は高温多湿の場所、直射日光の当たるところを避けて（机の中など）周囲温度 40˚C 以下、相対湿度 90%以下の暗所に保管してください。また、開封せずに保管してください。
- 感熱記録紙に粘着テープ、消しゴム、ジアゾコピー紙などを密着させたり、硬い金属で押さえたりすると、発色することがあります。また、ゴム系のり、ボンド、スティックのりなども発色の原因となります。
- 感熱記録紙は受信やコピー後に、火のついたタバコやライターなど高温のものを近づけると変色します。また、消しゴム、薬品、マーカーペンなどで退色または変色する場合がありますので、取り扱いに注意してください。

❑ 済スタンプについて

- オプション品の済スタンプ付属のピンは先がとがっています。刺さらないようにご注意ください。
- スタンプ印面には、直接手を触れないでください。また、インクが手などに付着したときは、すぐに水で洗ってください。

製品のリサイクルについて

使用済み機器の受け入れ場所について

弊社では、環境保全と資源の有効活用のために、回収された機器の部品や材料のリサイクルを行っております。
使用済み機器の回収については、お買い上げの販売店、または NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）へご連絡ください。
弊社担当者が直接回収に伺うか、指定の受け入れ場所をお知らせします（弊社担当者が直接回収する場合は、別途回収費用がかかります）。
なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、廃棄物処理法に従い処分してください。

廃棄（または譲渡、返却）される場合のご注意

本商品は、お客様固有の情報を登録または保持可能な商品です。本商品内に登録または保持された情報の流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品に登録または保持された情報を消去する必要があります。NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）に、ご相談ください。

取扱説明書について

取扱説明書は大切に保管し、わからないときには再読してください。

- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら NTT 通信機器お取扱相談センタまでご連絡ください。（裏表紙）
- 本書を紛失または損傷したときは NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）でお求めください。

取扱説明書の種類について

本商品には以下の取扱説明書が付属しています。「セットアップディスク」CD-ROM には、PDF マニュアルが含まれています。

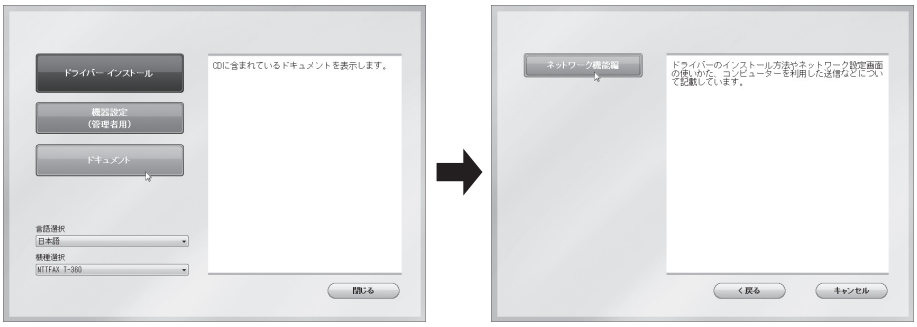
取扱説明書・CD-ROM	内容
取扱説明書（本書） 	本商品の使いかたや設定方法、消耗品の交換方法や機器の主な仕様について、安全にご使用いただくために守っていただきたい事項について記載しています。 本商品をご使用になる前に必ずお読みください。
簡易取扱説明書 	本商品の基本的な操作方法を記載しています。
工事説明書 	取付工事担当者用の設置手順書です。
「セットアップディスク」CD-ROM 	「セットアップディスク」CD-ROM には以下の取扱説明書（PDF マニュアル）が含まれています。 「セットアップディスク」CD-ROM 内のマニュアルを開く方法は、「CD-ROM 内の取扱説明書をみる」（xvi ページ）を参照してください。 **取扱説明書『ネットワーク機能編』** ドライバーのインストール方法やネットワーク設定画面の使いかた、コンピューターを利用した送信などについて記載しています。

CD-ROM 内の取扱説明書をみる

1 **お使いのコンピューターに、「セットアップディスク」CD-ROM を入れます。**

・自動再生の画面が表示された場合は、［InstMenu.exe の実行］をクリックします。
・「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたら、［許可］または［はい］をクリックします。
・自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、「セットアップディスク」CD-ROM の中の「InstMenu.exe」アイコンをダブルクリックしてください。

2 **画面が表示されたら［ドキュメント］をクリックし、参照したい取扱説明書をクリックします。**



補 足

- 「セットアップディスク」CD-ROM 内の取扱説明書は PDF ファイル形式で保存されています。
- PDF ファイルを閲覧したり印刷したりするには、お使いのコンピューターに Adobe Reader がインストールされている必要があります。
- Adobe Reader は Adobe 社の Web サイトから無料でダウンロードすることができます。

第１章

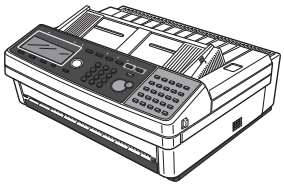
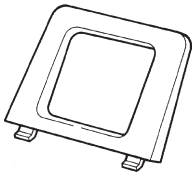
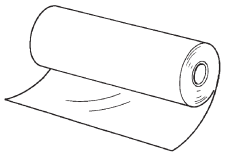
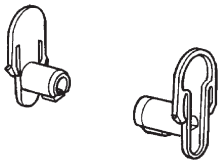
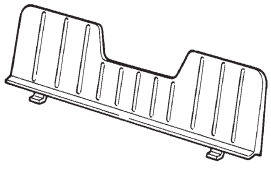
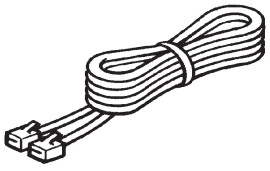
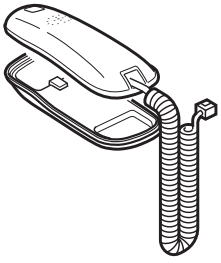
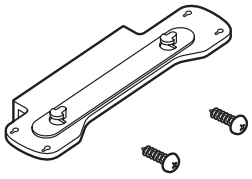
ご使用になる前に

同梱品の確認 1-3
各部の名称 1-4
操作パネル 1-5
機器の接続のしかた 1-6
原稿台・記録紙受けの取り付け 1-6
ハンドセットの取り付け 1-6
電話機ヒモの接続 1-7
増設電話（留守番電話）の接続 1-7
電源コードの接続 1-8
LAN ケーブルの接続 1-9
ワンタッチシートへの記入のしかた 1-9
記録紙をセットする 1-10
電源について 1-12
電源スイッチ 1-12
節電モードについて 1-13
初期設定をする（設置モード） 1-14
設置モードを表示する 1-15
言語を設定する 1-15
現在時刻を登録する 1-16
ダイヤル種別を設定する 1-16
ファクス受信モードを設定する 1-17
ダイヤルトーン検出を設定する 1-18
発信元名を登録する 1-18
標準発信元名を設定する 1-19
発信元番号を登録する 1-19
タイムゾーンを設定する 1-20
LAN（有線）を設定する 1-20
スーパー G3 を設定する 1-20
ファクシミリ通信網を設定する 1-21
ファクス待機画面とコピー画面について 1-22
ファクス待機画面 1-22
コピー画面 1-22
ファクス応用機能画面について 1-23
応用機能一覧 1-23
機能アイコンについて 1-24

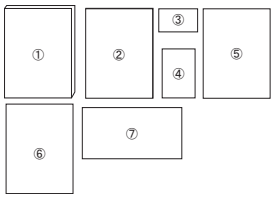
メニュー画面 **1-25**
ログインする／ログアウトする **1-26**
ログインする 1-26
ログアウトする 1-27
原稿をセットする **1-28**
原稿をセットするとき 1-28
読み取り範囲について 1-28
使用できる原稿サイズ 1-29
原稿をセットするときの注意 1-29

同梱品の確認

本商品がお手元に届きましたら、以下の内容がそろっているかご確認ください。万一、足りないものやご不明な点がありましたら、NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）までご連絡ください。

1 ファクス本体 	2 原稿台 	3* 記録紙 （感熱記録紙 B4 100m） 
4 記録紙ホルダーセット 	5 記録紙受け 	6 電話機ヒモ 
7 ハンドセット、ハンドセットホルダー、カールコード 	8 電話台、ネジ 	9 セットアップディスク

7 取説キット



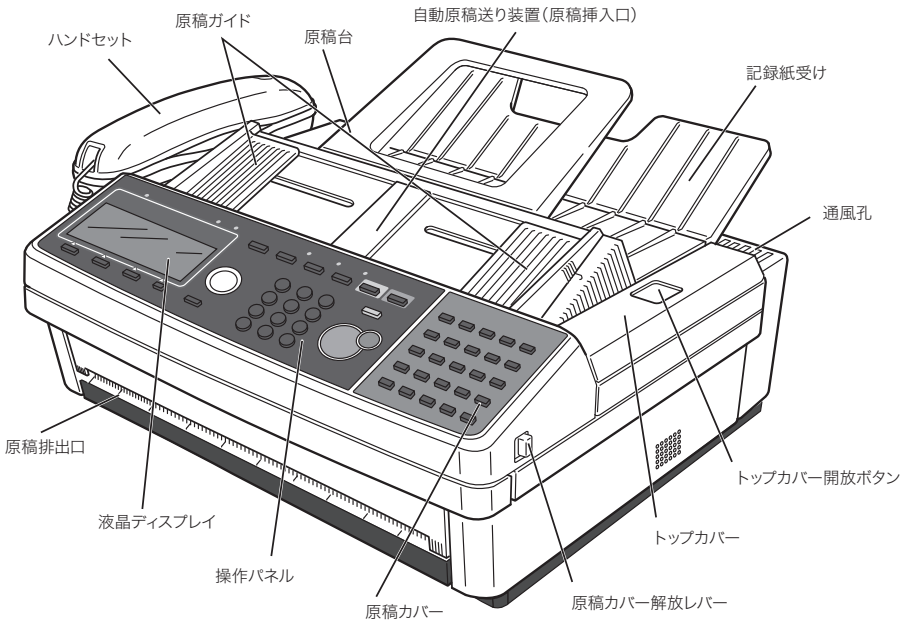
①取扱説明書 ..... 1 冊
②簡易取扱説明書 ..... 1 枚
③ご愛用スイッチラベル ..... 1 枚
④ NTT 通信機器お取扱相談センタシール ..... 1 枚
⑤保守サービスのご案内 ..... 1 枚
⑥工事説明書 ..... 1 冊
⑦保証書（梱包箱に貼付） .... 1 枚

補 足

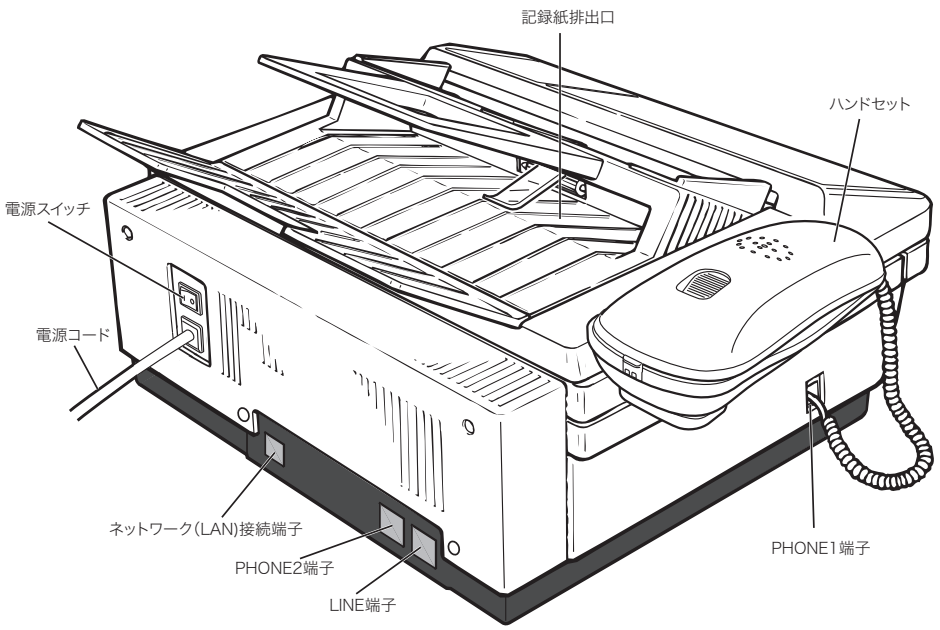
- ＊は消耗品です。記録紙は当社推奨品をご使用ください。また、オプション品については「オプション品・別売品について」（12-3 ページ）を参照の上、NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）までご連絡ください。
- 使用頻度が多いときや長時間使用いただいた場合は、ローラーなどの機械部品は耐用限度を超える場合があります。その際、部品交換は消耗品として取り扱いさせていただきます。

各部の名称

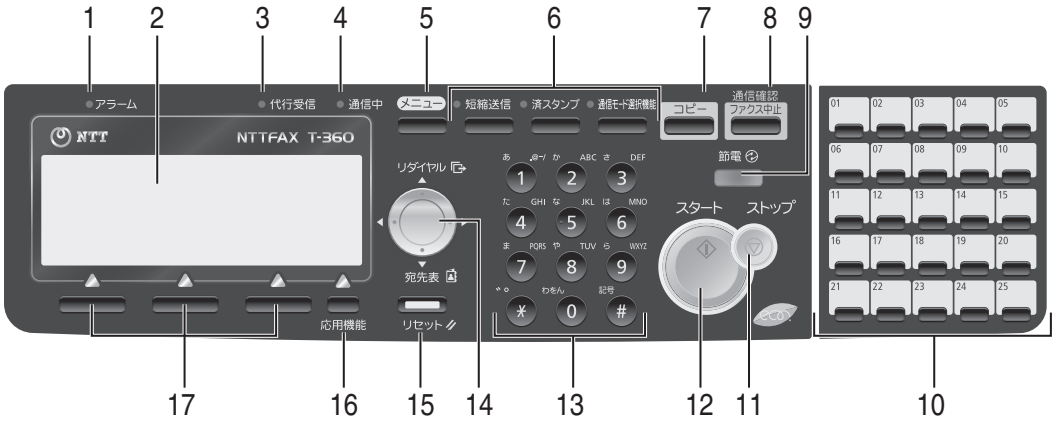
正面


ハンドセット
原稿ガイド
原稿台
自動原稿送り装置(原稿挿入口)
記録紙受け
通風孔
原稿排出口
液晶ディスプレイ
操作パネル
原稿カバー
原稿カバー解放レバー
トップカバー
トップカバー開放ボタン

背面


記録紙排出口
ハンドセット
電源スイッチ
電源コード
ネットワーク(LAN)接続端子
PHONE2端子
LINE端子
PHONE1端子

操作パネル

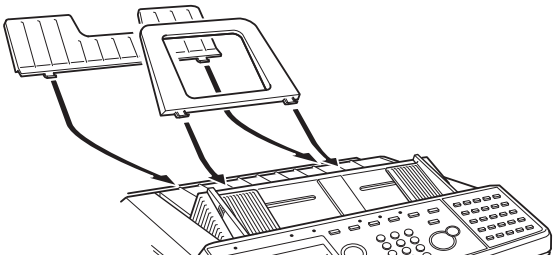


番号	名称	説明
1	アラームランプ	エラーが発生したときに点灯します。
2	液晶ディスプレイ	各設定画面やメッセージが表示されます。
3	代行受信ランプ	メモリーに文書が蓄積されている場合に点灯します。
4	通信中ランプ	ファクス通信中に点灯します。
5	〈メニュー〉	メニュー画面を開くときや、各種機能の設定や登録を行うときに押します。
6	ご愛用スイッチ	よく使用する機能のショートカットキーとして使用できます。 工場出荷時の設定では、以下の機能が設定されています。 〈短縮送信〉 短縮番号を入力して、登録した宛先を呼び出すときに押します。 〈済スタンプ〉 原稿に読み取りマークをつけるときに押します。 〈通信モード選択機能〉 あらかじめ機器に設定された特定通信モードで送信するときに押します。
7	〈コピー〉	原稿をコピーするときに押します。
8	〈通信確認／ファクス中止〉	ファクス通信を中止したいときや、通信履歴を見たいときに押します。
9	〈節電〉	手動で節電モードに切り替えたり、解除したりするときに押します。
10	ワンタッチキー	宛先表の 0001 ～ 0025 に登録されている宛先をワンタッチで呼び出すことができます。
11	〈ストップ〉	機器の動作を中止したいときに押します。 通信中のときや通信予約があるときに押すと、〈通信確認／ファクス中止〉と同じ動作になります。
12	〈スタート〉	各機能の動作を開始するときに押します。
13	テンキー	コピー部数やファクス番号の入力や文字入力をするときなどに押します。
14	カーソルキー	液晶ディスプレイに表示された項目の選択や、カーソル移動など、さまざまな場面で使用します。
15	〈リセット〉	操作を中止するときや、設定を初期値に戻すときに押します。 ファクス待機画面時に押し続けると、液晶ディスプレイのコントラストを調整できます。
16	〈応用機能〉	応用機能メニューを表示します。
17	機能選択キー	液晶ディスプレイ下部に表示される項目を選択するときに押します。

機器の接続のしかた

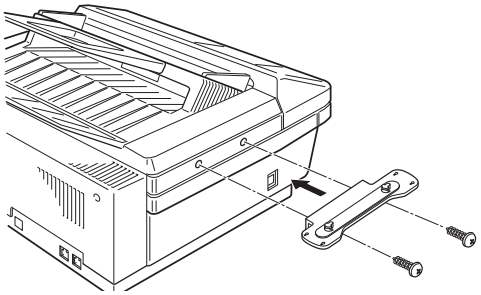
原稿台・記録紙受けの取り付け

1 原稿台と記録紙受けにある両端のフックを、本体の差し込み口に挿入します。



ハンドセットの取り付け

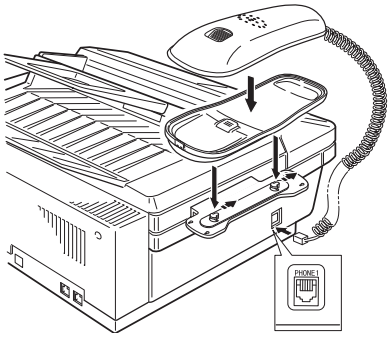
1 電話台をネジ 2 本で取り付けます。



2 ハンドセットホルダーを電話台に取り付けます。

ハンドセットホルダーの背面にある 2 カ所の取り付け穴を、電話台のツメに引っかけてスライドさせます。

3 ハンドセットのカールコードを本体の PHONE1 端子に接続します。

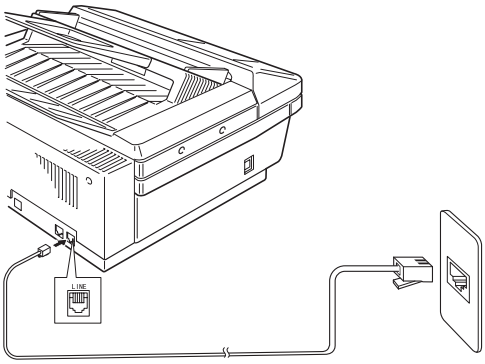


電話機ヒモの接続

1 **電話機ヒモを本商品の LINE に接続します。**

2 **もう一方を室内の電話コンセントに接続します。**

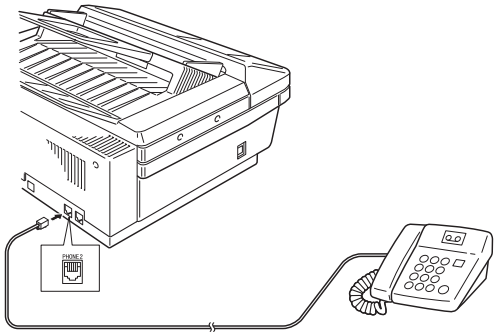
電話機ヒモは、電話コンセントにカチッと音がするまで差し込み、抜くときは、レバーを押しながら抜いてください。



増設電話（留守番電話）の接続

1 **必要に応じて一般の電話または留守番電話の電話機ヒモを、本商品の PHONE 2 端子に接続します。**

増設電話（留守番電話）の種類によっては、ご利用になれない場合や、一部機能が利用できない場合があります。



補 足

本商品と増設電話（留守番電話）のダイヤル種別を一致させてください。

電源コードの接続

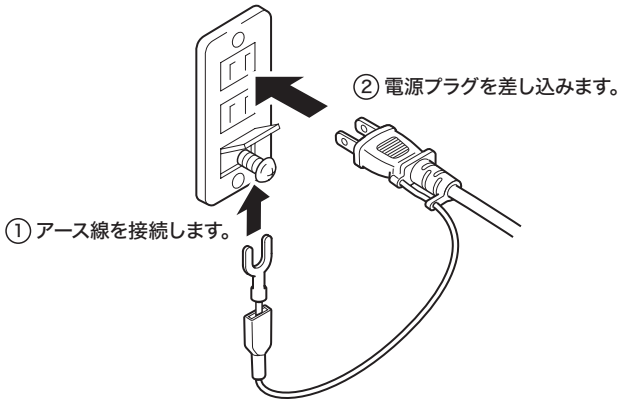
⚠警告

- 電源プラグを電源コンセントに差し込んだ後、確実に差し込まれているか確認してください。接触不良により火災の原因となることがあります。
- 万一漏電した場合の感電防止のため、必ずアース線を接続してください。
- 電源プラグはほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また半年から 1 年に 1 回は、電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃してください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。
- アース線は、以下のいずれかの場所に取り付けるようにしてください。
  - 電源コンセントのアース端子
  - 接地工事を施してある接地端子（第 D 種）
- 次のような所には絶対にアース線を取り付けないでください。
  - ガス管（ガス爆発の原因になります）
  - 電話専用アース線および避雷針のアース線（落雷時に大きな電流が流れ、火災・感電のおそれがあります）
  - 水道管（途中が樹脂になっていて、アースの役目を果たさない場合があります）

1 **電源スイッチが OFF（○）になっていることを確認します。**

2 **接地工事済みの電源コンセントに、アース線を接続してから電源プラグを差し込みます。**

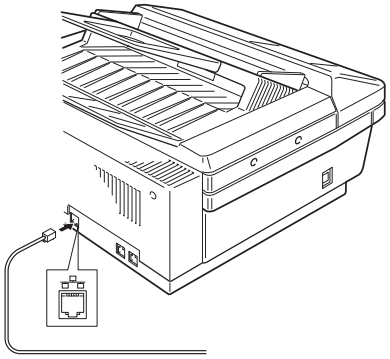
アース線の接続は、必ず電源プラグを電源コンセントに差し込む前に行ってください。（① → ②の順）また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから外してから行ってください。



LAN ケーブルの接続

インターネットファクスやネットワーク設定画面など、ネットワーク機能を利用するときは、LAN ケーブル（10Base-T/100Base-TX 適合のツイストペアケーブル）が必要です（本商品には付属していません）

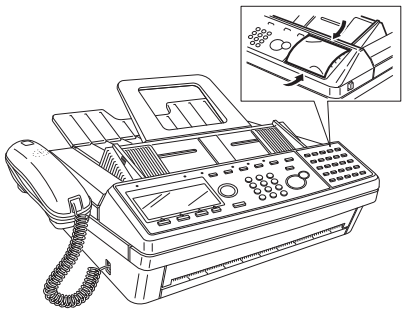
1 **LAN ケーブルを本商品のネットワーク（LAN) 接続端子に接続します。**



2 **LAN ケーブルのもう一方を、ネットワークハブに接続します。**
詳しくは、ネットワーク管理者にご確認ください。

ワンタッチシートへの記入のしかた

1 **シートカバーを外し、ワンタッチシートを外します。**



2 **ワンタッチシートに登録した宛先を記入してください。**
ワンタッチシートは、ボールペン、鉛筆または油性ペンで直接名前を記入してください。鉛筆で記入した場合は消しゴムで消すことができます。

3 **記入後、ワンタッチシート、シートカバーを元に戻します。**

記録紙をセットする

記録品質への悪影響および故障の原因となることがありますので、当社指定の記録紙をおすすめします。記録紙に赤い帯が出ると「まもなく記録紙がなくなります」というお知らせです。新しい記録紙と交換してください。

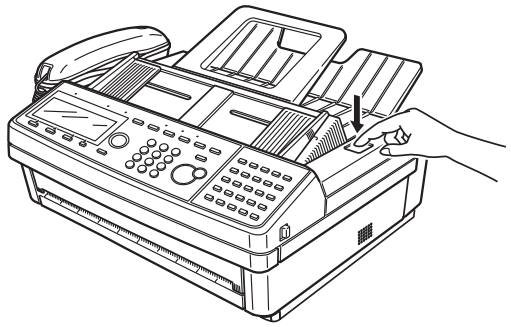
⚠注意

- サーマルヘッド（印字部）付近には触れないでください。動作直後は高温になっており、やけどの原因となります。
- トップカバーはいきおいよく開きますので注意してください。

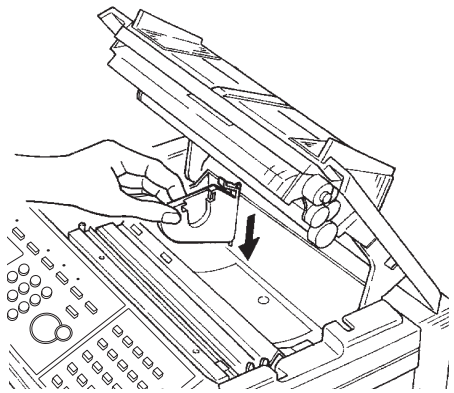
お願い

記録紙を交換するときは、電源を切らずに交換してください。電源を切ると蓄積原稿が消えることがあります。

1 **トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを開けます。**

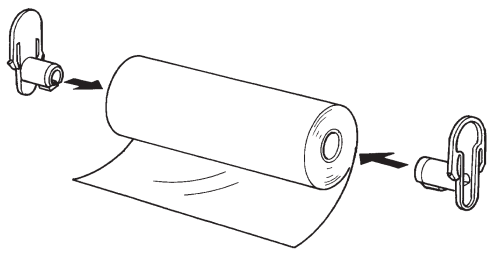


2 **仕切板を記録紙サイズに合わせます。**

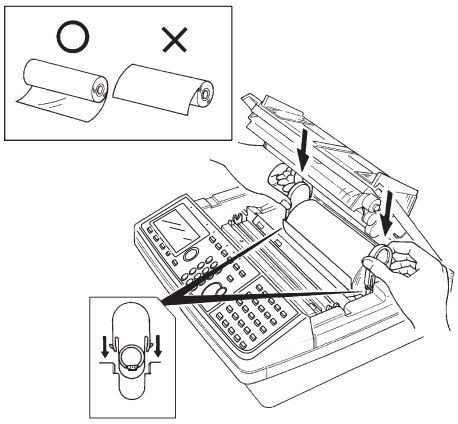


A4 の記録紙を使用するときは、仕切板を内側に移動させます。

3 **記録紙に記録紙ホルダーを取り付けます。**

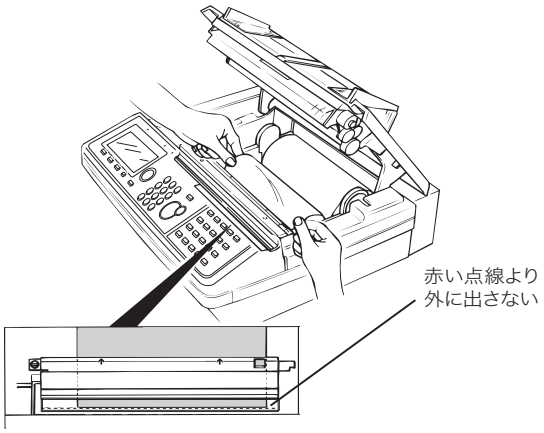


4 記録紙ホルダーを溝に差し込み、記録紙を本体にセットします。



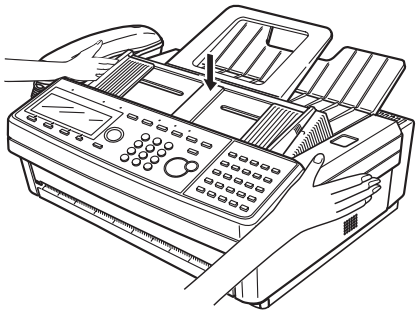
・記録紙ホルダーを図のように差し込んでください。
・記録紙を入れる向きに注意してください。

5 記録紙の先端をペーパーガイドの下（黒い矢印の下）に挿入します。



ペーパーガイドのフィルムから記録紙が見えるまで挿入します。記録紙がフィルムの赤い点線より外に出ないようにします。

6 トップカバーの両端を押さえて閉じます。



・トップカバーを閉じると、記録紙の先端をテストカットします。これが行われないときは、もう一度記録紙をセットし直してください。
・排出された記録紙にテスト文書が印字されているか確認してください。何も印字されていない場合は、記録紙のセット方法が間違っています。手順４を参照してセットし直してください。

電源について

電源スイッチ

電源を ON にするには、電源プラグが確実にコンセントに差し込まれていることを確認してから、本商品の左側にある電源スイッチの「 I 」（ON）側を押します。電源を OFF にする場合は、電源スイッチの「○」（OFF）側を押します。

⚠警告

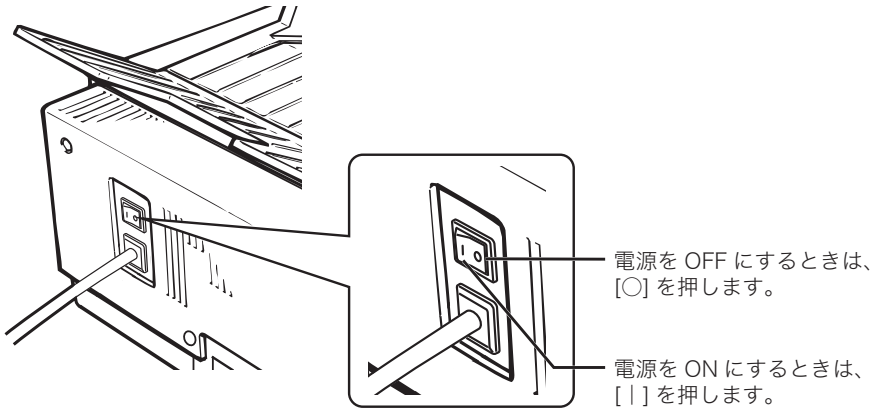
濡れた手で電源プラグの抜き差しをしたり、電源スイッチに触ったりしないでください。感電の原因になります。

⚠注意

電源スイッチは常に ON にしてください。電源スイッチを OFF にすると、受信できません。

お願い

- 電源スイッチを OFF にするときは、必ずシャットダウン操作を行ってください。
- 電源を OFF にした後、再び ON にする場合は 3 秒以上待ってから行ってください。



❑ シャットダウンのしかた

電源スイッチを OFF にするときは、必ずシャットダウン操作を行ってください。
シャットダウン操作をしなかった場合、本商品に保存されているデータが消えることがあります。

1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **「シャットダウン」を選択し、［確定］を押します。**

3 **確認画面が表示されたら、［はい］を押します。**

4 **「電源を切ってください。」と表示されたら、電源スイッチを OFF にします。**

補 足

〈節電〉を 2 秒以上押し続けると、シャットダウンの確認画面（手順 3）が表示されます。

節電モードについて

一定時間以上何も操作をしないと自動的に節電モードに入り、電力を節約します。
節電モード中は、〈節電〉が点灯し、液晶ディスプレイやその他のランプは消灯します。
節電モードを完全に働かないように設定することはできませんが、節電モードへ移行するまでの時間（1 ～ 240 分）を設定できます。（出荷時設定：1 分）
手動で節電モードにしたり、節電モードを解除したりするには、〈節電〉を押します。

補 足

以下の場合は、節電モードに移行しません。
- 原稿読み取り中
- コピー、ファクスなどの印字をしているとき
- 原稿がセットされているとき
- カバーが開いているとき
- 記録紙づまりが発生しているとき
- 記録紙がなくなったとき
- 本商品側の操作でユーザーログインを行ったとき（ログイン中）
- 本商品を操作中のとき

初期設定をする（設置モード）

ご使用いただくために必要な登録を行います。主にファクス機能を使用する際に必要な設定です。

言語
画面表示やリストに使用する言語を選択できます。

時刻設定
時刻を正しく設定します。時刻指定送信や通信管理などの基準になります。

ダイヤル種別
ダイヤル種別を選択します。選択が正しくない場合は、電話やファクスが使用できません。

ファクス受信モード
「ファクス待機」、「電話／ファクス待機」、「ファクス／電話待機」、「留守／ファクス待機」、「ダイヤルイン待機」から、ご使用に合わせた受信モードを選びます。

ダイヤルトーン検出
ダイヤルトーン（ツーという発信音）を検出してから発信できます。通常は ON（検出する）ですが、内線に接続したときなど、交換機側からダイヤルトーンが発信されない場合は OFF（検出しない）に設定します。

発信元名登録／変更
発信元名を登録しておくことにより、どこから送信された原稿なのかを受信側で確認しやすくなります。本商品は、発信元名を 3 種類登録できます。

標準発信元名
登録した 3 種類の発信元名のうち、常に使う発信元名を標準発信元名として設定できます。

発信元番号
発信元名とともに相手先の受信原稿の先頭に印字される送信者のファクス番号を登録できます。

ナンバー・ディスプレイ設定→「ナンバー・ディスプレイを設定する」（4-7 ページ）
ナンバー・ディスプレイサービスを利用するときに設定します。ナンバー・ディスプレイ対応電話機を接続する場合も、ここで設定を行います。

タイムゾーン
タイムゾーンとは、グリニッジ標準時（GMT）からの時差（±12 時間以内）と同じ時差を使っている地域のことです。日本の標準時は、グリニッジ標準時から 9 時間先行しています。インターネット時刻設定をご使用になる場合は、タイムゾーンを設定しておく必要があります。

LAN(有線)
ネットワーク設定画面やインターネットファクスなど、ネットワーク機能を利用する場合は ON に設定します。

スーパー G3
スーパー G3 を利用する場合は ON に設定します。

ファクシミリ通信網設定
ファクシミリ通信網を利用する場合は ON に設定します。

補 足

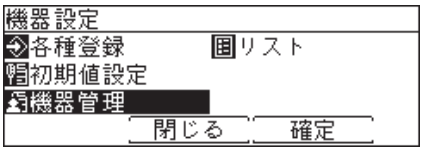
- 設置モードはネットワーク設定画面からも設定できます。詳しくは、『ネットワーク機能編』第 4 章の「本商品の機器設定を行う」の「設置モードの設定を行う」を参照してください。
- 設定後、機器設定リストをプリントし、設定内容が正しいか確認してください。（→ 7-26 ページ）

設置モードを表示する

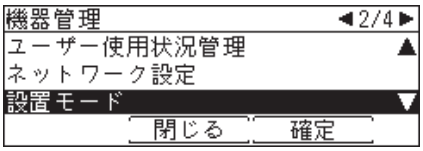
1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

3 「機器管理」を選択し、[確定]を押します。



4 「設置モード」を選択し、[確定]を押します。



5 設定したい項目を選択し、[確定]を押します。
各項目の設定については、1-15 ～ 1-21 ページを参照してください。

6 すべての設定が終了したら、[閉じる]を押して待機画面に戻ります。

言語を設定する

使用する言語を選択します。

1 設置モードを表示します。

2 設置モードのメニューから「言語」を選択し、[確定]を押します。

3 言語を選択し、[確定]を押します。

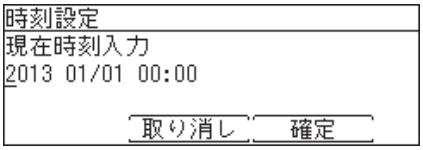
現在時刻を登録する

現在の時刻を、年（西暦 4 桁）、月（2 桁）、日（2 桁）、時（24 時間制 2 桁）、分（2 桁）の順に入力します。

1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「時刻設定」を選択し、［確定］を押します。**

3 **現在時刻を入力し、［確定］を押します。**



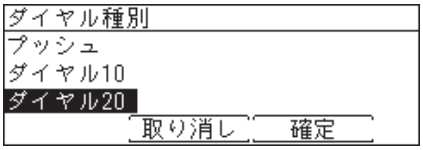
ダイヤル種別を設定する

接続する回線の種類に合わせて設定します。ハンドセットを装着している場合は、どちらも同じ設定にしてください。

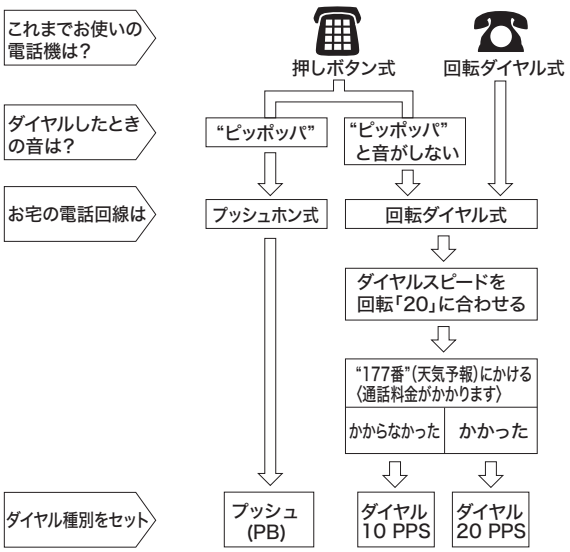
1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「ダイヤル種別」を選択し、［確定］を押します。**

3 **ダイヤル種別を選択し、［確定］を押します。**



❑ ダイヤル種別の見分けかた



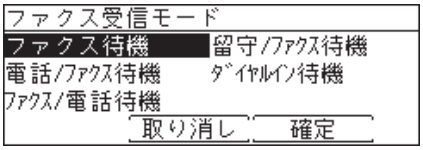
ファクス受信モードを設定する

自動受信するときのファクス受信モードを選択します。自動受信については、「自動で受信する」（2-26 ページ）を参照してください。

1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「ファクス受信モード」を選択し、[確定]を押します。**

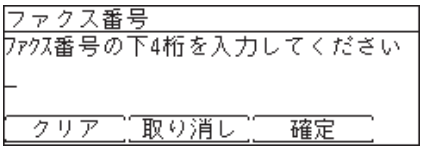
3 **ファクス受信モードを選択し、［確定］を押します。**



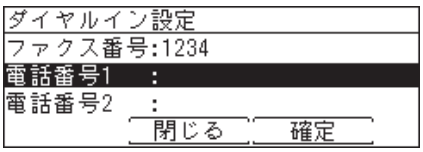
・「ダイヤルイン待機」を選択した場合は、ダイヤルイン設定画面になります。手順 4 に進みます。
・「ダイヤルイン待機」以外を選択したときは、この手順で終了です。

4 **「ファクス番号」を選択し、［確定］を押します。**

5 **テンキーでファクス用の番号を入力し、［確定］を押します。**



6 **「電話番号 1」を選択し、［確定］を押します。**



7 **テンキーでハンドセット用の番号を入力し、［確定］を押します。**

8 **「電話番号 2」を選択し、［確定］を押します。**

9 **テンキーで増設電話用の番号を入力し、［確定］を押します。**

10 **［閉じる］を押します。**

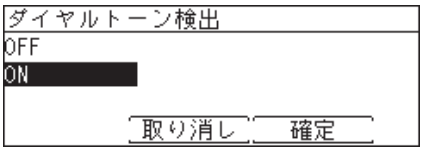
ダイヤルトーン検出を設定する

ON に設定すると、自動送信での発呼時にダイヤルトーンの検出を行います。

1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「ダイヤルトーン検出」を選択し、[確定]を押します。**

3 **「ON」または「OFF」を選択し、［確定］を押します。**



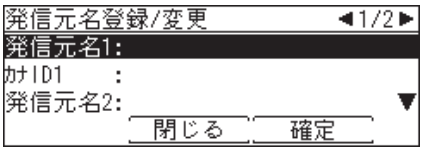
発信元名を登録する

発信元名の設定には、発信元名とカナ ID があり、それぞれ 3 種類登録できます。

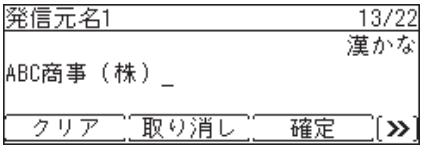
1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「発信元名登録／変更」を選択し、[確定]を押します。**

3 **「発信元名 1」を選択し、［確定］を押します。**

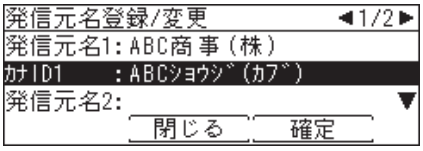


4 **発信元名を入力し、［確定］を押します。**

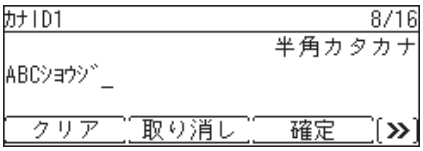


・全角で 11 文字（半角で 22 文字）まで登録できます。
・［確定］が表示されていないときは、〈応用機能〉を押します。
・文字入力のしかたは、「文字を入力する」（7-29 ページ）を参照してください。

5 **「カナ ID」を選択し、［確定］を押します。**
・発信元名を入力すると、カナ ID が自動的に入力されます。
・発信元名の入力確定後に再入力した場合は、その分のカナ ID は自動入力されません。
・カナ ID を変更しない場合は、手順 7 に進みます。



6 カナ ID を入力し、[確定] を押します。



・半角文字（半角カタカナ、半角アルファベット、数字、記号）にて 16 文字まで登録できます。全角文字は使用できません。
・[確定] が表示されていないときは、〈応用機能〉を押します。

7 同様の手順で、ほかの発信元名とカナ ID を入力します。

標準発信元名を設定する

通常使用する発信元名を選びます。

1 設置モードを表示します。
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 設置モードのメニューから「標準発信元名」を選択し、[確定] を押します。

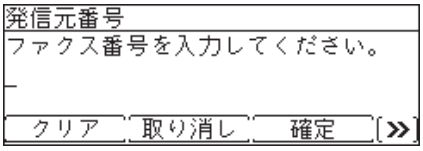
3 発信元名を選択し、[確定] を押します。

発信元番号を登録する

1 設置モードを表示します。
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 設置モードのメニューから「発信元番号」を選択し、[確定] を押します。

3 テンキーで発信元番号を入力し、[確定] を押します。



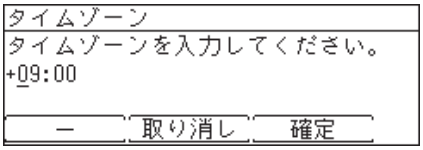
・発信元番号は 20 桁まで登録できます。番号を間違えた場合は、[クリア] を押して正しい番号を入力し直してください。
・カーソルキーの右を押すと、「−」を入力できます。
・〈応用機能〉を押すと、[−]、[+] が表示されます。

タイムゾーンを設定する

1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」(1-15 ページ) を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「タイムゾーン」を選択し、[確定] を押します。**

3 **タイムゾーンを設定し、[確定] を押します。**



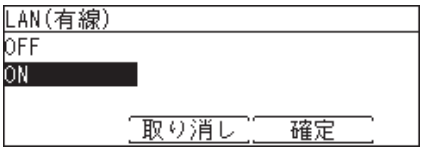
時差の ± を切り替えるには、[ー] または [+] を押します。

LAN (有線) を設定する

1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」(1-15 ページ) を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「LAN(有線)」を選択し、[確定] を押します。**

3 **「ON」または「OFF」を選択し、[確定] を押します。**



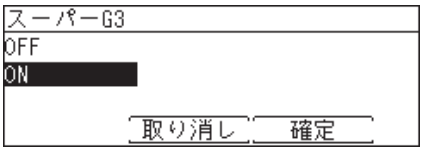
OFF に設定すると、ネットワーク設定画面やインターネットファクスなど、ネットワーク機能が使用できなくなります。

スーパー G3 を設定する

1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」(1-15 ページ) を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「スーパー G3」を選択し、[確定] を押します。**

3 **「ON」または「OFF」を選択し、[確定] を押します。**

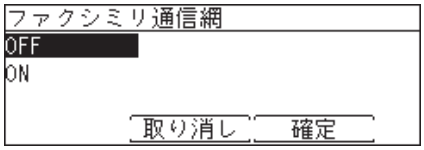


ファクシミリ通信網を設定する

1 **設置モードを表示します。**
詳しくは、「設置モードを表示する」（1-15 ページ）を参照してください。

2 **設置モードのメニューから「ファクシミリ通信網」を選択し、[確定]を押します。**

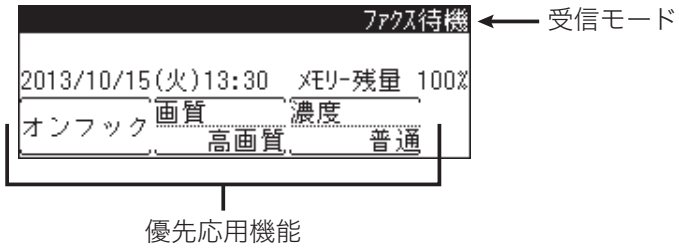
3 **「ON」または「OFF」を選択し、［確定］を押します。**



ファクス待機画面とコピー画面について

通常はファクス待機画面が表示されていますが、〈コピー〉を押すとコピー画面に切り替わります。

ファクス待機画面



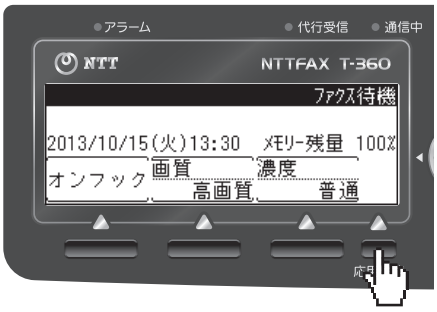
- 工場出荷時の設定では、[オンフック] [画質]、[濃度] が優先応用機能として表示されます。
- 優先応用機能の表示は変更することができます。変更のしかたについては、「優先応用機能を変更する」（7-21 ページ）を参照してください。

コピー画面

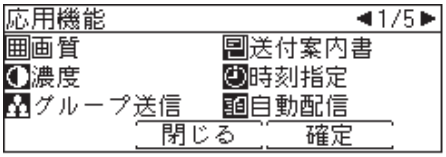
- コピー画面の応用機能は変更できません。
- コピー画面からファクス待機画面に戻るには、〈リセット〉を押します。
- 画面自動リセット時間を経過すると、ファクス待機画面に戻ります。

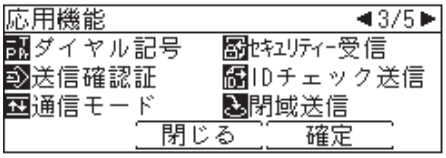
ファクス応用機能画面について

ファクス待機画面で〈応用機能〉を押すと、使用できる機能の一覧が表示されます。



応用機能一覧





補足

上記機能一覧は設定状態によって、表示されない機能や使用できない機能があります。

機能アイコンについて

初期値から設定内容が変わったときに、待機画面にアイコンが表示されます。
たとえば、「画質」を初期値の高画質から超高画質に変更した場合、以下のように機能アイコンが表示されます。

ファクス機能アイコン一覧

画質	グループ送信	短縮送信	済スタンプ	濃度
送付案内書	自動受信	オンフック	ダイヤル記号	時刻指定
メモリー送信	発信元名	送信確認証	ID チェック送信	ポーリング
F コード原稿	F コード送信	F コードポーリング	閉域送信	ポーリング原稿
優先応用機能	メールアドレス	メール履歴	ファイル形式	メール編集
分割送信	POP 受信	通信モード		

コピー機能アイコン一覧

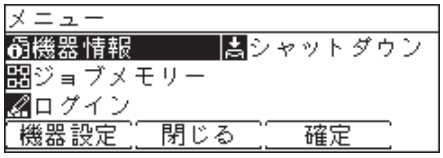
画質	濃度	仕分け

補 足

設定状態によって、表示されないアイコンや使用できない機能があります。

メニュー画面

〈メニュー〉を押すと表示されます。



名称	説明
機器情報	読み取り枚数やプリント枚数など、機器の情報を表示します。
ジョブメモリー	登録したジョブメモリーを実行できます。 ジョブメモリー機能については、「ジョブメモリーを使用する」（7-23 ページ）を参照してください。
ログイン	本商品にユーザーログインするときに使用します。（→ 1-26 ページ） ログイン中は、待機画面にログインユーザー名が表示されます。 ログアウトするときは、「ログアウト」を選択し、［確定］を押します。 （ログイン中は、「ログイン」の表示が「ログアウト」に変わります）
シャットダウン	電源スイッチを OFF にするときは、必ずシャットダウン操作を行ってください。（→ 1-12 ページ） シャットダウン操作をしなかった場合、本商品に保存されているデータが消えることがあります。

ログインする／ログアウトする

利用者個人ごとに本商品を使用するときは、個人ごとのユーザーを登録し、ログインを行います。ログインすると、以下の機能が利用できます。

- 個人用の宛先表や個人用のグループを登録し、宛先を指定するときに、個人用の宛先表や短縮番号、グループ番号を使用できる。
- 通信管理レポートの送信欄にユーザー名をプリントできる。
- ユーザーごとに使用状況（コピー、ファクスの枚数）を管理できる。

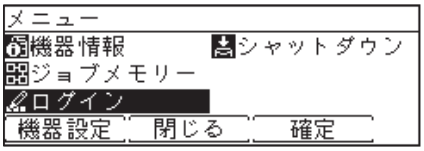
補足

- 「ログイン」をご愛用スイッチに登録すると、ワンタッチでログイン／ログアウト画面を切り替えることができます。（→ 7-22 ページ）
- ログインユーザーの登録については、『ネットワーク管理編』第 4 章の「使用するユーザーを登録する」を参照してください。

ログインする

1 **〈メニュー〉を押します。**

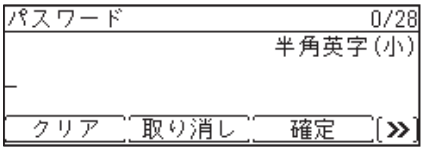
2 **「ログイン」を選択し、［確定］を押します。**



3 **ユーザー ID を選択し、［確定］を押します。**

・［ユーザー入力］を押すと、ユーザー ID を直接入力できます。
・マシンポリシーの設定によっては、ユーザー ID 選択画面ではなくユーザー ID 入力画面が表示されます。
・パスワードが設定されている場合は、手順 4 に進みます。

4 **パスワードを入力し、［確定］を押します。**



補足

マシンポリシー設定については、『ネットワーク機能編』第 4 章の「セキュリティーを設定する」の「マシンポリシーを設定する」を参照してください。

ログアウトする

ログアウトするには、手動でログアウトする方法と自動的にログアウトする方法があります。ここでは、手動でログアウトする方法を説明します。

補足

- 自動ログアウト時間の設定については、「自動ログアウト時間を設定する」(8-21 ページ) を参照してください。
- 読み取り終了後にログアウトするように設定できます。設定の詳細は、「初期値設定一覧」(7-12 ページ) を参照してください。

1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **「ログアウト」を選択し、[確定] を押します。**

3 **[はい] を押します。**

[いいえ] を押すと、ログアウトしません。

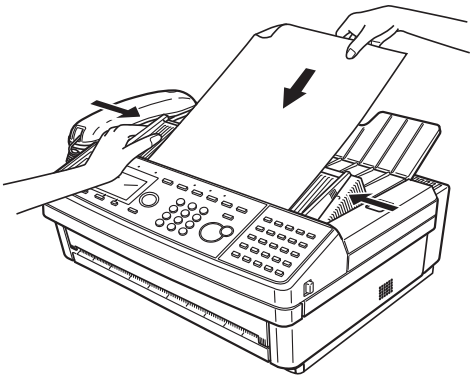
原稿をセットする

原稿をセットするとき

送信やコピーをするときは、次の手順で原稿をセットしてください。

1 **原稿ガイドを左右に動かし、原稿の幅に合わせます。**

2 **送信する面を下向きします。**



・複数の原稿は先端を階段状にずらしてセットしてください。
・最大 30 枚まで一度にセットできます。

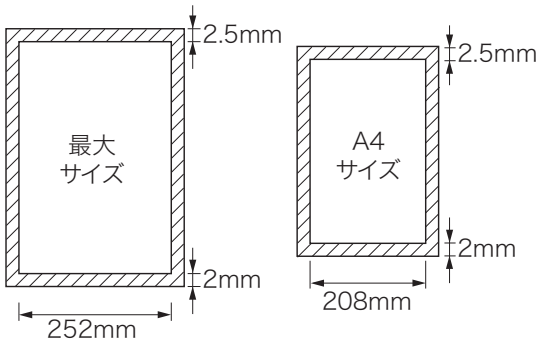
3 **原稿を奥に突き当たるまで差し込みます。**
・セットした原稿を取り出したいときは、〈ストップ〉を押します。
・または原稿カバーを開けて取り出します。

お願い

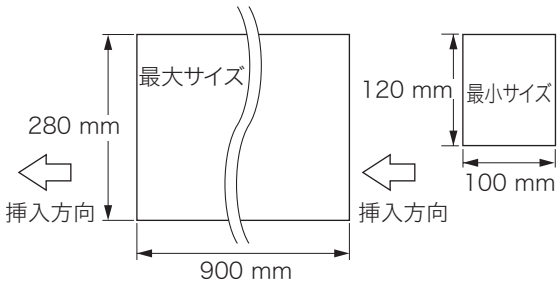
- 原稿ガイドを広げたままセットしないでください。原稿が斜めに読み込まれたり、受信側に縮小して送信されたりします。
- サイズが異なる原稿を一緒にセットしないでください。原稿が斜めに読み込まれたり、受信側に縮小して送信されたり、紙づまりしたりします。

読み取り範囲について

斜線部分に文字を書いても読み取れません。また、本商品でも斜線部分には記録できません。



使用できる原稿サイズ



	1 枚だけ送信する場合	自動連続送信の場合
最　　大	280mm × 900mm	257mm×364mm（JIS B4）
最　　小	120mm × 100mm	148mm×105mm（JIS A6）
一度のセット枚数	−	30 枚 *1
原稿の紙厚 *2	0.05mm ～ 0.15mm	0.06mm ～ 0.13mm
原稿の紙質	上質紙相当	

＊1　厚みによりセットできる枚数が減る場合があります。

＊2　新聞紙の紙厚が 0.05 ～ 0.06mm、上質紙が 0.10mm、郵便はがきが 0.23mm です。

補 足

900mm 以上の長さの原稿を送信される場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）までご連絡ください。

原稿をセットするときの注意

- ホッチキス、クリップ、セロハンテープを取り除いてください。
- 次のような原稿は複写機でコピーをとるか、キャリアシート（別売品）を使って送信してください。なお、キャリアシートは 1 枚ずつ、単独で使用してください。複数枚の原稿をセットするときは、キャリアシートは使用できません。

原稿の種類	キャリアシートを使用する	複写機でコピーをとる
紙が厚い原稿（0.15mm 以上）	×	○
紙が薄い原稿（0.05mm 未満）	○	○
破れている原稿、穴があいている原稿	○	○
シワやカールが激しい原稿	○	○
静電気で密着した原稿、湿った原稿	○	○
最小サイズより小さい原稿	○	○
インク、スタンプ、修正液など完全に乾いていない原稿	○	○
裏がカーボンになっている原稿	○	○
布地	×	○
金属シート	×	○

（空白ページ）

第２章

ファクス機能を使う

ファクス送信の基本操作 2-3
ファクス送信のしかた 2-3
手動送信する 2-4
スピーカーボリュームを調整する 2-4
読み取りに関する設定 2-5
画質 2-5
濃度 2-5
済スタンプ 2-6
送信に関する設定 2-7
複数の宛先へ一度に送信する（同報送信） 2-7
送信宛先を確認する（宛先確認） 2-7
リダイヤルする 2-8
送付案内書を付けて送信する（送付案内書） 2-9
送信時刻を指定する（時刻指定送信） 2-12
メモリー送信／リアルタイム送信を切り替える 2-13
発信元情報を送信する 2-14
ダイヤル記号について 2-15
通信モードを選択して送信する 2-15
ポーリング送信／受信をする 2-16
ファクスを中止・確認する 2-19
送信中のジョブを中止・確認する 2-19
通信予約中のジョブを中止・確認する 2-20
同報送信の宛先を個別に中止・確認する 2-21
通信結果を確認・プリントする 2-22
蓄積原稿リストをプリントする 2-23
受信のしかた 2-24
受信方法について 2-24
手動で受信する（電話待機） 2-25
自動で受信する 2-26
増設電話でファクスを受ける（リモート受信） 2-28
受信中の動作について 2-29
受信中の表示について 2-29
代行受信について 2-29
受信中の動作について 2-30

1 回線で複数の番号をつける（ダイヤルイン）.....2-31
ダイヤルインについて.....2-31
ダイヤルインサービスのときの動き.....2-32
受信文書を配信する（自動配信）.....2-33
設定項目について.....2-33
配信設定を登録／変更する.....2-35
自動配信を設定する.....2-38
ダイレクトメールを防止する.....2-39
ダイレクトメール防止を設定する.....2-40
ダイレクトメール防止リストをプリントする.....2-41
セキュリティー通信機能.....2-42
ファクス通信する相手を限定する（閉域通信）.....2-42
特定の相手機とだけポーリングする（パスコードポーリング）.....2-44
パスコードを登録する.....2-45
相手機番号を確認してから送信する（ID チェック送信）.....2-47
宛先を確認してから送信する（宛先確認）.....2-48
宛先を 2 度入力してから送信する（2 度押し）.....2-49
同報送信を禁止する（同報送信）.....2-51
受信文書をメモリーに蓄積する（セキュリティー受信）.....2-52
F コード通信機能.....2-54
F コードボックスについて.....2-54
F コードボックスを登録する.....2-55
F コードボックスを変更する.....2-59
F コードボックスを削除する.....2-60
F コードボックスリストをプリントする.....2-60
掲示板ボックスへ文書を保存する.....2-61
掲示板ボックスの文書を削除する.....2-62
F コード受信通知について.....2-63
F コードボックス内の文書をプリントする.....2-64
F コードボックスへ送信する（F コード送信）.....2-65
F コードボックスの文書を受信する（F コードポーリング）.....2-66

ファクス送信の基本操作

ファクス送信のしかた

1 **原稿をセットします。**

原稿のセットのしかたについては、「原稿をセットする」（1-28 ページ）を参照してください。

2 **必要に応じて各種機能の設定を行います。**

・読み取りに関する設定（→ 2-5 ページ）
・送信に関する設定（→ 2-7 ページ）

3 **宛先を指定します。**

宛先の指定方法については、「宛先を指定する」（5-2 ページ）を参照してください。

4 **複数の宛先を指定する場合は、手順 3 の操作を繰り返します。**

指定した宛先の確認、削除ができます。詳しくは、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

5 **宛先に間違いがなければ、〈スタート〉を押します。**

2 箇所以上の宛先を選択したときは、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

補 足

- 送信を中止したい場合は、〈通信確認 / ファクス中止〉または〈ストップ〉を押してください。詳しくは、「ファクスを中止・確認する」（2-19 ページ）を参照してください。
- 予約番号は、ファクスを中止／確認するときの確認に使えます。
- 送信予約は最大 30 件まで可能です。通信予約が 30 件ある状態では自動送信できません。この場合は、手動送信（→ 2-4 ページ）を行ってください。

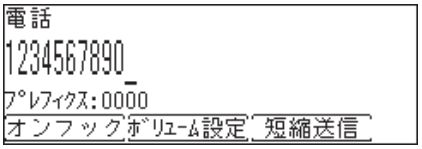
手動送信する

相手機が手動受信に設定されている場合や、会話の後で送信する方法です。

1 **原稿をセットします。**

2 **［オンフック］を押すか、ハンドセットを上げます。**
〈応用機能〉を押して、「オンフック」を選択して［確定］を押しても同じ動作になります。

3 **ツーという回線音を確認し、ダイヤルします。**



テンキー、ワンタッチキー、短縮送信、宛先表を使って宛先を指定できます。

4 **相手側が手動受信のときは、相手側でファクス受信操作をしてもらいます。**

5 **「ピープルプル」というファクス交信音が聞こえたら、〈スタート〉を押します。**
ハンドセットを上げてダイヤルしたときは、ハンドセットをもとに戻します。

補足

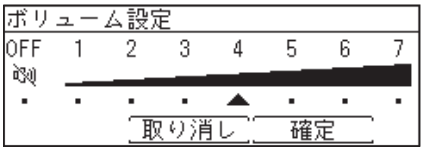
- 送信を中止したい場合は、〈通信確認 / ファクス中止〉または〈ストップ〉を押してください。詳しくは、「ファクスを中止・確認する」(2-19 ページ) を参照してください。
- 相手の番号を間違えたときは、［オンフック］を押すかハンドセットをもとに戻して電話をきり、初めからやり直してください。
- 本商品がダイヤル回線に接続されている場合に、一時的に PB 信号の発信を行うには、〈応用機能〉を押して、「トーン」を選択して［確定］を押します。「/T」記号が入力されます。
- 「プレフィクス」を付加するときは、〈応用機能〉を押して、「プレフィクス」を選択し、［確定］を押します。「/N」記号が入力されます。

スピーカーボリュームを調整する

1 **［オンフック］を押します。**
〈応用機能〉を押して、「オンフック」を選択して［確定］を押しても同じ動作になります。

2 **［ボリューム設定］を押します。**

3 **カーソルキーで音量レベルを選択し、［確定］を押します。**



4 **［オンフック］を押します。**

読み取りに関する設定

〈応用機能〉を押して、原稿読み取りに関する設定を行います。
ファクス送信のしかたについては、「ファクス送信の基本操作」(2-3 ページ）を参照してください。

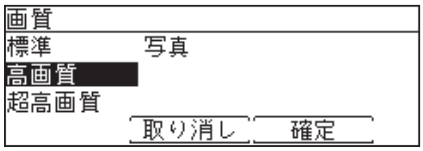
1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **機能を選択し、[確定] を押します。**

3 **設定を選択し、[確定] を押します。**
他の機能を組み合わせる場合は、手順 1 から操作を繰り返します。

画質

原稿に合わせて、読み取り画質を選択します。



標　準　：普通の文字の原稿を送信するとき
高画質　：小さな文字の原稿を送信するとき（新聞など）
超高画質*1　：精密なイラストや辞書のような細かい文字を送信するとき
写　真　：写真を送信するとき

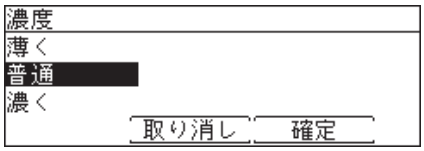
＊1　「超高画質」は相手機により使用できない場合があります。

補足

ファクス待機画面では、[画質] を押すごとに読み取り画質が変わります。

濃度

原稿に合わせて、読み取り濃度を選択します。



薄く　：薄く読み取りたいときに選択します。
普通　：標準の原稿を読み取りたいときに選択します。
濃く　：濃く読み取りたいときに選択します。

補足

ファクス待機画面では、[濃度] を押すごとに読み取り濃度が変わります。

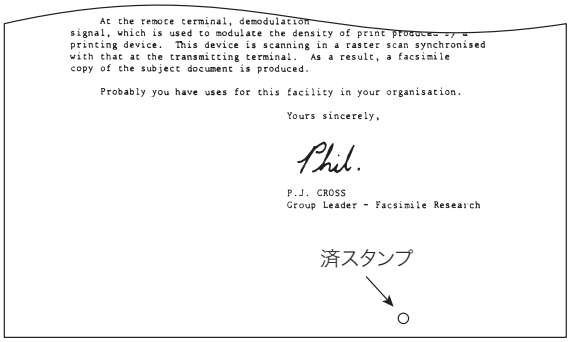
済スタンプ

読み取り完了した原稿にスタンプを押します。〈済スタンプ〉を押すか、〈応用機能〉を押して「済スタンプ」を選択します。

- 〈済スタンプ〉を押した場合は、ランプが点灯しているときにスタンプを押します。
- 〈応用機能〉を押して「済スタンプ」を選択したときは、ON または OFF を選択します。
  OFF　：済スタンプ機能を OFF にします。
  ON　：自動原稿送り装置で読み取った原稿にスタンプを押します。

補 足

A4 サイズの原稿では、およそ下図の位置に済スタンプが押されます。



送信に関する設定

複数の宛先へ一度に送信する（同報送信）

送信時に目的の宛先をすべて指定することで、同じ原稿がすべての宛先へ順次送信されます。同報送信する場合は、以下の方法で宛先を指定します。

- テンキーで直接入力したり（→ 5-7 ページ）、〈リダイヤル〉で指定したりする（→ 5-8 ページ）（最大 30 件まで）
- ワンタッチキーで指定する（最大 25 件まで）（→ 5-4 ページ）
- 短縮送信を使う（最大 500 件まで）（→ 5-4 ページ）
- 宛先表から指定する（最大 500 件まで）（→ 5-2 ページ）
- グループ宛先を指定する（最大 100 グループまで）（→ 5-6 ページ）

補 足

- 「セキュリティー通信機能」（2-42 ページ）で同報送信が OFF に設定されている場合や、手動送信（→ 2-4 ページ）では、同報送信はできません。
- 同報送信中に、リアルタイム送信（→ 2-13 ページ）やポーリング受信（→ 2-18 ページ）を行うと、同報送信に割り込んで優先的に送信します。

送信宛先を確認する（宛先確認）

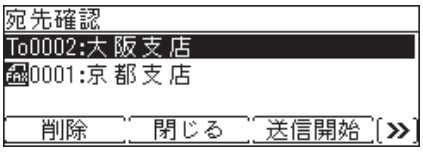
送信する前に、指定した宛先の確認や削除ができます。インターネットファクス送信の場合は、宛先の「To」、「Cc」、「Bcc」を変更することもできます。

1 **宛先指定後、待機画面が表示されている状態で、〈応用機能〉を押します。**

2 **「宛先確認」を選択し、［確定］を押します。**

宛先が 1 件も指定されていないときは、「宛先確認」は表示されません。

3 **宛先に間違いがないか確認してください。**



・宛先を削除するときは、削除したい宛先を選択して［削除］を押します。
・宛先を追加する場合は、［閉じる］を押してから、宛先を追加します。

・インターネットファクス宛先の「To」、「Cc」、「Bcc」を変更するときは、〈応用機能〉を押して［To/Cc/Bcc］を表示させ、宛先を選択してから［To/Cc/Bcc］を押します。

4 宛先に間違いがなければ、［送信開始］または〈スタート〉を押します。

補足

- 工場出荷時の設定では、2 箇所以上の宛先を指定して〈スタート〉を押したときに、宛先確認画面を表示する設定になっています。
- 設定には、常に宛先確認画面を表示する設定、2 箇所以上の宛先を指定したときだけ宛先確認画面を表示する設定、宛先確認画面を表示しない設定があります。設定変更のしかたについては、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

リダイヤルする

リダイヤルには、手動リダイヤルと自動リダイヤルがあります。

❑ 手動リダイヤル

本商品のテンキーを使ってダイヤルした電話番号や手動送信で送った宛先の番号を、最新の 10 件まで記憶しています。記憶された電話番号を指定し、再び同じ番号へダイヤルできます。
手動リダイヤルの操作方法については、「ダイヤル履歴から選択する（リダイヤル）」（5-8 ページ）を参照してください。

補足

- 1 件につき 40 桁までの電話番号を記憶します。
- ハンドセットのテンキーや増設電話でダイヤルした番号は、記憶されません。
- ハンドセットのテンキーでダイヤルした場合は、ハンドセットの〈リダイヤル〉を使用します。

❑ 自動リダイヤル

自動送信の場合、相手先が通話中などで送信できなかったときは、一定の時間が過ぎてから自動的にリダイヤルします。
設定した回数のリダイヤルを行っても送信できなかった場合は、メモリーに蓄積した原稿を消去し、エラーメッセージをプリントします。

補足

- 手動送信の場合は自動リダイヤルできません。
- 自動リダイヤル待機中は、液晶ディスプレイに「リダイヤル待ち」と表示されます。
- 自動リダイヤルの回数と間隔は、0 回～ 15 回、0 分～ 5 分の間で変更できます。変更方法については、「その他の初期値設定一覧」（7-17 ページ）を参照してください。
- 自動リダイヤルをキャンセルするには、〈通信確認 / ファクス中止〉または〈ストップ〉を押して通信予約を削除します。詳しくは、「ファクスを中止・確認する」（2-19 ページ）を参照してください。

送付案内書を付けて送信する（送付案内書）

ファクス送信時に、簡単な文書を送付案内書として自動的に付けて送信します。文書はあらかじめ登録しておく必要があります。

❑ 送付案内書の文書を登録／変更する

全角で 60 文字まで（半角で 120 文字まで）の文書を、最大 3 件登録できます。

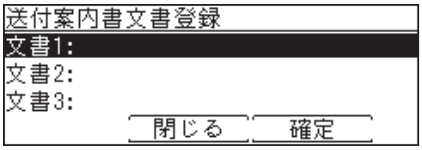
1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **［機器設定］を押します。**

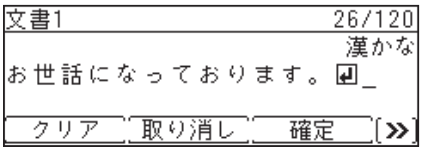
3 **「各種登録」を選択し、［確定］を押します。**

4 **「送付案内書文書登録」を選択し、［確定］を押します。**

5 **文書番号を選択し、［確定］を押します。**



6 **文書を入力し、［確定］を押します。**



・全角で 60 文字（半角で 120 文字）まで入力できます。
・文字入力のしかたは、「文字を入力する」(7-29 ページ）を参照してください。
・［改行］を押すと、改行できます。改行は半角 2 文字分に相当します。
・［内容表示］を押すと、入力した内容を確認できます。
・［改行］や［内容表示］を表示するには、〈応用機能〉を押します。

7 **［閉じる］を押します。**

補 足

- 手動送信では、送付案内書は利用できません。
- 文書を変更するときは、手順 6 で文書を変更し、［確定］を押します。
- 文書を削除するときは、手順 6 で文書を削除し、［確定］を押します。

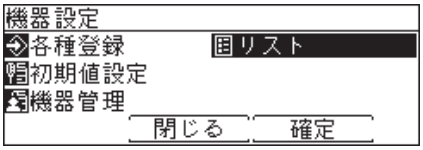
❑ 送付案内書の内容をプリントする

登録した文書をプリントして確認できます。

1 〈メニュー〉を押します。

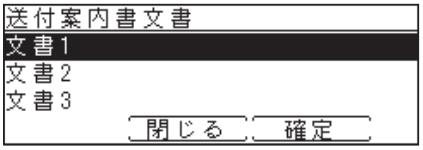
2 [機器設定]を押します。

3 「リスト」を選択し、[確定]を押します。

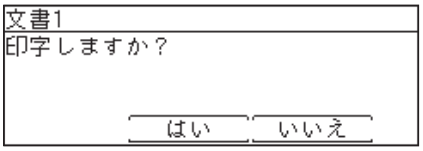


4 「送付案内書文書」を選択し、[確定]を押します。

5 プリントしたい文書を選択し、[確定]を押します。



6 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。



印字例

発信元名、ファクス番号は、設置モードの「発信元名登録／変更」、「発信元番号」で登録された内容が印字されます。詳しくは、「初期設定をする（設置モード）」（1-14 ページ）を参照してください。

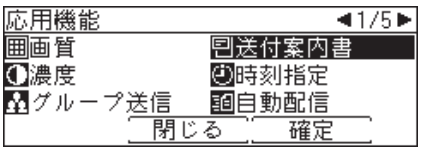
❑ 送付案内書を設定する

送付案内書を自動的に付けて送信するかどうかの設定をします。

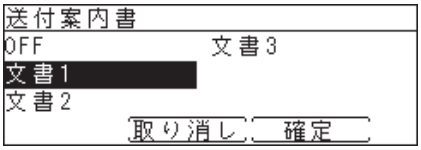
1 **原稿をセットします。**

2 **〈応用機能〉を押します。**

3 **「送付案内書」を選択し、[確定] を押します。**



4 **文書番号を選択し、[確定] を押します。**



送付案内書を送信しない場合は、「OFF」を選択します。

5 **宛先を指定し、〈スタート〉を押します。**

2 箇所以上の宛先を選択したときは、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

補 足

工場出荷時の設定では、送付案内書の初期値は OFF に設定されています。常に送付案内書を付加したい場合は、初期値を変更してください。（→ 7-17 ページ）

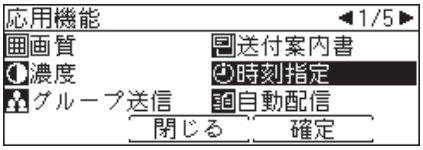
送信時刻を指定する（時刻指定送信）

1 か月先までの送信日時を指定できます。

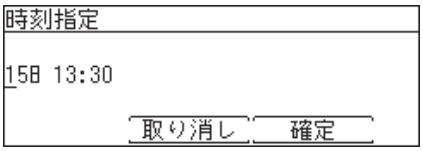
1 **原稿をセットします。**

2 **〈応用機能〉を押します。**

3 **「時刻指定」を選択し、［確定］を押します。**



4 **送信日時を入力し、［確定］を押します。**



時刻は 24 時間制で入力します。

5 **宛先を指定し、〈スタート〉を押します。**

2 箇所以上の宛先を選択したときは、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

補 足

- 〈通信確認／ファクス中止〉または〈ストップ〉で通信予約の確認や削除ができます。
- 予約後に送信時刻を変更する場合は、予約した通信ジョブをキャンセルし、最初から設定し直します。

メモリー送信／リアルタイム送信を切り替える

原稿を読み取る場合に、メモリー送信とリアルタイム送信を一時的に切り替えることができます。

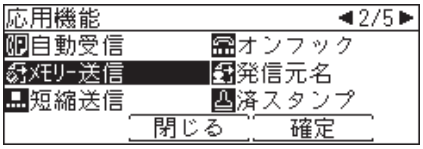
メモリー送信
原稿をメモリーに蓄積してから送信する方法です。

リアルタイム送信
原稿をメモリーに蓄積せずに送信する方法です。
メモリー残量が少なく原稿を蓄積できないときなどに使用します。

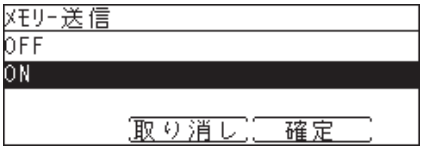
1 **原稿をセットします。**

2 **〈応用機能〉を押します。**

3 **「メモリー送信」を選択し、[確定]を押します。**



4 **「ON」または「OFF」を選択し、[確定]を押します。**



・ON：メモリー送信
・OFF：リアルタイム送信

5 **宛先を指定し、〈スタート〉を押します。**

補足

宛先を 2 箇所以上指定した場合は、設定に関係なくメモリー送信を行います。

発信元情報を送信する

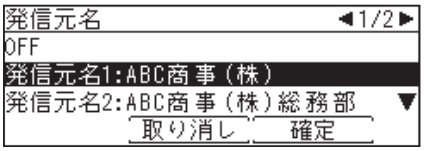
送信した原稿の先頭に、発信元情報（発信元名、ファクス番号）をつけるかつけないかの設定ができます。ここでは一時的な発信元送信の設定の操作を説明します。
初期値を変更する場合は、「送信初期値設定一覧」（7-17 ページ）を参照してください。

1 **原稿をセットします。**

2 **〈応用機能〉を押します。**

3 **「発信元名」を選択し、［確定］を押します。**

4 **発信元名を選択し、［確定］を押します。**
OFF にすると発信元名を送信しません。



5 **宛先を指定し、〈スタート〉を押します。**
2 箇所以上の宛先を選択したときは、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

補 足

発信元名は、設置モードの発信元名の登録で登録できます。設置モードについては、「初期設定をする（設置モード）」（1-14 ページ）を参照してください。

ダイヤル記号について

ダイヤル時にポーズの挿入や PB 信号切り替えを行うには、[ダイヤル記号] を押してダイヤル記号を入力します。ダイヤル記号は、宛先表の登録時にも使用できます。

記号名称	表示記号	機能および用途
ハイフン	–	入力したダイヤル番号を見やすくします。
トーン	/T	本商品がダイヤル回線に接続されている場合に、一時的に PB 信号の発信をしたいときに入力します。
ポーズ	/P	以下のような場合に、ポーズを入力します。 ・海外へダイヤルするとき ・内線から外線にダイヤルするとき ・ファクシミリ通信網を利用するとき ポーズ記号 1 つにつき約 3 秒間のポーズを入力できます。ポーズ時間を長くするときは、ポーズ記号を複数入力します。 ポーズ記号 1 つあたりのポーズ時間を変更することもできます。変更のしかたについては、「ファクス機能の初期値を設定する」の「その他の初期値設定一覧」(7-17 ページ）を参照してください。
プレフィクス	/N	ダイヤル番号の先頭に入力し、登録したプレフィクス番号を付加できます。プレフィクス番号の登録のしかたについては、「ファクス機能の初期値を設定する」の「その他の初期値設定一覧」(7-17 ページ）を参照してください。
第 1 発信	/D	内線からの 0 発信（第 1 発信音）のときに使います。ポーズ（/P）を代用することも可能です。 (例）0/D075-111-2222
第 2 発信	/S	ファクシミリ通信網や海外通信（準 ISD）のときに使います。一部の地域によっては第 2 発信音が出ない場合もありますので、その場合はポーズ（/P）で代用可能です。 (例）161/S075-111-2222

通信モードを選択して送信する

通信モード選択機能キーを押すことにより、特定通信モード (特定の送信設定にて通信します）で送信することが可能になります。

1 **原稿をセットします。**

2 **〈通信モード選択機能〉を押します。**

ご愛用スイッチに〈通信モード選択機能〉を設定していない場合は、〈応用機能〉→「通信モード」と選択し、[確定] を押します。次に「特定通信」を選択し、[確定] を押します。

3 **宛先を指定し、〈スタート〉を押します。**

補 足

- 特定通信の送信設定を調整することができますが、工事保守者による設定が必要です。詳しくは NTT 通信機器お取扱相談センタにお問い合わせください。
- 常に特定通信をする設定にすることもできます。(→ 7-17 ページ)

ポーリング送信／受信をする

受信側から電話をかけて、相手のファクスに保存されている文書を受信したり（ポーリング受信）、相手からの指示で送信される原稿をあらかじめ保存したり（ポーリング送信）できます。

ポーリング送信

相手からのポーリング指示で送信される原稿を、あらかじめメモリーに保存しておく機能です。ポーリング送信時の電話料金は、相手（受信側）の負担になります。

F コードボックスの掲示板ボックスに原稿を保存しておく方法もあります。詳しくは、「掲示板ボックスへ文書を保存する」（2-61 ページ）を参照してください。

ポーリング受信

相手側に保存されている文書を、こちら側の指示で送信させる機能です。電話料金はこちら側（受信側）の負担になります。

F コードを用いたポーリング受信もあります。詳しくは、「F コードボックスの文書を受信する（F コードポーリング）」（2-66 ページ）を参照してください。

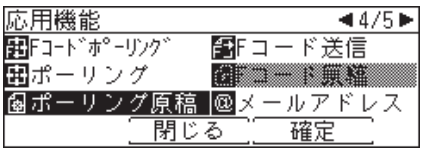
❑ ポーリング送信用の原稿を蓄積する

ポーリング送信用の原稿は、1 文書のみ蓄積できます。

1 **原稿をセットします。**

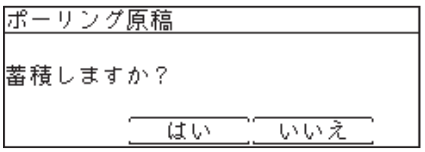
2 **〈応用機能〉を押します。**

3 **「ポーリング原稿」を選択し、［確定］を押します。**



4 **「蓄積」を選択し、［確定］を押します。**

5 **確認画面が表示されたら、［はい］を押します。**



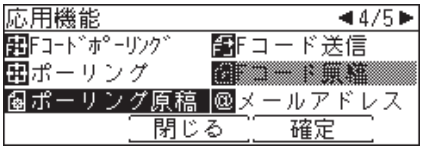
補 足

- すでにポーリング原稿が蓄積されている場合は、他の文書を蓄積することができません。文書を入れ替える場合は、先にポーリング原稿の削除をしてください。ポーリング原稿の削除については、「ポーリング送信用の原稿を削除する」（2-17 ページ）を参照してください。
- パスコードを登録してポーリング送信する相手を制限できます。詳しくは、「特定の相手機とだけポーリングする（パスコードポーリング）」（2-44 ページ）を参照してください。
- 本商品のメモリー残量が少ないときは着信できないため、ポーリング送信もできません。メモリーに蓄積されている文書を印字するなどし、メモリー容量を空けてください。

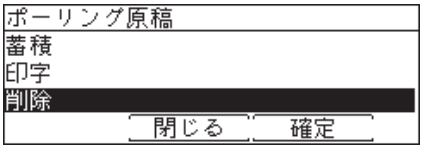
❑ ポーリング送信用の原稿を削除する

1 〈応用機能〉を押します。

2 「ポーリング原稿」を選択し、[確定]を押します。



3 「削除」を選択し、[確定]を押します。

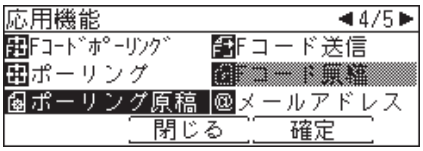


4 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。

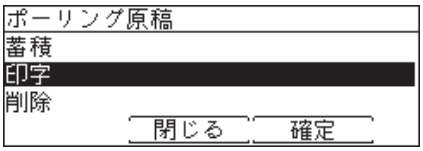
❑ ポーリング送信用の原稿を印字する

1 〈応用機能〉を押します。

2 「ポーリング原稿」を選択し、[確定]を押します。



3 「印字」を選択し、[確定]を押します。



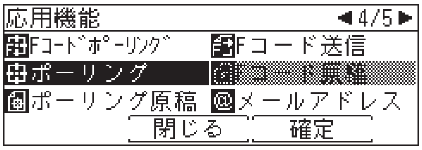
4 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。

❑ ポーリング受信

こちら側からの指示で相手機に保存されている原稿を送信させる機能です。電話料金はこちら側（受信側）の負担になります。

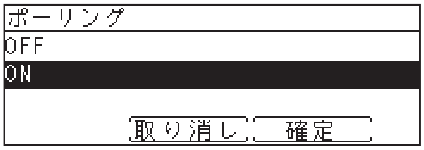
1 〈応用機能〉を押します。

2 「ポーリング」を選択し、[確定] を押します。



3 「ON」を選択し、[確定] を押します。

ポーリング受信をしないときは、OFF を選択します。



4 宛先を指定し、〈スタート〉を押します。

2 箇所以上の宛先を選択したときは、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

補 足

パスコードを登録してポーリングする相手を制限できます。詳しくは、「特定の相手機とだけポーリングする（パスコードポーリング）」（2-44 ページ）を参照してください。

ファクスを中止・確認する

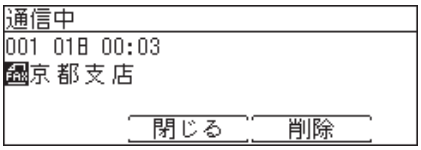
ファクス送信を中止するときや、通信予約を確認したいときは、〈通信確認 / ファクス中止〉または〈ストップ〉を押します。
また、最新の通信結果を表示したり印字したりすることもできます。詳しくは、「通信結果を確認・プリントする」（2-22 ページ）を参照してください。

送信中のジョブを中止・確認する

1 **通信中に〈通信確認 / ファクス中止〉を押します。**

・〈ストップ〉を押しても同じ動作になります。
・通信中のジョブが表示されます。
・通信中は「通信中」ランプが点灯しています。

2 **通信中のジョブを確認し、［削除］を押します。**



ジョブを中止しないときは［閉じる］を押します。

補足

- 送信中のインターネットファクスは中止・確認できません。
- 同報送信の場合は、画面上に「同報宛先」と表示されます。
- 同報送信のすべての宛先を一括して削除する場合は、［削除］を押します。
- 同報送信の宛先を個別に確認したり削除したりするときは、［詳細一覧］を押します。詳しくは、「同報送信の宛先を個別に中止・確認する」（2-21 ページ）を参照してください。

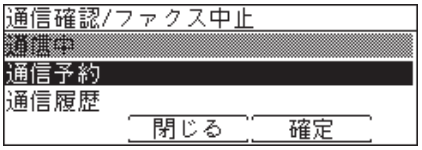
通信予約中のジョブを中止・確認する

時刻指定送信で送信予約した通信や、相手が通話中だったためリダイヤル待ちになっている通信を確認したり、中止したりできます。

1 **〈通信確認 / ファクス中止〉または〈ストップ〉を押します。**

2 **通信中の画面が表示された場合は、[閉じる] を押します。**

3 **「通信予約」を選択し、[確定] を押します。**



4 **キャンセルしたい通信ジョブを選択し、[削除] を押します。**

・通信予約ジョブは送信予定時刻順に表示されます。
・同報送信は「同報宛先」と表示されます。同報送信の宛先を個別に確認したり削除したりするときは、[詳細一覧] を押します。詳しくは、「同報送信の宛先を個別に中止･確認する」（2-21 ページ）を参照してください。

5 **確認画面が表示されたら、[はい] を押します。**

・選択した通信ジョブが中止されます。
・[いいえ] を押すと手順 4 の画面に戻ります。

同報送信の宛先を個別に中止・確認する

同報送信の宛先を確認したり、個別に消去したりできます。

1 **〈通信確認 / ファクス中止〉または〈ストップ〉を押します。**

2 **現在通信中のジョブがある場合は、通信中の画面が表示されます。**

・現在通信中のジョブがない場合は、手順 4 に進みます。
・現在通信中のジョブが同報送信の場合で、宛先を個別に中止するときは、手順 6 に進みます。

3 **［閉じる］を押します。**

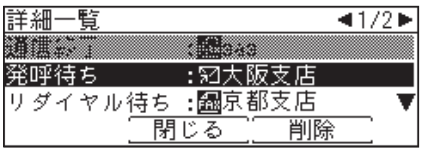
4 **「通信予約」を選択し、［確定］を押します。**

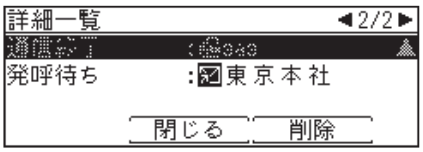
5 **同報送信ジョブを選択します。**

同報送信は「同報宛先」と表示されます。

6 **［詳細一覧］を押します。**

同報送信の詳細一覧画面では、宛先ごとの状況を表示します。
以下は、同報宛先が 5 件の場合の例です。





・発呼待ち　　：まだ送信していない宛先です。
・実行中　　：現在通信中の宛先です。
・通信終了　　：通信が終了した宛先です。グレー表示されます。
・消去中　　：［削除］を押した後、削除完了するまで表示されることがあります。
・削除済み　　：送信中止された宛先です。グレー表示されます。
・リダイヤル待ち：リダイヤル待ちの宛先です。

7 **中止したい宛先を選択し、［削除］を押します。**

選択した宛先への送信がキャンセルされます。

8 **［閉じる］を押します。**

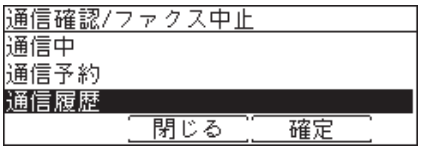
通信結果を確認・プリントする

通信履歴を画面上で確認したり、プリントしたりできます。

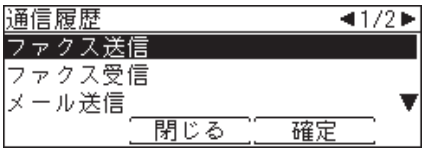
1 **〈通信確認 / ファクス中止〉を押します。**

2 **通信中の画面が表示された場合は、［閉じる］を押します。**

3 **「通信履歴」を選択し、［確定］を押します。**



4 **通信履歴を表示したい項目を選択し、［確定］を押します。**



・［ファクス送信］　：ファクスの送信履歴を表示します
・［ファクス受信］　：ファクスの受信履歴を表示します
・［メール送信］　：インターネットファクスの送信履歴を表示します
・［メール受信］　：インターネットファクスの受信履歴を表示します
・［フォルダー送信］　：自動配信またはアーカイブにて、フォルダーに送信された文書の履歴を表示します

5 **通信履歴を確認します。**

・詳細を表示したい場合は、［詳細表示］を押します。
・詳細を印字したい場合は、［詳細印字］→［はい］を押します。

補足

- 「ファクス送受信」、「メール送受信」のそれぞれで、最新の通信結果 100 通信分の確認やプリントができます。
- 通信履歴をまとめてプリントしたいときは、「通信管理レポート」をプリントします。詳しくは、「通信履歴を管理する」（6-4 ページ）を参照してください。

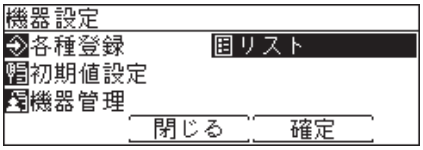
蓄積原稿リストをプリントする

本商品に蓄積されている原稿（送信予約原稿、受信原稿、ポーリング原稿、F コードボックス原稿）のメモリー使用量や蓄積枚数などをプリントします。

1 〈メニュー〉を押します。

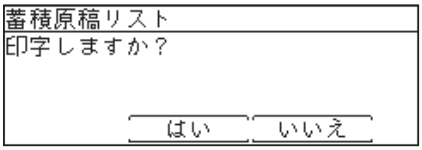
2 ［機器設定］を押します。

3 「リスト」を選択し、［確定］を押します。



4 「蓄積原稿リスト」を選択し、［確定］を押します。

5 確認画面が表示されたら、［はい］を押します。



受信のしかた

受信方法について

ファクスの受信方法には、相手がファクスであることを確認してから手動で受信する「手動受信」と、本商品が自動的にファクスを受信する「自動受信」があります。

❑ 受信方法の種類

- 手動受信をする場合は、「電話待機」に設定します。
- 自動受信には、「ファクス待機」、「ファクス／電話待機」、「電話／ファクス待機」、「留守／ファクス待機」、「ダイヤルイン待機」の 5 種類のモードがあります。
- 自動受信モードの設定は、「ファクス受信モードを設定する」（1-17 ページ）を参照してください。

❑ 電話待機に設定する

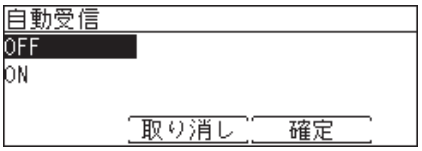
自動受信を「OFF」に設定すると、電話待機（手動受信）になります。

1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **「自動受信」を選択し、［確定］を押します。**

3 **「OFF」を選択し、［確定］を押します。**

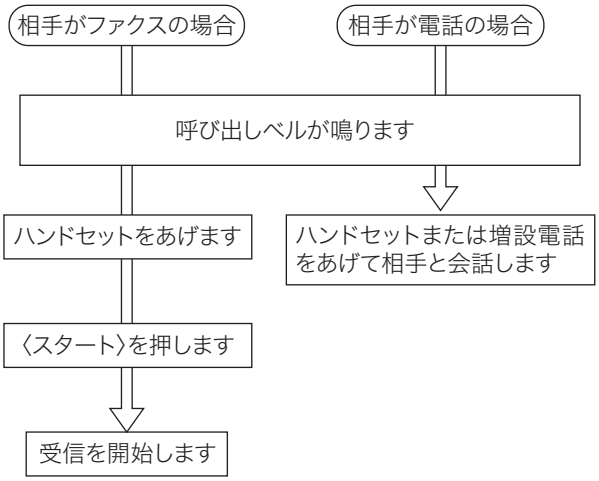
自動受信に設定するときは「ON」に設定します。



手動で受信する（電話待機）

手動でファクスを受信するには、電話待機に設定します。（→ 2-24 ページ）

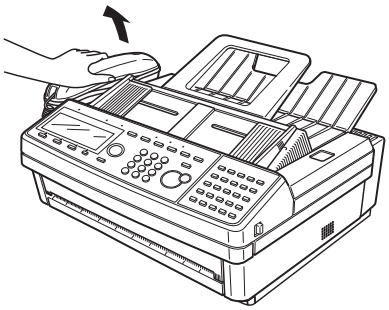
❑ 電話を中心に使用する（電話待機）



❑ 手動受信のしかた

1 **ベルが鳴ったらハンドセットを上げます。**

“ ポーポー ” と音が聞こえたり、無音のときは相手はファクスです。



2 **原稿がセットされていないことを確認してから、〈スタート〉を押します。**

原稿がセットされている状態で〈スタート〉を押すと、手動送信状態になり、受信できません。

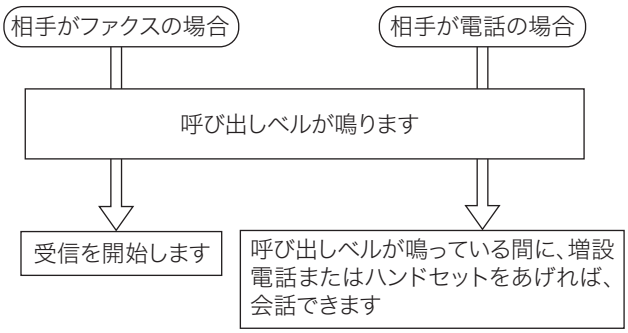
3 **ハンドセットを戻します。**

補 足

増設電話機でファクスを受けたときは、「増設電話でファクスを受ける（リモート受信）」（2-28 ページ）を参照してください。

自動で受信する

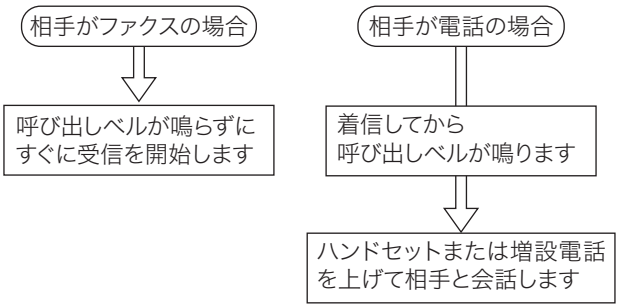
❑ ファクス専用で自動受信する（ファクス待機）



補 足

- 呼び出しベル回数は、0 ～ 10 回の間で設定できます。詳しくは、「その他の初期値設定一覧」（7-17 ページ）を参照してください。
- 電話を受けるには、増設電話またはハンドセットの接続が必要です。
- 本商品から呼び出し音が鳴るように設定できます。詳しくは、「初期値設定一覧」（7-12 ページ）の「呼び出し音」を参照してください。

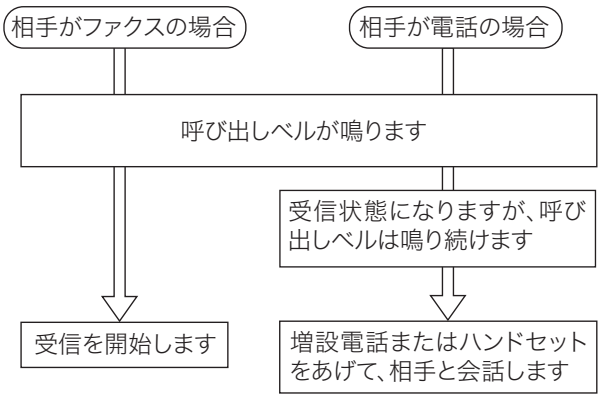
❑ ファクスを優先して電話も受ける（ファクス / 電話待機）



補 足

- 呼び出しベル回数は、0 ～ 10 回の間で設定できます。詳しくは、「その他の初期値設定一覧」（7-17 ページ）を参照してください。
- 相手が電話のときは、着信してからベルが鳴りますので、相手をお待たせするとともに電話料金がかかります。
- 本商品にはファクス／電話自動切り替えの際に送出する音声応答メッセージはありません。ただし、着信応答したことが相手にわかるように本商品から相手に呼び出し音を送出します。
- 相手がファクスの場合でも、接続する電話によってはベル音が鳴ることがあります。

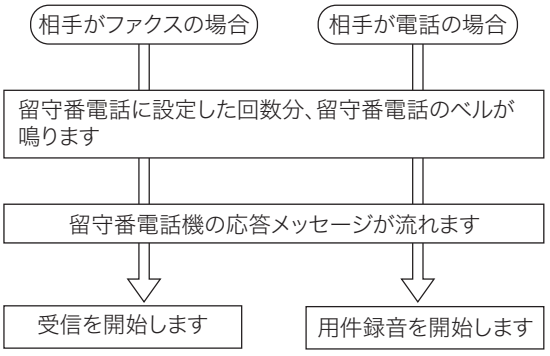
❑ 電話を優先して自動受信もする（電話 / ファクス待機）



補 足

- 呼び出しベル回数は、0 ～ 10 回の間で設定できます。詳しくは、「その他の初期値設定一覧」（7-17 ページ）を参照してください。
- 呼び出しベルが設定した回数を超えるとファクス受信状態になり、相手に電話料金がかかります。

❑ 留守番電話とファクスを兼用する（留守 / ファクス待機）



補 足

- 用件録音がいっぱいなどで留守番電話が応答しない場合は、ファクス受信できません。
- 留守番電話の応答メッセージを送出してから、“ ポーポー ” というファクス信号音を検出するとファクス受信します。相手が手動送信の場合もありますので、応答メッセージに「ファクスの方は送信してください」という旨の録音をされておくことをお勧めします。
- 留守番電話の種類により、留守番電話とファクスが自動で切り替わらない場合があります。
- リモート受信（→ 2-28 ページ）はできません。

増設電話でファクスを受ける（リモート受信）

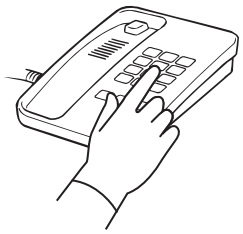
増設電話を離れた場所で使用される場合、増設電話からの操作でファクスを受信状態にすることができます。

1 **増設電話で電話を受けます。**

相手がファクスの場合は「ポーポー」などの音が聞こえるか、または無音です。

2 **ファクスを受信する場合は、増設電話のダイヤルキーで〈5〉〈5〉と押します。**

最初の〈5〉を押した後、3 秒以内に次の〈5〉を押してください。



3 **無音になったことを確認し、受話器を戻します。受信を開始します。**

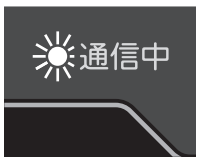
補 足

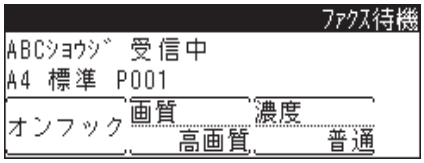
- 通話中に増設電話のダイヤルキーで〈5〉〈5〉を押すと、ファクスに切り替わってしまい、通話できなくなります。
- リモート受信は増設電話の種類や地域などの諸条件により使用できない場合があります。また、以下の場合にもリモート受信は使用できません。
  - こちらから電話をかけたとき
  - 本商品の受信モードが「留守／ファクス待機」のとき
  - 増設電話のダイヤル種別設定と本商品のダイヤル種別設定が一致していないとき
  - 本商品のメモリー残量が少なく、ファクス受信できないとき
- リモート受信は、増設電話からのみ可能です。ハンドセットからはリモート受信できません。
- 本商品が節電モードになっている場合、増設電話のベルが 1 回鳴ったときに電話を受けたときは、リモート受信できないことがあります。

受信中の動作について

受信中の表示について

通信中は通信中ランプが点灯し、液晶ディスプレイに相手先名が表示されます。





補足

- 相手先名は、以下の優先順位で表示されます。
  1　相手機の発信元カナ ID（相手機が当社製の場合のみ）
  2　相手機のファクス番号
  3　相手先名の表示なし（相手機でカナ ID やファクス番号が登録されていない場合）
- 受信中にメモリーオーバーしたときは受信が中止されます。相手に再送信を依頼してください。

代行受信について

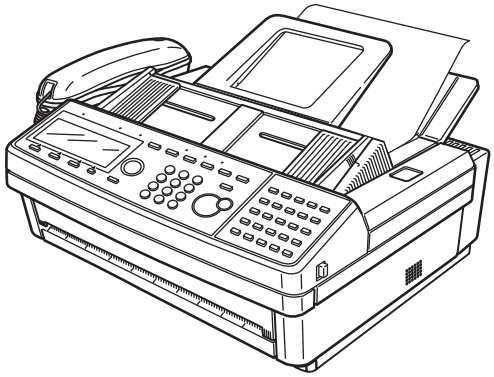
代行受信とは、記録紙なし、記録紙づまりなどでプリントできないときに、受信文書をメモリーに蓄積する機能です。記録紙補給などの処置が終わると、メモリーに蓄積されている文書が自動的にプリントされます。
メモリーに文書が蓄積されているときは、代行受信ランプが点灯します。

補足

- 代行受信中にメモリーオーバーしたときは受信が中断されます。記録紙を補給し、相手に再送信依頼をしてください。
- 本商品のメモリー残量が少ないときは、ファクス受信できません。メモリーに蓄積されている文書をプリントするなどし、メモリー容量を空けてください。
- 代行受信は 100 件まで受信できます。100 件を超えると受信できなくなりますので、早めに記録紙を補給するなど、プリントできるようにしてください。

受信中の動作について

受信した原稿からプリントされます。



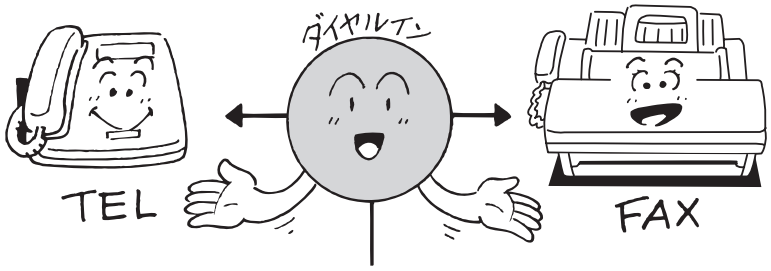
補 足

- プリント中はトップカバーを開けないでください。記録紙づまりの原因になります。
- トップカバー上部に収容できる記録紙の枚数は 50 枚です。記録紙はためすぎないようにしてください。ためすぎると排出不良となり、記録紙づまりの原因となります。

1 回線で複数の番号をつける（ダイヤルイン）

ダイヤルインについて

本商品はダイヤルインを利用し、1 本の回線でファクスと電話を自動的に切り替えて使用することができます。あらかじめファクス用、電話用の内線電話番号を設定し、ダイヤルイン待機モードに設定してください。（→ 1-17 ページ）
ファクス用電話番号にかかってきたときは、呼び出しベルを鳴らさずにファクス受信し、電話用電話番号にかかってきたときは、呼び出しベルを鳴らして呼び出します。



お願い

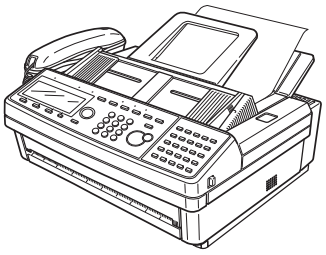
- ダイヤルインのご利用については、利用契約が必要ですので NTT 通信機器お取扱相談センタへお問い合わせください。
- ダイヤルインとナンバー・ディスプレイの両方をご使用になる場合は、モデムダイヤルインの契約を行ってください。
- 停電時は、ハンドセットを使って電話をかけることはできますが、ファクスの送信・受信をすることはできません。ファクス用番号にかかってきた場合でも、電話用番号にかかってきた場合と同じ動作になります。
- 停電時に電話を受けるには、以下のような特別な操作を行う必要があります。
  ①短い間隔の呼び出しベルが鳴り終わるまで待ちます。約 6 秒（ベル音約 7 回）ハンドセットを上げてしまった場合、「ピーガー」という音を聞いたらハンドセットを元に戻してください。その後、再び呼び出しベルが鳴りますので、ハンドセットを上げると通話できます。
  ②呼び出しベルの間隔が長くなったときにハンドセットを上げると通話できます。

ダイヤルインサービスのときの動き

ダイヤルイン待機モード時に、増設電話でナンバー・ディスプレイ機能を利用すると、ファクス受信の際やハンドセットの呼び出しのときにも、増設電話に相手の番号が表示されます。電話とファクスは同時に使用できません。

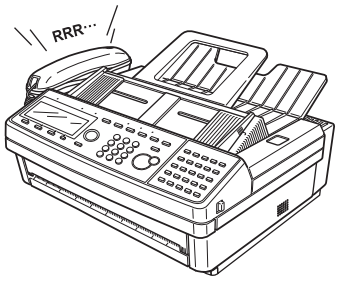
❑ ファクス用番号にかかってきた場合

1 **呼び出しベルを鳴らさず、受信を開始します。**



❑ ハンドセット用番号 / 増設電話用番号にかかってきた場合

1 **呼び出しベルが鳴ります。**

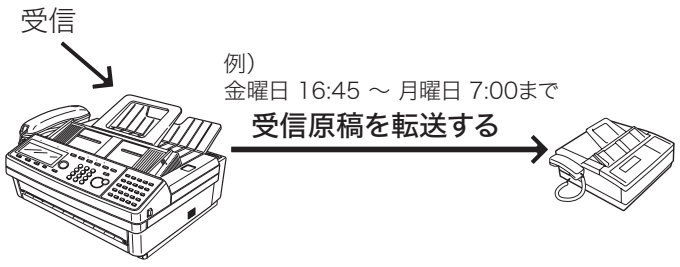


・ハンドセットと増設電話に同じ番号を登録しているときは、同時に呼び出しベルが鳴ります。
・相手が電話を切るまで呼び出しベルが鳴り続きます。

2 **ハンドセットまたは、増設電話の受話器を取って通話します。**

受信文書を配信する（自動配信）

受信したファクス文書を、配信設定に従って自動配信できます。
配信設定は 200 件まで登録できます。



設定項目について

受信モードの設定

受信モードが手動受信（電話待機）に設定されているときは転送できません。この機能を使用される場合は、自動受信に設定してください。設定のしかたについては、「電話待機に設定する」（2-24 ページ）を参照してください。

配信先の指定

配信先は宛先表に登録されている宛先のみ指定できます。あらかじめ宛先表に宛先を登録してください。宛先表の登録のしかたについては、「宛先を登録する」（7-2 ページ）を参照してください。

自動配信の設定

登録した配信設定に従って自動配信するには、自動配信を ON にします。設定のしかたについては、「自動配信を設定する」（2-38 ページ）を参照してください。

配信設定項目の一覧

以下に配信設定項目の一覧を示します。

個別設定		登録した配信設定を ON（有効）にするか、OFF（無効）にするかを設定します。 ただし、自動配信の設定が OFF の場合は、個別設定を ON にしても自動配信しません。
設定名		配信設定名を、すべて半角文字の場合は 30 文字まで入力できます。
配信先		文書の配信先を指定します。配信先は宛先表に登録されている宛先のみ指定できます。
優先度		優先順位を 3 段階で設定できます。
	高	受信文書が複数の配信条件に一致したときに、最優先で適用されます。
	中	受信文書が複数の配信条件に一致したときに、「高」の条件に当てはまらない場合に適用されます。
	低	受信文書が複数の配信条件に一致したときに、「高」「中」の条件に当てはまらない場合に適用されます。

配信条件		受信文書を配信する条件を設定します。 受信文書を無条件で配信するときは設定不要です。
	ファクス番号	特定のファクス番号からの文書だけを配信したい場合に設定します。相手機に登録されているファクス番号か、ナンバー・ディスプレイで通知される番号のどちらかが一致すれば配信します。 ファクス番号は、数字、＃、＊を含めて 24 桁まで入力できます。
	照合方法	「ファクス番号」で設定した番号との照合方法を設定します。 「と一致する」：入力したファクス番号と、相手のファクス番号が完全に一致する場合に配信します。 「から始まる」：相手のファクス番号が、入力したファクス番号で始まる場合に配信します。 たとえば、1234 と登録した場合、相手先ファクス番号が 1234567890 や 123498765 のように 1234 から始まっていれば、受信文書を配信します。 「で終わる」　：相手のファクス番号が、入力したファクス番号で終わる場合に配信します。 たとえば、7890 と登録した場合、相手先ファクス番号が 1234567890 や 654327890 のように 7890 で終わっていれば、受信文書を配信します。 「を含む」　：相手先ファクス番号が、入力したファクス番号を含む場合に配信します。 たとえば、1234 と登録した場合、相手のファクス番号が 00012340000 や 9912349999 のように 1234 が含まれていれば、受信文書を配信します。
	サブアドレス	配信条件に F コードサブアドレスを含める場合に設定します。 F コードサブアドレスは、数字、＃、＊を含めて 20 桁まで登録できます。設定しないときは、何も入力しないでください。 相手が指定した F コードのサブアドレスやパスワードが、ここで設定したサブアドレスやパスワードと一致した場合に受信文書を配信します。ただし、相手が指定したサブアドレスやパスワードが自機の F コードボックスで使われている場合は、転送せずにその F コードボックスに受信します。
	パスワード	配信条件に F コードパスワードを含める場合に設定します。 F コードパスワードは、数字、＃、＊を含めて 20 桁まで入力できます。 設定しないときは、何も入力しないでください。
配信期間		自動配信する曜日や時間帯の設定ができます。 「曜日指定」　：自動配信する曜日を設定します。 「配信開始時刻」：自動配信開始する時刻を設定します。 「配信終了時刻」：自動配信終了する時刻を設定します。 時刻は 24 時間制で入力してください。
受信文書プリント		ON に設定すると、配信した文書を本商品でもプリントします。

補足

Web ブラウザーからも自動配信の設定ができます。詳しくは、『ネットワーク機能編』第 4 章の「受信文書を指定した場所に自動配信する（自動配信機能）」を参照してください。

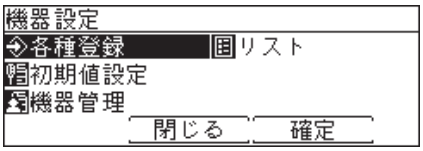
配信設定を登録／変更する

配信設定の登録方法を説明します。配信設定は 200 件まで登録できます。

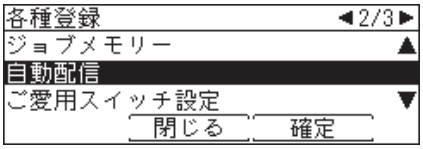
1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

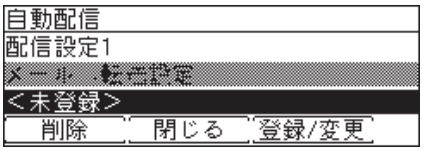
3 「各種登録」を選択し、［確定］を押します。



4 「自動配信」を選択し、［確定］を押します。



5 「＜未登録＞」を選択し、［登録／変更］を押します。



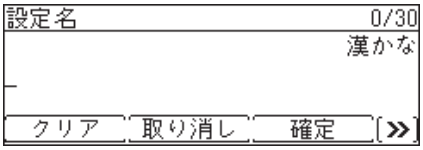
・登録済みの配信設定を変更する場合は、変更したい配信設定を選択して［登録／変更］を押して、手順 9 へ進みます。
・配信先にファクス番号以外の宛先が設定されている配信設定はグレー表示になり、本商品の操作パネルからは設定・変更できません。ネットワーク設定画面から設定・変更します。

6 配信先を選択し、［選択］を押します。

・選択された配信先には、チェックマーク（✓）がつきます。選択を解除するときは、［クリア］を押します。
・グループ番号が登録されていれば、グループ番号で指定することもできます。その場合は、〈応用機能〉→［グループ］と押して、グループ番号を入力します。
・〈応用機能〉→［索引］を押すと、五十音の行が表示されます。五十音の行を選択し、［確定］を押すと、その行の読みの宛先を表示します。（→ 5-3 ページ）

7 ［閉じる］を押します。

8 設定名を入力し、［確定］を押します。



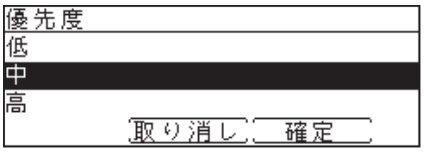
文字入力のしかたは、「文字を入力する」（7-29 ページ）を参照してください。

9 「個別設定」を選択し、[確定] を押します。

10 「ON」または「OFF」を選択し、[確定] を押します。
詳しくは、「配信設定項目の一覧」(2-33 ページ) を参照してください。

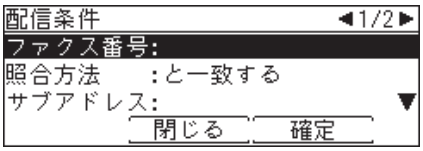
11 「優先度」を選択し、[確定] を押します。

12 配信設定の優先度を選択し、[確定] を押します。
詳しくは、「配信設定項目の一覧」(2-33 ページ) を参照してください。



13 「配信条件」を選択し、[確定] を押します。
配信条件を設定しないときは、「配信条件」を選択せずに手順 16 へ進みます。

14 配信条件を設定し、[確定] を押します。
詳しくは、「配信設定項目の一覧」(2-33 ページ) を参照してください。



15 [閉じる] を押します。

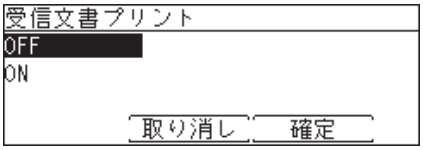
16 「配信期間」を選択し、[確定] を押します。
配信期間を指定しないときは、「配信期間」を選択せずに手順 19 へ進みます。

17 配信設定を有効にする曜日や時間帯を設定します。
詳しくは、「配信設定項目の一覧」(2-33 ページ) を参照してください。

18 [閉じる] を押します。

19 「受信文書プリント」を選択し、[確定] を押します。

20 配信する文書を本商品でもプリントしたいときは「ON」、プリントしないときは「OFF」を選択し、[確定] を押します。



21 設定が終わったら、[閉じる] を押します。

補 足

曜日をまたがって設定したいときは、配信設定を複数登録します。
たとえば、金曜日の 17:00 から月曜日の 8:00 までの間に受信した原稿を配信したい場合は、以下のように 3 つの配信設定を登録します。

配信設定 1：「配信期間」の設定を次のように設定する。
曜日指定：金
配信開始時刻：17:00
配信終了時刻：23:59
配信設定 2：「配信期間」の設定を次のように設定する。
曜日指定：土、日
配信開始時刻：00:00
配信終了時刻：23:59
配信設定 3：「配信期間」の設定を次のように設定する。
曜日指定：月
配信開始時刻：00:00
配信終了時刻：08:00

「配信期間」以外の設定はすべて同じ設定にします。

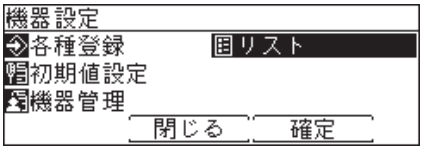
❑ 配信設定リストをプリントする

登録されているすべての配信設定をプリントして確認できます。

1 〈メニュー〉を押します。

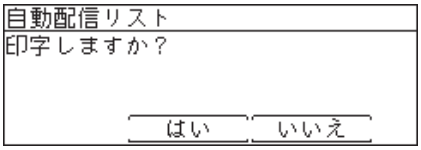
2 [機器設定] を押します。

3 「リスト」を選択し、[確定] を押します。



4 「自動配信リスト」を選択し、[確定] を押します。

5 確認画面が表示されたら、[はい] を押します。



❑ 配信設定を削除する

不要になった配信設定を削除します。

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

3 「各種登録」を選択し、［確定］を押します。

4 「自動配信」を選択し、［確定］を押します。

5 削除したい配信設定を選択し、［削除］を押します。

6 確認画面が表示されたら、［はい］を押します。

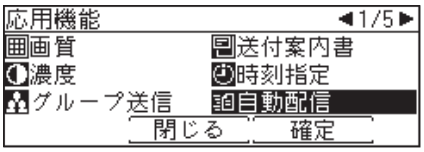
［いいえ］を押すと、配信設定を削除せずに手順 5 に戻ります。

自動配信を設定する

自動配信の設定を ON にすると、個別設定が ON になっている配信設定に従って、受信した文書を自動配信します。

1 〈応用機能〉を押します。

2 「自動配信」を選択し、［確定］を押します。



3 自動配信設定を有効にする場合は「ON」、自動配信しないときは「OFF」を選択し、［確定］を押します。

ダイレクトメールを防止する

宛先表に登録されている番号からのみ受信できるようにしたり、登録した特定の番号からの受信を拒否したりできるので迷惑ファクスを防止できます。
ダイレクトメール防止には 3 種類の方法があります。

モード 1

宛先表に登録されていない相手からの受信を拒否する方法です。登録されているファクス番号と相手先のファクス番号を照合し、一致したときのみ受信します。(最大 20 桁まで照合します。)

モード 2

受信を拒否したい相手の番号を登録し、登録された相手からの受信を拒否する方法です。相手のファクス番号を登録します。ファクス番号は、20 桁、最大 50 件まで登録できます。

相手機に相手機のファクス番号が登録されていない場合や、相手機から相手機のファクス番号を送信してこない場合も受信を拒否します。

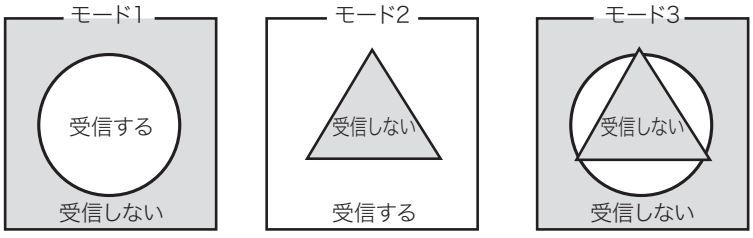
モード 3

モード 1、2 を合わせた方法です。宛先表に登録されていない相手からの受信を拒否します。宛先表に登録されていても、受信を拒否したい相手の番号リストに登録した相手からの受信は拒否します。

相手機に相手機のファクス番号が登録されていない場合や、相手機から相手機のファクス番号を送信してこない場合も受信を拒否します。

OFF

ダイレクトメール防止を行いません。



□の部分：着信した番号
○の部分：宛先表に登録されている番号
△の部分：ダイレクトメール防止用に登録した番号

ダイレクトメール防止を設定する

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

3 「初期値設定」を選択し、[確定]を押します。

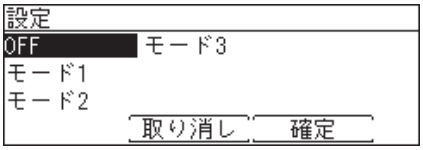
4 「ファクス機能」を選択し、[確定]を押します。

5 「その他の設定」を選択し、[確定]を押します。

6 「ダイレクトメール防止」を選択し、[確定]を押します。

7 「設定」を選択し、[確定]を押します。

8 モードを選択し、[確定]を押します。

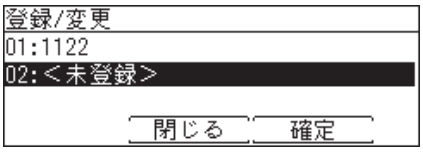


・「OFF」または「モード 1」を選択したときは、この手順で終了です。
・「モード 2」または「モード 3」を選択した場合は、次の手順へ進みます。

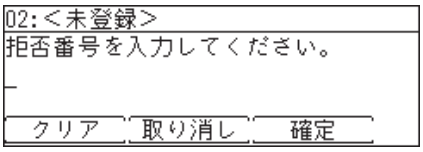
9 「登録／変更」を選択し、[確定]を押します。

10 「<未登録>」を選択し、[確定]を押します。

すでに登録されている番号を変更する場合は、変更したい番号を選択し、[確定]を押します。



11 テンキーで受信拒否するファクス番号（最大 20 桁）を入力し、[確定]を押します。



続けて他の番号を登録する場合は、手順 10 から操作を繰り返します。

12 [閉じる]を押します。

操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

❑ 登録した番号の削除

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

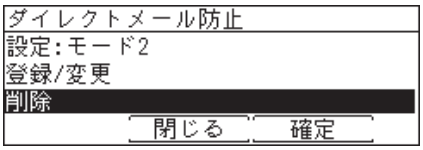
3 「初期値設定」を選択し、[確定]を押します。

4 「ファクス機能」を選択し、[確定]を押します。

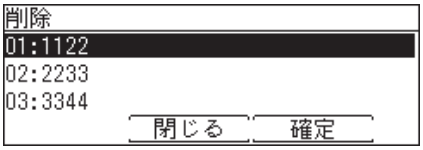
5 「その他の設定」を選択し、[確定]を押します。

6 「ダイレクトメール防止」を選択し、[確定]を押します。

7 「削除」を選択し、[確定]を押します。



8 削除したい番号を選択し、[確定]を押します。



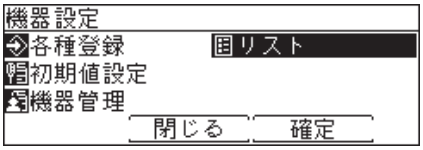
9 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。
選択した番号が削除されます。

ダイレクトメール防止リストをプリントする

1 〈メニュー〉を押します。

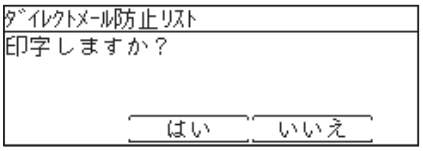
2 [機器設定]を押します。

3 「リスト」を選択し、[確定]を押します。



4 「ダイレクトメール防止リスト」を選択し、[確定]を押します。

5 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。



セキュリティー通信機能

本商品のセキュリティー機能には、通信する相手を限定したり、送信宛先を再確認してから送信したりなど、ファクス誤送信を防止するためのさまざまな機能があります。

- ファクス通信する相手を限定する（閉域通信）
- ダイヤルした番号と相手に登録されている番号が一致したら送信する（ID チェック送信）
- 送信宛先を確認してから送信する（宛先確認）
- 送信宛先を再度入力してから送信する（宛先 2 度押し／ダイヤル 2 度押し）
- 2 宛先以上の宛先入力を禁止する（同報送信）
- 受信した原稿を自動印字しないようにする（セキュリティー受信）
- ポーリング送信する相手を限定する（パスコードポーリング）

ファクス通信する相手を限定する（閉域通信）

閉域送信や閉域受信を ON に設定すると、ファクスの通信相手は当社製で本機能を搭載している機器に限定されます。
閉域通信は、送受信別々に設定できます。

❑ 閉域送信の設定

1 **〈メニュー〉を押します。**

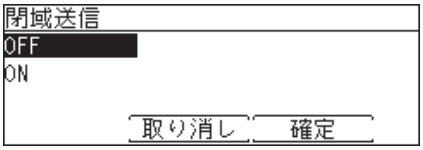
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**
管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。
操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

5 **「閉域送信」を選択し、［確定］を押します。**

6 **閉域送信を有効にする場合は「ON」を、しない場合は「OFF」を選択し、［確定］を押します。**



7 **［閉じる］を押します。**
操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

補 足

- パスコードを設定した場合は、相手が当社製で本機能を搭載しており、かつ自機のパスコードと同じパスコードが設定されている場合だけ通信可能になります。パスコードを設定するときは、「パスコードを登録する」（2-45 ページ）を参照してください。
- 閉域通信とパスコードによる通信範囲の詳細については、「パスコードと通信の範囲」（2-46 ページ）を参照してください。
- 手動送信の場合は、閉域送信機能は働きません。
- ON に設定した場合でも、応用機能メニューから閉域通信を OFF すると、1 通信のみ閉域通信を OFF にできます。

❑ 閉域受信の設定

1 **〈メニュー〉を押します。**

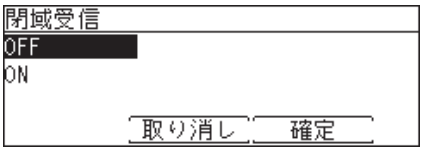
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**
管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。
操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

5 **「閉域受信」を選択し、［確定］を押します。**

6 **閉域受信を有効にする場合は「ON」を、しない場合は「OFF」を選択し、［確定］を押します。**



7 **［閉じる］を押します。**
操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

補 足

- パスコードを設定した場合は、相手が当社製で本機能を搭載しており、かつ自機のパスコードと同じパスコードが設定されている場合だけ通信可能になります。パスコードを設定するときは、「パスコードを登録する」（2-45 ページ）を参照してください。
- 閉域通信とパスコードによる通信範囲の詳細については、「パスコードと通信の範囲」（2-46 ページ）を参照してください。

特定の相手機とだけポーリングする（パスコードポーリング）

パスコードポーリングを ON にすると、当社製で本機能を搭載している相手機にだけ、ポーリング送信します。
さらに、パスコードを設定すると相手機が当社製で本機能を搭載しており、かつ自機のパスコードと同じパスコードが設定されている場合だけポーリング送信します。
（対応機種については、NTT 通信機器お取扱相談センタにお問い合わせください）

1 **〈メニュー〉を押します。**

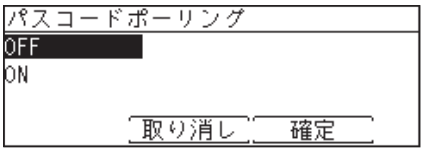
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**
管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。
操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

5 **「パスコードポーリング」を選択し、［確定］を押します。**

6 **パスコードポーリングを設定する場合は「ON」、解除する場合は「OFF」を選択し、［確定］を押します。**



7 **［閉じる］を押します。**
操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

補 足

- パスコードを設定した場合は、相手が当社製で本機能を搭載しており、かつ自機のパスコードと同じパスコードが設定されている場合だけ通信可能になります。パスコードを設定するときは、「パスコードを登録する」（2-45 ページ）を参照してください。
- パスコードによる通信範囲の詳細については、「パスコードと通信の範囲」（2-46 ページ）を参照してください。

パスコードを登録する

閉域送信や閉域受信が ON のときにパスコードを設定すると、同じパスコードが設定されている相手とだけファクス通信が可能になり、セキュリティーが強化されます。
パスコードは、閉域送信、閉域受信以外にもパスコードポーリングでも使用できます。
パスコード設定後の動作については、「パスコードと通信の範囲」（2-46 ページ）を参照してください。

1 **〈メニュー〉を押します。**

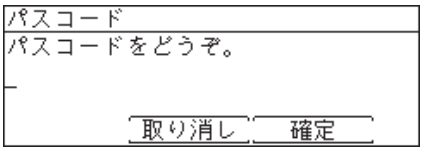
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**
管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。
操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

5 **「パスコード」を選択し、［確定］を押します。**

6 **テンキーでパスコード（4 桁の数字）を入力し、［確定］を押します。**



パスコードを設定するときは、0000 以外の番号を入力してください。0000 を入力すると、パスコード設定が解除されます。

7 **［閉じる］を押します。**
操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

補 足

パスコードは忘れないようにしてください。

❑ パスコードと通信の範囲

閉域送信を ON にした場合

- 閉域送信を ON にすると、相手機が当社製で本機能を搭載している機器に限定されます。
- パスコードを設定した場合は、相手機が当社製で本機能を搭載しており、かつ自機のパスコードと同じパスコードが設定されている場合だけ送信可能になります。

閉域送信	自機のパスコード	相手機（受信機）	相手機のパスコード	結果
ON	設定なし（0000）	本機能を搭載していない	−	通信エラー
		本機能を搭載している	−	通信 OK
	設定あり 例：1234	本機能を搭載していない	−	通信エラー
		本機能を搭載している（セキュリティー機能なし）	−	通信エラー
		本機能を搭載している（セキュリティー機能あり）	自機のパスコードと異なる場合	通信エラー
			自機のパスコードと同じ場合	通信 OK

通信エラーになった場合は、チェックメッセージが印字され、エラーコード「T.2.2」が記載されます。

閉域受信を ON にした場合

- 閉域受信を ON にすると、相手機が当社製で本機能を搭載している機器からのみファクス受信します。
- パスコードを設定した場合は、相手機が当社製で本機能を搭載しており、かつ自機のパスコードと同じパスコードが設定されている場合だけ受信可能になります。

閉域受信	自機のパスコード	相手機（送信機）	相手機のパスコード	結果
ON	設定なし（0000）	本機能を搭載していない	−	通信エラー
		本機能を搭載している	−	通信 OK
	設定あり 例：1234	本機能を搭載していない	−	通信エラー
		本機能を搭載している（セキュリティー機能なし）	−	通信エラー
		本機能を搭載している（セキュリティー機能あり）	自機のパスコードと異なる場合	通信エラー
			自機のパスコードと同じ場合	通信 OK

パスコードポーリングを ON にした場合

- パスコードポーリングを ON にすると、ポーリング送信する相手機が当社製で本機能を搭載している機器に限定されます。
- パスコードを設定した場合は、相手機が当社製で本機能を搭載しており、かつ自機のパスコードと同じパスコードが設定されている場合だけポーリング送信します。

パスコードポーリング	自機のパスコード	相手機	相手機のパスコード	結果
ON	設定なし（0000）	本機能を搭載していない	−	通信エラー
		本機能を搭載している	−	通信 OK
	設定あり 例：1234	本機能を搭載していない	−	通信エラー
		本機能を搭載している	自機のパスコードと異なる場合	通信エラー
			自機のパスコードと同じ場合	通信 OK

相手機番号を確認してから送信する（ID チェック送信）

ID チェック送信を ON に設定すると、ダイヤルしたファクス番号の下 4 桁と相手機に登録されているファクス番号の下 4 桁を照合し、一致した場合に限りファクス送信します。

1 **〈メニュー〉を押します。**

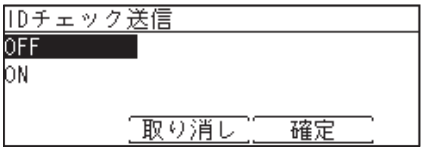
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**
管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

5 **「ID チェック送信」を選択し、［確定］を押します。**

6 **ID チェック送信をする場合は「ON」、しない場合は「OFF」を選択します。**



7 **［閉じる］を押します。**
操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

補 足

- 手動送信の場合は、ID チェック送信機能は働きません。
- 相手に登録されているファクス番号の下 4 桁と、ダイヤルした番号の下 4 桁が一致しなかったときや、相手にファクス番号が登録されていないときは、通信エラーになります。
- ON に設定した場合でも、応用機能メニューから ID チェック送信を OFF すると、1 通信のみ ID チェック通信を OFF にできます。

宛先を確認してから送信する（宛先確認）

送信開始する前に宛先の確認画面を表示し、宛先に間違いがないか確認できます。

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

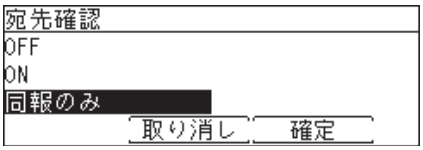
3 「機器管理」を選択し、［確定］を押します。

管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。
操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。

5 「宛先確認」を選択し、［確定］を押します。

6 設定を選択し、［確定］を押します。



・「OFF」　：宛先の確認画面を表示しません。
・「ON」　：常に宛先の確認画面を表示します。
・「同報のみ」：2 箇所以上の宛先を指定したとき、宛先確認画面を表示します。

7 ［閉じる］を押します。

操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

宛先を 2 度入力してから送信する（2 度押し）

2 度押し機能を ON に設定すると、指定した宛先の再入力画面が表示されます。宛先を再入力することで宛先指定の間違いがないかを確認し、間違った相手にファクス送信することを防ぎます。
本商品の 2 度押し機能には、以下のものがあります。

- 宛先 2 度押し
  短縮送信やワンタッチキーで宛先指定した場合に、再度同じ短縮番号の入力やワンタッチキーを押すことで、間違った相手にファクス送信することを防ぎます。

- ダイヤル 2 度押し
  テンキーで相手のファクス番号を入力した場合に、再度同じファクス番号を入力することで、間違った相手にファクス送信することを防ぎます。
  ポーズ（/P）などのダイヤル記号を入力した場合は、ダイヤル記号も含めて再入力してください。

補 足

手動送信（→ 2-4 ページ）の場合、2 度押し機能は働きません。

❑ 2 度押し機能の設定

1 **〈メニュー〉を押します。**

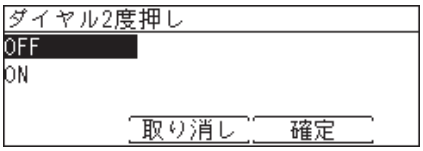
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**
管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。
操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

5 **設定したい 2 度押し機能を選択し、［確定］を押します。**

6 **2 度押し機能を有効にする場合は「ON」を、しない場合は「OFF」を選択し、［確定］を押します。**

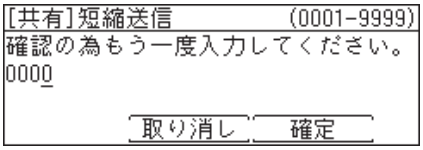


7 **［閉じる］を押します。**
操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

❑ 宛先 2 度押しを ON にした場合の操作

短縮送信機能で宛先指定したとき

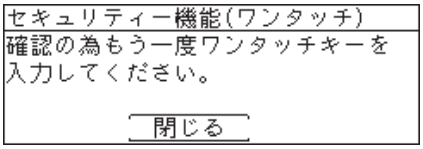
短縮送信機能で宛先指定したとき、再度同じ短縮番号を入力する画面が表示されます。



・再度同じ短縮番号を入力して［確定］を押すと、宛先の入力が確定します。
・操作を中止するときは、［取り消し］を押します。

ワンタッチキーで宛先を指定したとき

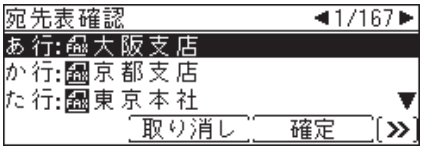
ワンタッチキーで宛先を指定したとき、再度同じワンタッチキーを押すことを求める画面が表示されます。



・この画面表示のまま、再度同じワンタッチキーを押すと、宛先の入力が確定します。
・操作を中止するときは、［閉じる］を押します。

宛先表から宛先を選択したとき

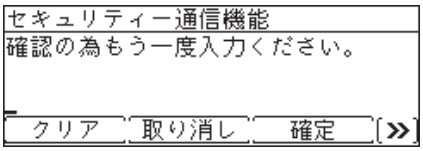
宛先表から宛先を選択したとき、再度同じ宛先を選択する画面が表示されます。



・再度同じ宛先を選択して［確定］を押すと、宛先の入力が確定します。
・操作を中止するときは、［取り消し］を押します。

❑ ダイヤル 2 度押しを ON にした場合の操作

ダイヤル 2 度押しを ON に設定すると、テンキーで宛先のファクス番号を入力し、［確定］または〈スタート〉を押したときに、入力したファクス番号の再入力画面が表示されます。



・再度同じファクス番号を入力して［確定］を押すと、宛先の入力が確定します。
・操作を中止するときは、［取り消し］を押します。

同報送信を禁止する（同報送信）

同報送信を OFF にすると、同報送信を禁止できます。他のワンタッチキーを気づかずに押してしまうなど、意図せぬ宛先への誤送信を防ぐことができます。

1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **［機器設定］を押します。**

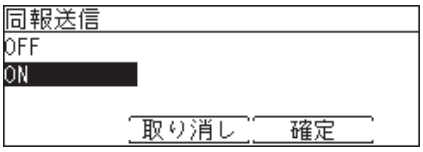
3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**

管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

5 **「同報送信」を選択し、［確定］を押します。**

6 **同報送信を許可する場合は「ON」、禁止する場合は「OFF」を選択し、［確定］を押します。**

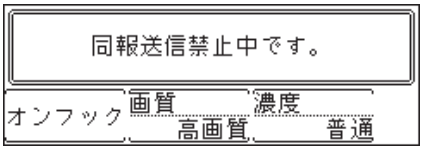


7 **［閉じる］を押します。**

操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

補 足

同報送信を OFF にした場合に、2 箇所以上の宛先を指定しようとすると以下のメッセージが表示されます。



受信文書をメモリーに蓄積する（セキュリティー受信）

セキュリティー受信を ON にすると、セキュリティー受信開始時刻以降に受信した文書はメモリーに蓄積され、自動印字されません。メモリーに蓄積された文書を印字するには、プロテクトコードの入力が必要になります。

補 足

- セキュリティー受信を設定するには、プロテクトコードの登録が必要です。プロテクトコードの登録のしかたについては、「セキュリティーコードを設定する」（8-4 ページ）を参照してください。
- プロテクトコードが解除されると、セキュリティー受信も解除されます。
- 応用機能メニューにある「セキュリティー受信」で、ここで設定したセキュリティー受信開始時刻によらず、手動でセキュリティー受信を ON/OFF できます。

❑ セキュリティー受信の設定

1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **［機器設定］を押します。**

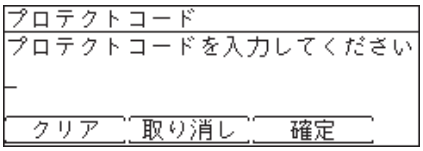
3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**

管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードの入力画面が表示されます。
操作を続けるには、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

4 **「セキュリティー通信機能」を選択し、［確定］を押します。**

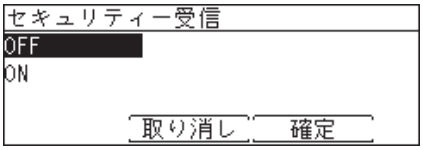
5 **「セキュリティー受信」を選択し、［確定］を押します。**

6 **プロテクトコードを入力し、［確定］を押します。**



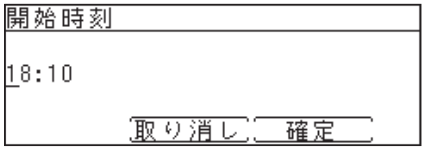
7 **セキュリティー受信を設定する場合は「ON」を、解除する場合は「OFF」を選択し、［確定］を押します。**

・ON に設定した場合は、次の手順でセキュリティー受信を開始する時刻を設定します。
・OFF に設定した場合は、手順 9 へ進みます。



8 セキュリティー受信を開始する時刻を入力し、[確定] を押します。

設定後は、毎日開始時刻になると自動的にセキュリティー受信が有効になります。



9 [閉じる] を押します。

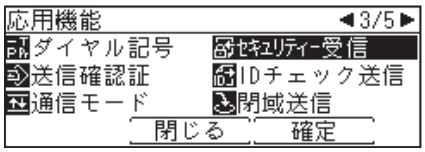
操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

❑ セキュリティー受信した文書をプリントする

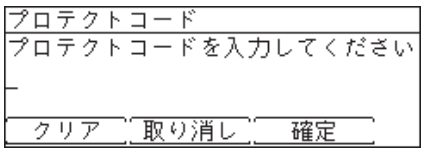
セキュリティー受信した文書がある場合は、液晶ディスプレイに「セキュリティー受信原稿があります」と表示され、操作パネル上の代行受信ランプが点灯します。
以下の操作でセキュリティー受信文書をプリントできます。

1 〈応用機能〉を押します。

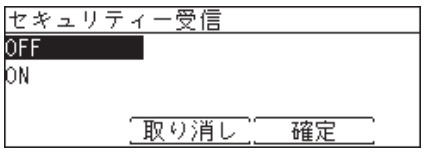
2 「セキュリティー受信」を選択し、[確定] を押します。



3 プロテクトコードを入力し、[確定] を押します。



4 「OFF」を選択し、[確定] を押します。



・セキュリティー受信文書をプリントした後、セキュリティー受信が OFF になります。
・セキュリティー受信文書がない場合も、セキュリティー受信が OFF になります。

補足

セキュリティー受信文書をプリントすると、セキュリティー受信は一時的に OFF になりますが、設定した開始時刻になると自動的にセキュリティー受信が ON になります。
セキュリティー受信を無効にするには、「受信文書をメモリーに蓄積する（セキュリティー受信）」（2-52 ページ）で設定を OFF にしてください。

F コード通信機能

ITU-T（国際電気通信連合の電気通信標準化部門）で標準化された T.30 通信規格のサブアドレスやパスワードの使いかたについて、情報通信ネットワーク産業協会が定めた通信手順のことを F コードといいます。F コード機能をもつファクス間の通信では、メーカーが異なる場合も、F コードを使用したいろいろな機能を利用できます。
本商品では、掲示板、親展通信、F コード送信、F コードポーリング、および自動配信の転送条件で F コードを使っています。

F コードボックスについて

F コードボックスを設定すれば、F コードを使った掲示板機能や親展受信機能が使えます。
以下に F コードボックスに設定できる項目の概要を示します。設定方法については、「F コードボックスを登録する」（2-55 ページ）を参照してください。

項目	概要説明
ボックス番号	任意のボックス番号を指定して登録できます。 ・F コードボックスは 20 個まで登録できます。 ・1 つのボックスには 30 件まで原稿を蓄積できます。
ボックス名	任意の名称を登録できます。 全角で 8 文字まで（半角で 16 文字まで）登録できます。
サブアドレス	サブアドレスは、F コードボックスを区別するために必要な番号です。必ず登録してください。 ・サブアドレスは、数字、＃、＊を 20 桁まで登録できます。 ・他の F コードボックスと同じサブアドレスは登録できません。
パスワード	パスワードの登録は任意です。 パスワードを登録すると、サブアドレスとパスワードの両方が一致しないと F コード通信を行わないので、間違い送信の防止に役立ちます。 ・パスワードは、数字、＃、＊を 20 桁まで登録できます。 ・他の F コードボックスと同じパスワードでも登録できます。
F コード機能	本商品の F コードボックスは、親展通信ボックスまたは掲示板ボックスに設定できます。 ■親展ボックス 受信した文書を印字するためには、暗証番号の入力が必要になります。機密保護が必要な文書の受信用ボックスとして利用できます。 親展ボックスでは、以下の項目を設定します。 ・文書の保存期間 ・暗証番号（受信した文書を印字するときに必要です） ■掲示板通信 掲示板ボックスに保存したり受信したりした文書を、ポーリング送信用の原稿として利用できます。 掲示板ボックスでは、以下の項目を任意に設定できます。 ・受信禁止（掲示板ボックスへの受信を禁止します） ・同時プリント（掲示板ボックスに受信した文書をプリントします） ・上書き許可（掲示板ボックスに保存されている文書の上書きを許可します） ・送信後原稿消去（送信後に文書を消去します） ・暗証番号（設定すると、掲示板ボックスの設定を変更するときや、保存文書をプリントするときに入力が必要になります）
暗証番号	親展ボックスを設定した場合は、登録が必要です。 掲示板ボックスを設定した場合は、登録は任意です。 ・暗証番号は、4 桁の数字を登録します。 ・暗証番号を忘れると F コードボックスが使えなくなりますので、暗証番号は安全な場所に控えておいてください。

F コードボックスを登録する

F コード通信を利用するために F コードボックスを登録します。
親展通信ボックスまたは掲示板ボックスとして登録できます。

❑ 親展ボックスを登録する

1 〈メニュー〉を押します。

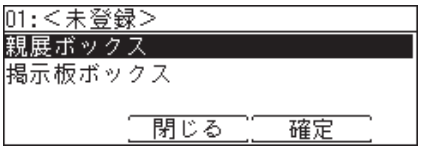
2 ［機器設定］を押します。

3 「各種登録」を選択し、［確定］を押します。

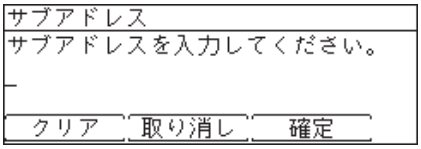
4 「F コードボックス」を選択し、［確定］を押します。

5 未登録の F コードボックス番号を選択し、［登録／変更］を押します。

6 「親展ボックス」を選択し、［確定］を押します。

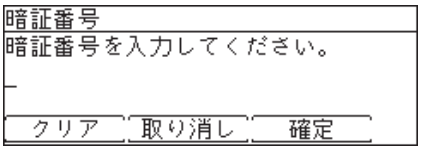


7 テンキーでサブアドレスを入力し、［確定］を押します。



・サブアドレスは、数字、＃、＊を 20 桁まで登録できます。
・番号を間違えた場合は、［クリア］を押して正しい番号を入力し直してください。
・他のボックスと同じサブアドレスを登録することはできません。

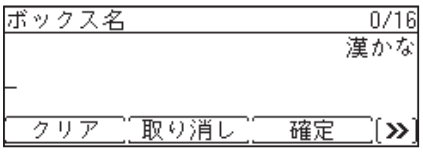
8 テンキーで任意の 4 桁の暗証番号を入力し、［確定］を押します。



暗証番号はどこにも表示されません。忘れないように安全な場所に控えておいてください。

9 「ボックス名」を選択し、［確定］を押します。

10 ボックス名を入力し、[確定] を押します。

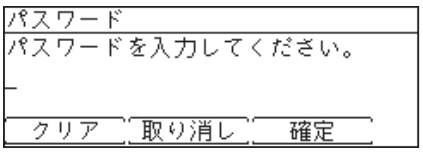


・全角で 8 文字（半角で 16 文字）まで登録できます。
・文字入力のしかたは、「文字を入力する」（7-29 ページ）を参照してください。

11 「パスワード」を選択し、[確定] を押します。

パスワードを設定しない場合は、手順 13 へ進みます。

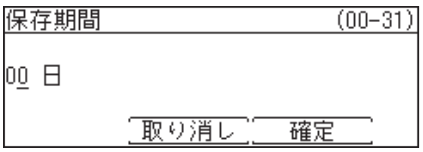
12 テンキーで任意のパスワードを入力し、[確定] を押します。



・パスワードは、数字、#、＊を 20 桁まで登録できます。
・他の F コードボックスと同じパスワードでも設定できます。
・パスワードの設定は任意ですが、設定した場合は、相手がサブアドレスの他にパスワードも知っている必要があります。

13 「保存期間」を選択し、[確定] を押します。

14 テンキーで保存期間を入力し、[確定] を押します。



保存期間を無期限にするときは、00 日と設定します。

15 [閉じる] を押します。

・続けて他の F コードボックスを登録する場合は、手順 5 から操作を繰り返します。
・操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

❑ 掲示板ボックスを登録する

1 〈メニュー〉を押します。

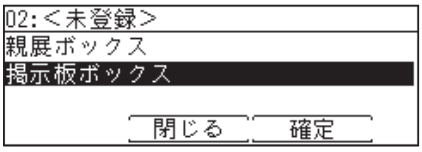
2 ［機器設定］を押します。

3 「各種登録」を選択し、［確定］を押します。

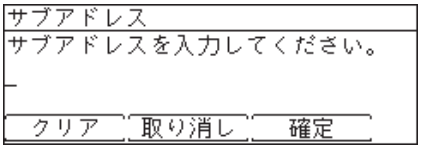
4 「F コードボックス」を選択し、［確定］を押します。

5 未登録の F コードボックス番号を選択し、［登録／変更］を押します。

6 「掲示板ボックス」を選択し、［確定］を押します。



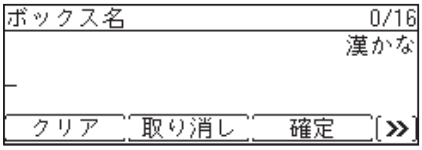
7 テンキーでサブアドレスを入力し、［確定］を押します。



・サブアドレスは、数字、＃、＊を 20 桁まで登録できます。
・番号を間違えた場合は、［クリア］を押して正しい番号を入力し直してください。
・他のボックスと同じサブアドレスを登録することはできません。

8 「ボックス名」を選択し、［確定］を押します。

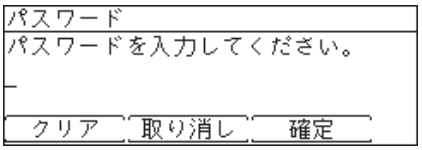
9 ボックス名を入力し、［確定］を押します。



・全角で 8 文字（半角で 16 文字）まで登録できます。
・文字入力のしかたは、「文字を入力する」（7-29 ページ）を参照してください。

10 「パスワード」を選択し、［確定］を押します。
パスワードを登録しない場合は、手順 12 へ進みます。

11 テンキーで任意のパスワードを入力し、［確定］を押します。

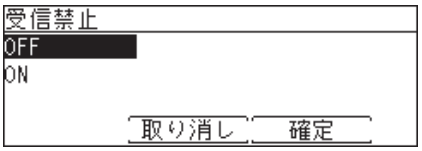


・パスワードは、数字、＃、＊を 20 桁まで登録できます。
・他の F コードボックスと同じパスワードでも設定できます。
・パスワードの設定は任意ですが、設定した場合は、相手がサブアドレスの他にパスワードも知っている必要があります。

12 「受信禁止」を選択し、［確定］を押します。

「受信禁止」の設定を変更しない場合は、手順 14 へ進みます。

13 「ON」または「OFF」を選択し、［確定］を押します。

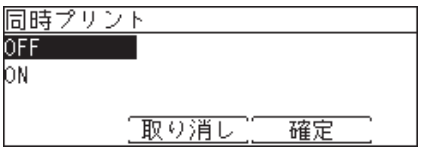


・ON：掲示板ボックスへの受信を禁止します。
・OFF：掲示板ボックスへの受信を許可します。
・受信禁止を ON にすると「同時プリント」と「上書き許可」の設定は無効になります。

14 「同時プリント」を選択し、［確定］を押します。

「同時プリント」の設定を変更しない場合は、手順 16 へ進みます。

15 「ON」または「OFF」を選択し、［確定］を押します。

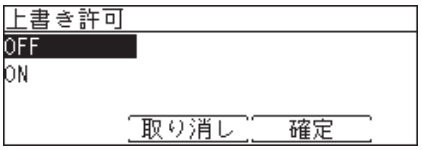


・ON：掲示板ボックスに受信した文書をプリントします。
・OFF：掲示板ボックスに受信した文書をプリントしません。
・「受信禁止」が ON の場合は、「同時プリント」の設定はできません。

16 「上書き許可」を選択し、［確定］を押します。

「上書き許可」の設定を変更しない場合は、手順 18 へ進みます。

17 「ON」または「OFF」を選択し、［確定］を押します。

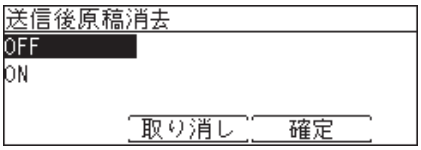


・ON：新しい文書を受信したときに、その文書に掲示板ボックスの文書を入れ替えます。
・OFF：新しい文書を受信したとき、その文書が掲示板ボックスに追加されます。
・「受信禁止」が ON の場合は、「上書き許可」の設定はできません。

18 **「送信後原稿消去」を選択し、［確定］を押します。**

「送信後原稿消去」の設定を変更しない場合は、手順 20 へ進みます。

19 **「ON」または「OFF」を選択し、［確定］を押します。**

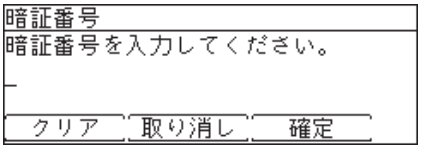


・ON：掲示板ボックスの文書を送信した後、文書を削除します。
・OFF：掲示板ボックスの文書を送信した後も、文書が残ります。

20 **「暗証番号」を選択し、［確定］を押します。**

暗証番号を設定すると、掲示板ボックスの設定を変更するときや、保存文書を印字するときに入力が必要になります。「暗証番号」の設定をしない場合は、手順 22 へ進みます。

21 **テンキーで任意の 4 桁の暗証番号を入力し、［確定］を押します。**



暗証番号はどこにも表示されません。忘れないように安全な場所に控えておいてください。

22 **［閉じる］を押します。**

・続けて他の F コードボックスを登録する場合は、手順 5 から操作を繰り返します。
・操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

F コードボックスを変更する

F コードボックスの設定内容を変更する場合は、以下の手順で行います。

❑ F コードボックスの設定を変更する

F コードボックスの設定の変更は、「F コードボックスの登録」と同じ手順でできます。

❑ F コードボックスの機能を変更する

F コードボックスを別の F コードボックス機能に変更したいときは、先に F コードボックスを削除してから、新たに F コードボックスの登録をします。
たとえば、親展ボックスに設定した F コードボックスを、掲示板ボックスに変更したい場合は、その親展ボックスを削除してから、新規に掲示板ボックスを登録してください。

- F コードボックスの削除のしかたについては、「F コードボックスを削除する」（2-60 ページ）を参照してください。
- F コードボックスの登録のしかたについては、「F コードボックスを登録する」（2-55 ページ）を参照してください。

F コードボックスを削除する

F コードボックスを削除する場合は、以下の手順で行います。
F コードボックスに文書が残っている場合は、F コードボックスを削除できません。先に文書を削除するか印字するなどし、F コードボックスに文書が残っていない状態にしてください。

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定] を押します。

3 「各種登録」を選択し、[確定] を押します。

4 「F コードボックス」を選択し、[確定] を押します。

5 削除したい F コードボックスを選択し、[削除] を押します。

6 暗証番号を設定しているときは、暗証番号を入力し、[確定] を押します。

7 確認画面が表示されたら、[はい] を押します。
・[いいえ] を押すと、F コードボックスを削除せずに手順 5 に戻ります。
・続けて他の F コードボックスを削除する場合は、手順 5 から操作を繰り返します。
・操作を終了する場合は、〈リセット〉を押します。

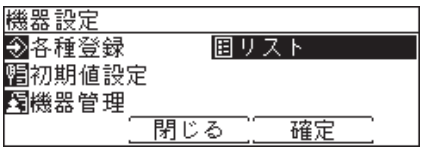
F コードボックスリストをプリントする

F コードボックスのリストを印字できます。

1 〈メニュー〉を押します。

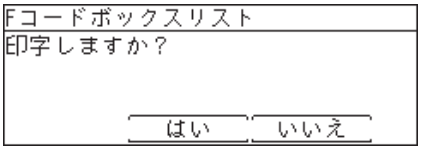
2 [機器設定] を押します。

3 「リスト」を選択し、[確定] を押します。



4 「F コードボックスリスト」を選択し、[確定] を押します。

5 確認画面が表示されたら、[はい] を押します。



プリント例

＊＊Fコードボックスリスト＊＊

P1　　2013年10月15日(火) 13:30

Box:01
種別　:親展
ボックス名　:親展ボックス
サブアドレス　:11111111
パスワード　:
保存期間　:00日

Box:02
種別　:掲示板
ボックス名　:掲示板ボックス
サブアドレス　:22222222
パスワード　:
受信禁止　:OFF
同時プリント　:OFF
上書き許可　:OFF
送信後原稿消去　:OFF

掲示板ボックスへ文書を保存する

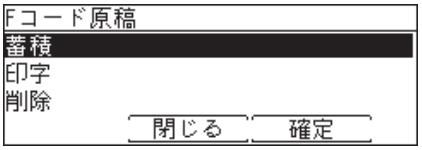
掲示板ボックスへの文書保存の操作を説明します。
掲示板ボックスに保存したり受信したりした文書は、F コードポーリング送信用の文書として使われます。1 つのボックスには、30 件までの文書を保存できます。

1 **原稿をセットします。**

2 **〈応用機能〉を押します。**

3 **「F コード原稿」を選択し、[確定] を押します。**

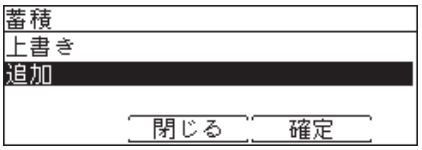
4 **「蓄積」を選択し、[確定] を押します。**



5 **掲示板ボックスを選択し、[確定] を押します。**
掲示板機能に設定されていない F コードボックスは選択できません。

6 **暗証番号が設定されているときは、暗証番号を入力し、[確定] を押します。**

7 「上書き」または「追加」を選択し、[確定] を押します。



・上書き：ボックス内に文書がある場合は、文書を入れ替えます。
・追加：ボックス内に文書を追加します。

8 確認画面が表示されたら、[はい] を押します。

原稿が読み取られ掲示板ボックスに保存されます。

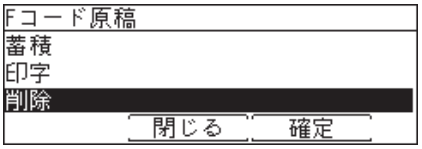
掲示板ボックスの文書を削除する

掲示板ボックス内の文書削除の操作を説明します。

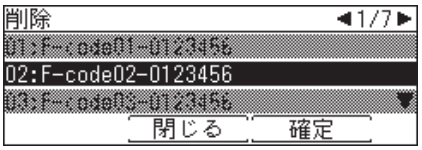
1 〈応用機能〉を押します。

2 「F コード原稿」を選択し、[確定] を押します。

3 「削除」を選択し、[確定] を押します。



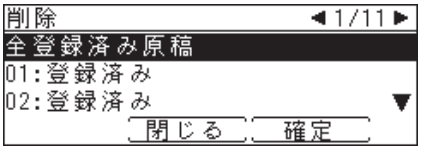
4 掲示板ボックスを選択し、[確定] を押します。



掲示板機能に設定されていない F コードボックスや、文書が蓄積されていない掲示板ボックスは選択できません。

5 暗証番号が設定されているときは、暗証番号を入力し、[確定] を押します。

6 削除したい文書を選択し、[確定] を押します。



「全登録済み原稿」を選択すると、すべての文書を削除します。

7 確認画面が表示されたら、[はい] を押します。

・続けて別の文書を削除するときは、手順 6 から操作を繰り返します。
・操作を終了するときは、〈リセット〉を押します。

F コード受信通知について

F コードボックスに原稿を受信すると、「F コード受信通知」がプリントされます。記載されているボックス番号を確認し、受信した原稿をプリントします。プリントのしかたについては、「F コードボックス内の文書をプリントする」(2-64 ページ) を参照してください。

親展ボックスに受信した場合

＊＊Fコード受信通知＊＊

P1　　2013年10月15日(火) 13:30

Fコード原稿を受信しました

Box:01
ボックス名　:親展
相手先名　　:
種別　　:親展
ファイル番号:01

掲示板ボックスに受信した場合

＊＊Fコード受信通知＊＊

P1　　2013年10月15日(火) 13:30

Fコード原稿を受信しました

Box:02
ボックス名　:掲示板
相手先名　　:
種別　　:掲示板
ファイル番号:01

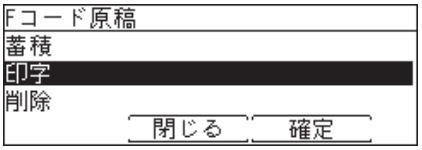
F コードボックス内の文書をプリントする

F コードボックスに保存した文書や、受信した文書をプリントする方法を説明します。
F コードボックスに文書受信すると、「F コード受信通知」がプリントされます。(→ 2-63 ページ)

1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **「F コード原稿」を選択し、[確定] を押します。**

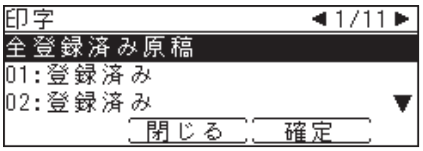
3 **「印字」を選択し、[確定] を押します。**



4 **F コードボックスを選択し、[確定] を押します。**
文書が保存されていない F コードボックスは選択できません。

5 **暗証番号が設定されている場合は、暗証番号を入力し、[確定] を押します。**
親展ボックスの場合は、暗証番号の入力が必要です。掲示板ボックスで暗証番号が設定されていない場合は、暗証番号入力画面は表示されません。

6 **プリントしたい文書を選択し、[確定] を押します。**



・「全登録済み原稿」を選択すると、すべての文書をプリントします。
・親展ボックスの場合は、この手順は表示されません。

7 **確認画面が表示されたら、[はい] を押します。**
・文書がプリントされます。
・親展ボックスの場合は、プリント後自動的に文書が削除されます。

F コードボックスへ送信する（F コード送信）

サブアドレスやパスワードを入力することで、相手の特定の F コードボックス宛てに送信します。特定の F コードボックスには、親展ボックス、掲示板ボックス、中継送信ボックスがあります。

補 足

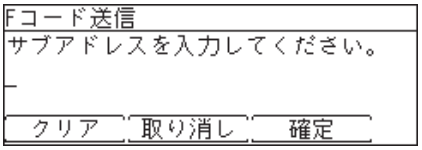
- F コードを使用するためには、相手機が F コード機能をもっている必要があります。
- あらかじめ、相手機の F コードボックスのサブアドレスとパスワードを確認してください。

1 原稿をセットします。

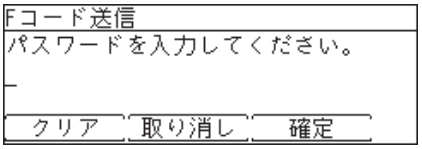
2 〈応用機能〉を押します。

3 「F コード送信」を選択し、［確定］を押します。

4 相手機の F コードボックスのサブアドレスを入力し、［確定］を押します。



5 相手機の F コードボックスのパスワードを入力し、［確定］を押します。



相手機の F コードボックスにパスワードが設定されていない場合は、何も入力せずに［確定］を押します。

6 宛先を指定し、〈スタート〉を押します。

F コードボックスの文書を受信する(F コードポーリング)

受信側から電話をかけて、相手の F コードボックスに保存されている文書を受信できます。

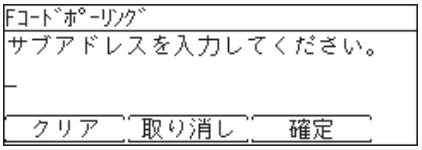
補 足

- F コードを使用するためには、相手機が F コード機能をもっている必要があります。
- あらかじめ、相手の F コードボックスのサブアドレスとパスワードを確認してください。

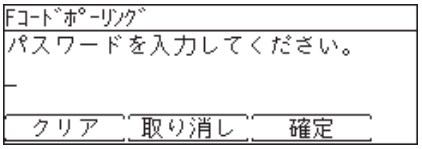
1 〈応用機能〉を押します。

2 「F コードポーリング」を選択し、[確定] を押します。

3 相手機の F コードボックスのサブアドレスを入力し、[確定] を押します。



4 相手機の F コードボックスのパスワードを入力し、[確定] を押します。



相手機の F コードボックスにパスワードが設定されていない場合は、何も入力せずに [確定] を押します。

5 宛先を指定し、〈スタート〉を押します。

第 3 章

インターネットファクス機能を使う

事前に必要な設定 **3-2**
インターネットファクスの初期設定 3-2
インターネットファクスのしかた **3-3**
インターネットファクス送信の基本操作 3-3
インターネットファクスを受信する（POP 受信） 3-4
インターネットファクスに関する設定 **3-5**
メール件名と本文を選択・編集する（メール編集） 3-5
読み取った原稿を分割して送信する（分割送信） 3-6
ファイル形式を選択する（ファイル形式） 3-7

事前に必要な設定

インターネットファクス機能を使用するために、以下の初期設定を行ってください。

インターネットファクスの初期設定

[TCP/IP 設定]

本商品を TCP/IP 環境で使用するための設定をします。
設定の詳細については、『ネットワーク機能編』第 4 章の「接続環境を設定する」の「ネットワーク環境を設定する」を参照してください。

[メール設定]

電子メールを送信するための設定をします。
SMTP サーバーのアドレスや本商品の電子メールアドレスを登録します。
電子メールを受信するための設定をします。
POP サーバーのアドレス、ログイン名、パスワードを登録します。
設定の詳細については、『ネットワーク機能編』第 4 章の「接続環境を設定する」の「電子メール送受信環境を設定する」や「電子メール運用環境を設定する」を参照してください。

[メール定型文設定]

電子メールの件名、本文を登録します。
設定の詳細については、『ネットワーク機能編』第 4 章の「メール定型文を設定する」を参照してください。

補 足

設定は、ネットワーク設定画面で行います。
ネットワーク設定画面から設定を行うには、先に本体側で IP アドレスを設定しておく必要があります。IP アドレスの設定のしかたについては、「ネットワーク設定をする」（→ 8-13 ページ）を参照してください。

インターネットファクスのしかた

インターネットファクスは、インターネットを通じてファクスを送受信します。インターネット網経由なので、遠隔地であっても電話料金を気にせず安価にファクスを送信できます。
また、相手がファクスを持っていなくても電子メールとして送信できます。ファクス原稿は、メールの添付ファイルとして送信されます。

インターネットファクス送信の基本操作

1 **原稿をセットします。**
原稿のセットのしかたについては、「原稿をセットする」(1-28 ページ) を参照してください。

2 **必要に応じて各種機能の設定を行います。**
・「読み取りに関する設定」(2-5 ページ)
・「インターネットファクスに関する設定」(3-5 ページ)

3 **宛先のメールアドレスを指定します。**
宛先の指定方法については、「宛先を指定する」(5-2 ページ) を参照してください。

4 **複数の宛先を指定する場合は、手順 3 の操作を繰り返します。**
指定した宛先の確認、削除ができます。詳しくは、「送信宛先を確認する (宛先確認)」(2-7 ページ) を参照してください。

5 **宛先に間違いがなければ、〈スタート〉を押します。**
2 箇所以上の宛先を選択したときは、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、「送信宛先を確認する (宛先確認)」(2-7 ページ) を参照してください。

インターネットファクスを受信する（POP 受信）

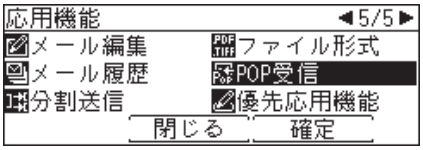
インターネットファクスの受信方法には、定期的に受信文書がないか POP サーバーを自動的にチェックする方法と、手動で POP サーバーをチェックする方法があります。

❑ 手動で受信確認する

早急に受信確認をしたい場合は、以下の操作を行います。

1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **「POP 受信」を選択し、［確定］を押します。**



「POP 受信中」と表示されます。
受信原稿がある場合は、「POP 受信完了」という表示の後、受信文書をプリントします。
受信文書がない場合は、「新しいメールはありません。」と表示されます。

❑ 自動で受信確認する

定期的に POP サーバーを自動確認する方法については、『ネットワーク機能編』第 4 章の「接続環境を設定する」の「電子メール送受信環境を設定する」を参照してください。

インターネットファクスに関する設定

〈応用機能〉を押して、インターネットファクスに関する設定を行います。送信のしかたについては、「インターネットファクス送信の基本操作」(3-3 ページ）を参照してください。

メール件名と本文を選択・編集する（メール編集）

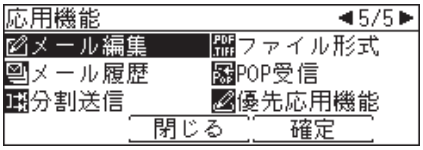
インターネットファクスで送信される電子メールの件名と本文を、定型文から選択できます。定型文を一時的に編集することもできます。

補足

- メール定型文の登録のしかたについては、『ネットワーク機能編』第 4 章の「メール定型文を設定する」を参照してください。
- 本商品の操作パネルから定型文を一時的に編集できますが、保存はできません。

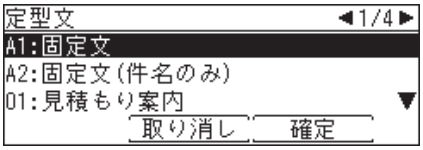
1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **「メール編集」を選択し、[確定] を押します。**



3 **[定型文] を押します。**

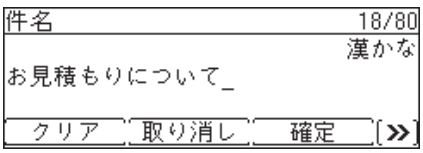
4 **定型文を選択し、[確定] を押します。**



・「A1: 固定文」は編集できません。「A2: 固定文（件名のみ)」は本文だけ編集できます。
・「A1: 固定文」を選択した場合は、以下のメッセージが送信されます。
　件名：E-mail Message
　本文：これはファクシミリから送信された電子メールです。添付ファイルを参照してください。

5 **件名を編集する場合は、「件名」を選択し、[確定] を押します。**

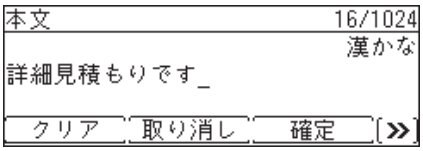
6 **件名を入力し、[確定] を押します。**



・件名は全角で 40 文字（半角で 80 文字）まで入力できます。
・文字入力のしかたは、「文字を入力する」(7-29 ページ）を参照してください。

7 本文を編集する場合は、「本文」を選択し、[確定] を押します。

8 本文を入力し、[確定] を押します。



・本文は全角で 512 文字（半角で 1,024 文字）まで入力できます。
・文字入力のしかたは、「文字を入力する」(7-29 ページ）を参照してください。
・[改行] を押すと、改行できます。改行は半角 2 文字分に相当します。
・[内容表示] を押すと、入力した本文を確認できます。
・[改行] や [内容表示] を表示するには、〈応用機能〉を押します。

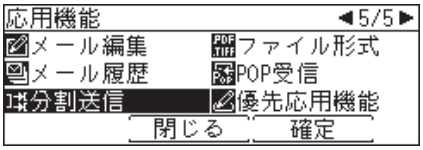
9 待機画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

読み取った原稿を分割して送信する（分割送信）

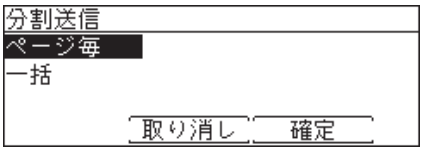
読み取った原稿を 1 枚ずつ別のファイルにし、送信します。

1 〈応用機能〉を押します。

2 「分割送信」を選択し、[確定] を押します。



3 「ページ毎」を選択し、[確定] を押します。



ページ毎　：読み取った原稿を 1 ページずつ別のファイルとして送信します。
一括　　：読み取った原稿をすべて同じファイルとして送信します。

ファイル形式を選択する（ファイル形式）

メールに添付するファイル形式を選択できます。

利用できるファイル形式

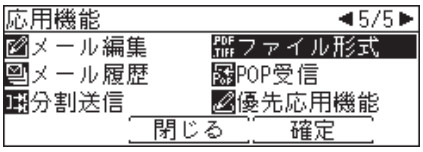
TIFF-S：原稿はすべて A4 サイズ、200 dpi 以下に変換して送信されます。相手機が TIFF を受信できない場合は、TIFF-S を選択してください。

TIFF： TIFF 形式です。原稿読み取り時の原稿サイズおよび解像度のまま送信します。

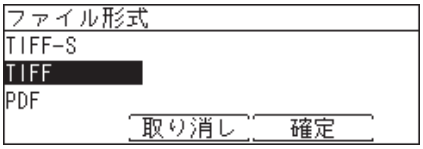
PDF: PDF 形式です。相手機がコンピューターの場合や当社機の場合はこの形式で送信できます。

1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **「ファイル形式」を選択し、［確定］を押します。**



3 **ファイル形式を選択し、［確定］を押します。**



（空白ページ）

第４章

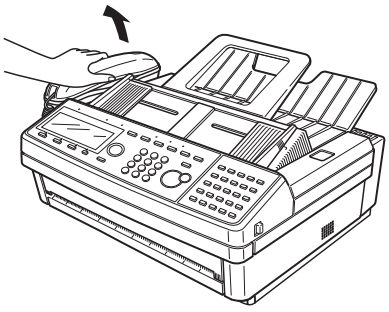
電話およびコピー機能を使う

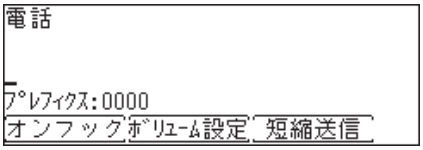
電話について **4-2**
電話をかける 4-2
電話を受ける 4-3
ハンドセットについて 4-3
ハンドセットの便利な機能を使用する 4-4
相手の番号を表示する（ナンバー・ディスプレイ） **4-6**
ディスプレイ表示について 4-6
ナンバー・ディスプレイを設定する 4-7
コピーのしかた **4-9**
コピー禁止事項 4-9
コピー中にメモリーオーバーしたとき 4-9
コピーをとる 4-10
読み取りに関する設定 4-10

電話について

電話をかける

1 **ハンドセットを上げるか、〈オンフック〉を押します。**





2 **ダイヤルします。**

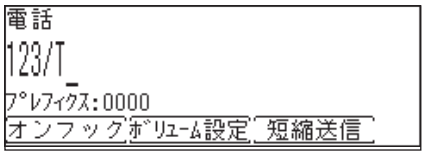
・本商品のテンキー、ワンタッチキー、短縮送信、宛先表、リダイヤルで宛先番号を入力できます。
・ハンドセットのテンキー、短縮ダイヤル、リダイヤルでも宛先番号を入力できます。（液晶ディスプレイに宛先番号は表示されません）
・宛先の指定方法については、「宛先を指定する」（5-2 ページ）を参照してください。

3 **電話がつながったら相手と話します。**

〈オンフック〉を押して電話をかけたときは、ハンドセットを上げて会話します。

補 足

- ダイヤル回線に接続されている場合に、一時的に PB 信号を発信をしたいときは、〈応用機能〉を押し、「トーン」を選択してから［確定］を押します。

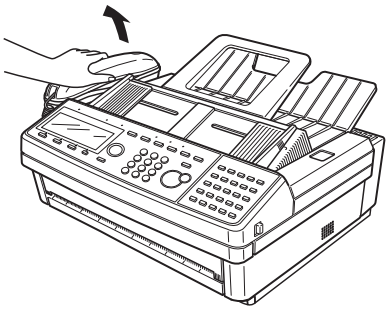


- プレフィクス番号を付加する場合は、〈応用機能〉を押し、「プレフィクス」を選択してから［確定］を押します。プレフィクス番号の登録のしかたについては、「ファクス機能の初期値を設定する」の「その他の初期値設定一覧」（7-17 ページ）を参照してください。

電話を受ける

1 **ベルが鳴ったらハンドセットを上げて、相手と会話します。**

相手から“ポーポー”と音が聞こえたり、無音のときは相手はファクスです。〈スタート〉を押すと受信できます。



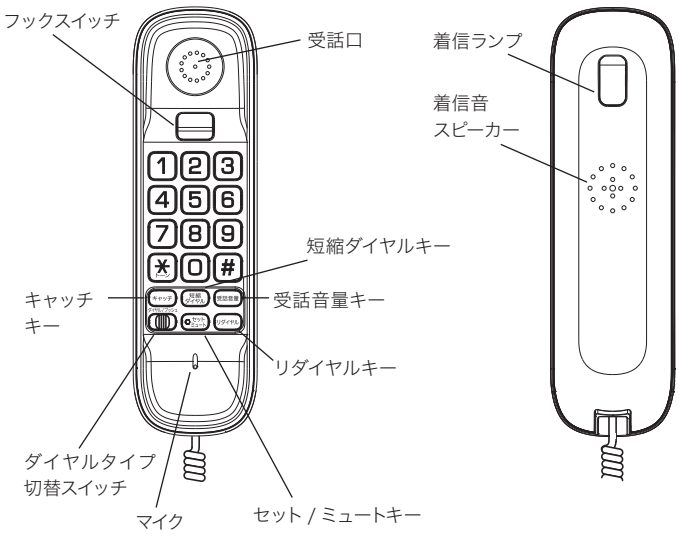
補足

電話を受けるには、増設電話またはハンドセットを接続する必要があります。

ハンドセットについて

本商品の電源が OFF のときも、ハンドセットのテンキーから電話をかけることができます。ただし、回線自体が停電時の通話に対応していないときは電話をかけることはできません。

❑ 各部の名称



❑ 回線種別を設定する

- 「ダイヤル種別の見分けかた」（1-16 ページ）を参照し、ダイヤルタイプ切替スイッチを使用している電話回線のダイヤルタイプに切り替えてください。
- ダイヤルタイプが 20PPS のときは「ダイヤル」に合わせます。
- ダイヤルタイプが 10PPS のときは、ハンドセットのテンキーを使って電話をかけることはできません。この場合、本商品のテンキーを使用してください。

❑ 短縮ダイヤルについて

- 本商品の宛先表とは別に、最大 10 件まで電話番号を短縮ダイヤルに登録できます。（→ 7-10 ページ）
- ハンドセットの短縮ダイヤルの使いかたは、「短縮ダイヤルを使う」（5-9 ページ）を参照してください。
- ハンドセットの短縮ダイヤルを本商品から操作したり、本商品の宛先表をハンドセットから操作したりすることはできません。

❑ リダイヤルについて

- かけ直しできる電話番号は 1 件・最大 31 桁までです。本商品側で電話をかけた場合は、リダイヤルできません。
- ハンドセットのリダイヤルの使いかたは、「リダイヤルを使う」（5-9 ページ）を参照してください。

補 足

- 電話機ヒモまたはハンドセットのカールコードを、電話コンセントまたは本商品から約 12 時間以上はずした場合、短縮ダイヤルの登録情報・リダイヤルの電話番号が消去されます。
- 停電時に電源が供給されない回線に接続しているときも、約 12 時間以上電源が供給されない状態が続くと、短縮ダイヤルの登録情報・リダイヤルの電話番号が消去されます。

ハンドセットの便利な機能を使用する

本体側の機能とは別に、ハンドセット側にも様々な機能があります。

❑ キャッチホンサービスを利用する

キャッチホンは、外線通話中に他から電話がかかってきた場合、通話中の相手を一時的に保留にして、新しくかかってきた相手と通話することができるサービスです。
キャッチホンのご利用については、最寄りの当社の支店、または営業所にお申し込みください。

1 **通話中、キャッチホンの呼び出し音が聞こえたら〈キャッチ〉を押します。**
新しくかかってきた相手につながります。

2 **元の相手に戻るときは、もう一度〈キャッチ〉を押します。**

補 足

- キャッチホンサービスをご利用の場合、〈キャッチ〉を押してから新しくかかってきた相手に切り換わるまで、多少時間がかかることがあります。
- ファクスの通信中にキャッチホンの呼び出し音が入ると、ファクスの画像が乱れることがあります。

❑ プッシュホンサービスを利用する

ダイヤル回線をご利用の場合でも、一時的に PB 信号に切り替えることができます。

1 **通話中に〈✳ / トーン〉を押します。**

以降、ハンドセットのテンキーを押すと PB 信号が出せるようになります。

2 **ダイヤル回線の設定に戻すには、電話を切ります。**

❑ 相手の声の大きさを変える（受話音量）

1 **通話中に〈受話音量〉を押します。**

〈受話音量〉を押すごとに、音量の大小が切り替わります。

❑ ミュートを使う

通話中に、こちら側のマイク音声を相手に聞こえないようにすることができます。

1 **通話中に〈セット / ミュート〉を押します。**

・〈セット / ミュート〉を押すごとに、ON/OFF が切り替わります。
・ミュートが ON のときは〈セット / ミュート〉のランプが点滅します。
・電話を切ると、ミュートは自動的に解除されます。

❑ 着信音を設定する

電話がかかってきたときの着信音を 3 種類（音量：小／中／大）のなかから選べます。
出荷時は「パターン：2、音量：大」に設定されています。

1 **ハンドセットを取り上げ、〈セット / ミュート〉を押します。**

2 **〈#〉を押します。**

3 **ハンドセットのテンキーを押します。**

・たとえば、「パターン：3、音量：中」にしたいときは、テンキーの〈8〉を押します。
・着信音量を一時的に「切」にしたい場合は〈0〉を押します。

	音量：小	音量：中	音量：大
パターン：1	〈1〉	〈2〉	〈3〉
パターン：2	〈4〉	〈5〉	〈6〉
パターン：3	〈7〉	〈8〉	〈9〉

4 **ハンドセットを元に戻します。**

補足

- 着信音量を一時的に「切」にした場合は、一度ハンドセットを持ち上げてからハンドセットホルダーに戻すと、着信音は前回設定した種類と音量に戻ります。
- 電話機ヒモまたはハンドセットのカールコードを、電話コンセントまたは本体から約 12 時間以上はずした場合、着信音の種類と大きさ設定が消去されます。
- 停電時に電源が供給されない回線に接続しているときも、12 時間以上電源が供給されない状態が続くと、着信音の種類と大きさ設定が消去されます。

相手の番号を表示する（ナンバー・ディスプレイ）

当社のナンバー・ディスプレイサービス（電話をかけてきた相手の番号を表示します）をご利用される場合は、当社との使用契約と本商品のナンバー･ディスプレイ設定を行ってください。本商品に増設電話を接続する場合、接続する電話機がナンバー・ディスプレイ対応の電話機であれば、増設電話でも同サービスを利用することができます。

ディスプレイ表示について

ファクス受信モードによって、番号を表示する時間が異なります。

❑ 電話待機のとき

本商品のディスプレイ、本商品に接続されたナンバー・ディスプレイ対応電話機ともに、ハンドセットを上げるまで相手の番号が表示されます。

❑ ファクス待機、電話／ファクス待機のとき

本商品のディスプレイ、本商品に接続されたナンバー・ディスプレイ対応電話機ともに、「受信中」になるまで相手の番号が表示されます。

表示される内容

- 相手の番号を表示
  相手の方が自分の番号を「通知する」にしているとき、または、186 をつけてダイヤルしているときには、相手の番号を表示します。

- 「非通知」表示
  相手の方が自分の番号を「通知しない」にしているとき、または、184 をつけてダイヤルしているときは、「非通知」と表示します。

- 「表示圏外」表示
  相手の方がサービスを行っていない地域から電話をかけたときは、「表示圏外」と表示します。

- 「公衆電話」表示
  相手の方が公衆電話から電話をかけているときは、「公衆電話」と表示します。公衆電話からでも相手が 184 をつけてダイヤルした場合は「非通知」になります。

補足

回線の雑音などにより、ナンバー・ディスプレイのデータを正しく受信できない場合があります。(故障ではありません)

ナンバー・ディスプレイを設定する

ナンバー・ディスプレイサービスを利用するための設定を行います。

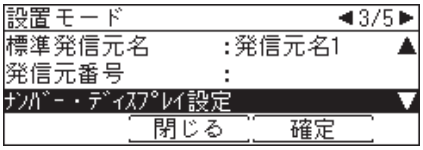
1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

3 「機器管理」を選択し、[確定]を押します。

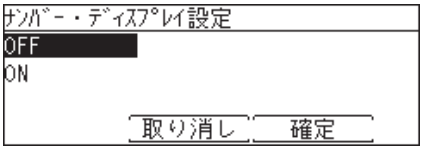
4 「設置モード」を選択し、[確定]を押します。

5 「ナンバー・ディスプレイ設定」を選択し、[確定]を押します。

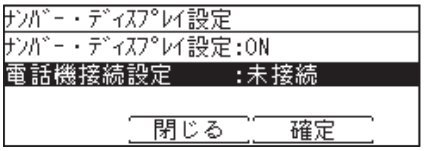


6 「ナンバー・ディスプレイ設定」を選択し、[確定]を押します。

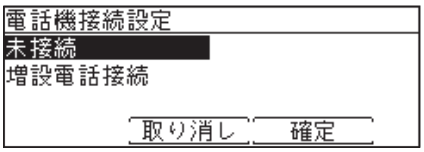
7 ナンバー・ディスプレイを有効にする場合は「ON」、しない場合は「OFF」を選択し、[確定]を押します。



8 「ナンバー・ディスプレイ設定」を ON に設定した場合は、「電話機接続設定」を選択し、［確定］を押します。



9 ナンバー・ディスプレイ対応電話機の接続方法を選択し、［確定］を押します。



・「未接続」　　：接続する電話機がナンバー・ディスプレイ未対応の場合や、電話機を接続しない場合に選択します。
・「増設電話接続」：ナンバー・ディスプレイ対応の電話機を増設電話に接続する場合に選択します。

10 ［閉じる］を押します。

補 足

- 増設電話端子に接続する増設電話がナンバー・ディスプレイ対応の場合、増設電話でもディスプレイに番号を表示します。増設電話でナンバー・ディスプレイ設定を「ON」にしてください。詳しくはご使用の増設電話の取扱説明書をご覧ください。
- 当社の工事が完了する前に設定を変更したり、工事完了後に設定を変更せずに本商品を使用したりすると、正常に電話やファクスを受けることができません。（ファクスの送信や電話をかけることはできます）
- 以下のときはディスプレイ表示が消えます。
  - 受信中（相手がファクス送信してきた場合）
  - ハンドセットを上げたとき（相手が電話してきた場合）

コピーのしかた

コピー禁止事項

本商品で何をコピーしてもよいわけではありません。
特に法律によって、そのコピーをとるだけでも罰せられるものがありますので、次の点にご注意ください。

❑ 法律によりコピーを禁止されているもの

紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債、地方債証券
外国紙幣、証券類
未使用郵便切手、はがき類
政府発行の印紙、税法で規定されている証券類

＜関係法律＞

- 通貨及証券模造取締法
- 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙等模造取締法
- 紙幣類似証券取締法

❑ 著作権の対象となっているもの

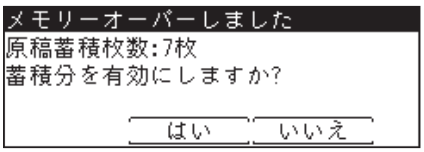
書籍、絵画、写真、図面、地図、楽譜などの著作物は、個人的にまたは、家庭内、その他これに準ずる限られた範囲内で使用する場合を除いてコピーは禁止されています。

❑ 注意を必要とするもの

政府発行のパスポート、公共機関や民間団体発行の免許証、許可証、身分証明書や通行証、食券などの切符類も勝手にコピーしないほうがよいと考えられます。
民間発行の有価証券（株券、小切手、手形等）、定期券、回数券などは事業所が業務に供するための最低必要部数をコピーする以外は、政府の指導によって注意が呼びかけられています。

コピー中にメモリーオーバーしたとき

原稿蓄積中にメモリーオーバーしたときは、以下のメッセージが表示されます。

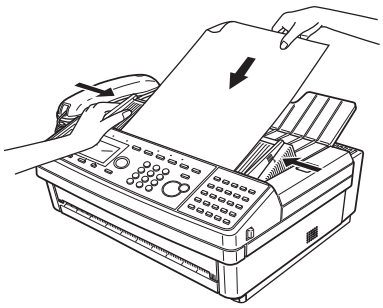


- [はい] を押すと、蓄積された原稿をコピーします。
- [いいえ] を押すと、コピーを中断します。設定を変更するか、メモリーが空くまで待ってからコピーしてください。
- 何も押さずに画面自動リセット時間（初期値：3 分）が経過すると、ジョブがキャンセルされます。画面自動リセット時間は変更できます。詳細は、「初期値を設定する」(7-11 ページ）を参照してください。

コピーをとる

コピーでは、仕分け、画質、濃度、コピー部数を設定することができます。

1 **原稿をセットします。**



原稿セットのしかたは「原稿をセットする」（1-28 ページ）を参照してください。

2 **〈コピー〉を押します。**

必要に応じて仕分け、画質（→ 4-11 ページ）、濃度（→ 4-11 ページ）を設定します。

3 **テンキーでコピー部数を入力します。**

1 ～ 99 部まで設定できます。

4 **〈スタート〉または〈コピー〉を押します。**

・コピーを中断したいときは、〈ストップ〉を押します。
・複数枚の原稿のコピー中は、読み取り中に [画質] ・ [濃度] を押すと、原稿ごとに画質・濃度を変えることができます。

読み取りに関する設定

補 足

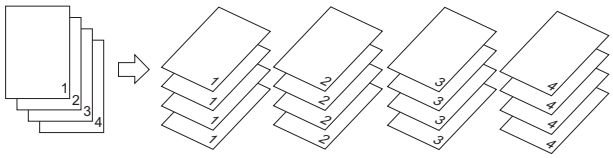
設定をよく変更する場合は、初期値を変更しておくと、設定を変更する手間が省けます。詳細は、「コピー機能の初期値を設定する」（7-13 ページ）を参照してください。

❑ 仕分け

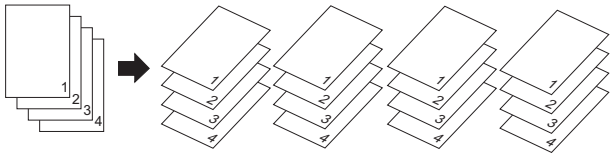
コピーをページ順にそろえられます。コピーしたあとに手作業でページをそろえる手間が省けます。

1 **[仕分け] を押すごとに、ソート・ノンソートが切り替わります。**

ノンソート
原稿のページごとに用紙を仕分けします。



ソート
1 部ごとに用紙を仕分けします。



❑ 画質

原稿に合わせて、読み取り画質を選択します。

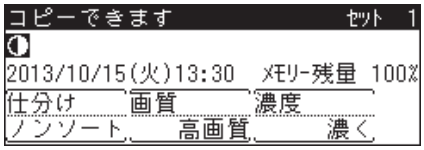
1 **［画質］を押すごとに、読み取り画質が変わります。**

標　準　　：普通の文字の原稿をコピーするとき
高画質　　：小さな文字の原稿をコピーするとき（新聞など）
超高画質　：精密なイラストや辞書のような細かい文字をコピーするとき
写　真　　：写真をコピーするとき

❑ 濃度

原稿に合わせて、読み取り濃度を選択します。

1 **［濃度］を押すごとに、読み取り画質が変わります。**



薄く　　：薄く読み取りたいときに選択します。
普通　　：標準の原稿を読み取りたいときに選択します。
濃く　　：濃く読み取りたいときに選択します。

補 足

ノンソートの場合、コピー部数を 1 部にしたときは、「標準」を選択しても「高画質」でコピーします。

（空白ページ）

第５章

宛先を指定する

宛先を指定する **5-2**
登録宛先から指定する 5-2
直接入力して指定する 5-7
履歴から指定する 5-8
ハンドセットで指定する 5-9

宛先を指定する

宛先の指定のしかたには、以下の方法があります。

- 登録宛先から指定する
  - 宛先表を使う
  - ワンタッチキーを使う
  - 短縮送信を使う
  - グループ送信を使う
- 直接入力して指定する
  - ファクス番号を入力する
  - メールアドレスを入力する
- 履歴から指定する
  - リダイヤル
  - メール履歴

補 足

宛先表、ワンタッチキー、短縮送信、グループ送信を使用するには、あらかじめ宛先表に宛先を登録しておく必要があります。(→ 7-2 ページ)

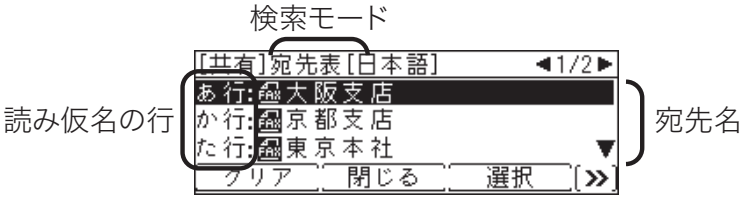
登録宛先から指定する

❑ 宛先表を使う

宛先表に登録した宛先を、名前で検索して呼び出すことができます。

宛先表画面のみかた

宛先表に登録されている相手先名の読み仮名によって、宛先を日本語（50 音順）、アルファベット、記号の順番で表示します。



1 **カーソルキーの下〈宛先表〉を押して、宛先表を表示します。**

2 **宛先を選択し、[選択] を押します。**

3 **[閉じる] を押します。**

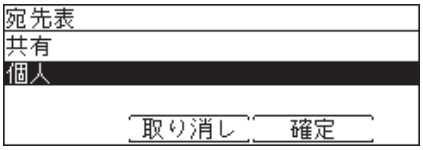
❑ 個人用の宛先表を使う

ログイン（→ 1-26 ページ）している場合は、個人用の宛先表を使用できます。個人用の宛先表は、ネットワーク画面にて登録します。詳細は、『ネットワーク機能編』第 4 章の「宛先表を作成する」を参照してください。

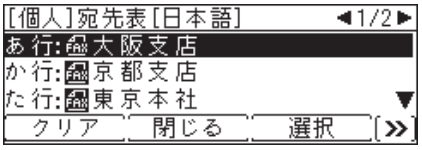
1 **ログインします。（→ 1-26 ページ）**

2 **カーソルキーの下〈宛先表〉を押して、宛先表を表示します。**

3 **「個人」を選択し、［確定］を押します。**



4 **宛先を選択し、［選択］を押します。**

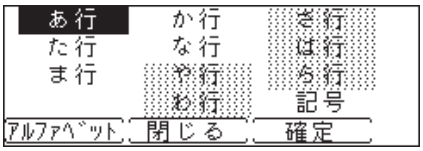


5 **［閉じる］を押します。**

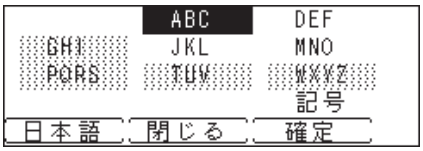
補 足

- 宛先表では、名前の先頭に宛先の種類別を表すアイコンが表示されます。
  ：ファクス番号またはファクス番号の宛先グループ
  ：メールアドレスまたはメールアドレスの宛先グループ
- 選択された宛先にはチェックマーク（✔）が付きます。複数の宛先を選択できます。選択を解除したいときは［クリア］を押します。
- 手動送信（→ 2-4 ページ）では 1 宛先しか選択できません。手動送信の場合は、［選択］が［確定］に変わり、［確定］を押すとすぐに宛先へダイヤルします。
- テンキーを使って、別の行の宛先を素早く表示できます。たとえば、名前が「な行」で始まる宛先（「名古屋支店」など）を検索したい場合は、テンキーの〈5〉を押します。
- 記号で始まる宛先を検索する場合は、テンキーの〈#〉を押します。

- 〈応用機能〉→［索引］を押すと、五十音の行が表示されます。五十音の行を選択し、［確定］を押すと、その行の読みの宛先を表示します。
- その行の読みの宛先が登録されていない場合は、以下の画面のようにグレー表示されます。



- アルファベットで検索したい場合は、[アルファベット] を押して、アルファベットのグループを指定してから、[確定] を押します。
- 検索モードがアルファベットに切り替わり、テンキーで他のアルファベットグループを素早く表示できるようになります。



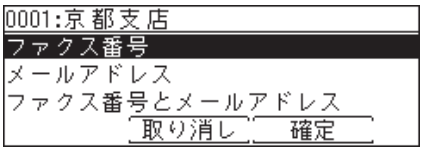
❑ ワンタッチキーを使う

本商品にはワンタッチキーが 25 個あり、宛先表の 1 ～ 25 に登録されている宛先を指定できます。

1 **ワンタッチキーを押します。**

2 **ファクス番号とメールアドレスが登録されている場合は、宛先を選択し［確定］を押します。**

LAN（有線）が OFF のときは、以下の画面は表示されません。（→ 1-20 ページ）



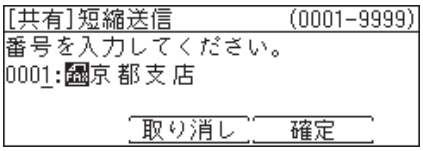
❑ 短縮送信を使う

短縮番号を入力して宛先表に登録されている宛先を指定できます。

1 **〈短縮送信〉を押します。**

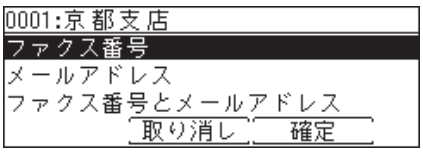
ご愛用スイッチに〈短縮送信〉を設定していない場合は、〈応用機能〉→「短縮送信」を選択し、[確定] を押します。

2 **テンキーで短縮番号を入力し、［確定］を押します。**



3 **ファクス番号とメールアドレスが登録されている場合は、宛先を選択し［確定］を押します。**

LAN（有線）が OFF のときは、以下の画面は表示されません。（→ 1-20 ページ）



❑ 個人用の短縮送信を使う

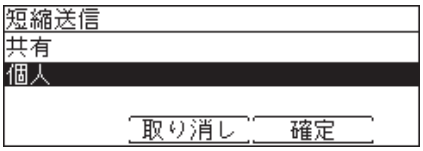
ログイン（→ 1-26 ページ）している場合は、個人用の短縮番号を使用できます。個人用の短縮番号は、ネットワーク画面にて登録します。詳細は、『ネットワーク機能編』第 4 章の「宛先表を作成する」を参照してください。

1 **ログインします。（→ 1-26 ページ）**

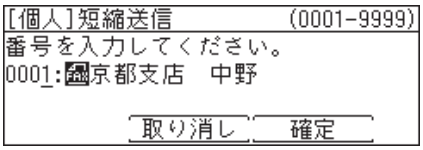
2 **〈短縮送信〉を押します。**

ご愛用スイッチに〈短縮送信〉を設定していない場合は、〈応用機能〉→「短縮送信」を選択し、[確定] を押します。

3 **「個人」を選択し、［確定］を押します。**

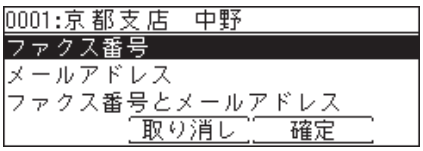


4 **テンキーで短縮番号を入力し、［確定］を押します。**



5 **ファクス番号とメールアドレスが登録されている場合は、宛先を選択し［確定］を押します。**

LAN（有線）が OFF のときは、以下の画面は表示されません。（→ 1-20 ページ）



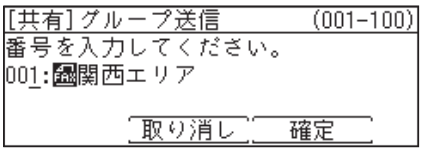
❑ グループ送信を使う

複数の宛先を指定するときに、宛先グループを選択して指定できます。

1 〈応用機能〉を押します。

2 「グループ送信」を選択し、[確定]を押します。

3 テンキーでグループ番号を入力し、[確定]を押します。



❑ 個人用のグループ送信を使う

ログイン（→ 1-26 ページ）している場合は、個人用の宛先グループを選択して指定できます。個人用の宛先グループは、ネットワーク画面にて登録します。詳細は、『ネットワーク機能編』第 4 章の「宛先表を作成する」を参照してください。

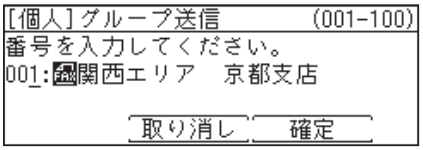
1 ログインします。(→ 1-26 ページ)

2 〈応用機能〉を押します。

3 「グループ送信」を選択し、[確定]を押します。

4 「個人」を選択し、[確定]を押します。

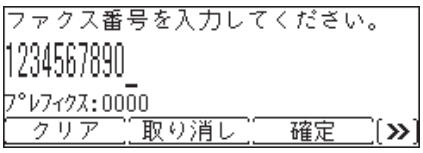
5 テンキーでグループ番号を入力し、[確定]を押します。



直接入力して指定する

❑ ファクス番号を直接入力する

1 **テンキーで相手のファクス番号を入力し、［確定］を押します。**



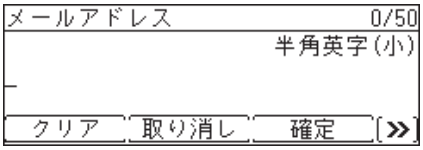
・番号は 40 桁まで入力できます。
・番号を間違えて入力した場合は、［クリア］を押して消去します。
・〈応用機能〉→［ダイヤル記号］を押すと、ダイヤル記号やプレフィクス番号を入力できます。ダイヤル記号については、「ダイヤル記号について」（2-15 ページ）を参照してください。
・入力したファクス番号を宛先表に登録したい場合は、〈応用機能〉→［宛先登録］を押します。詳しくは、「便利な登録方法 2　テンキーで入力した番号を登録する」（7-5 ページ）を参照してください。

❑ メールアドレスを直接入力する

1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **「メールアドレス」を選択し、［確定］を押します。**

3 **テンキーでメールアドレスを入力し、［確定］を押します。**



・文字入力のしかたについては、（→ 7-29 ページ）を参照してください。
・メールアドレスは半角で 50 文字まで入力できます。
・入力したメールアドレスを宛先表に登録したい場合は、〈応用機能〉→［登録］を押します。詳しくは、「便利な登録方法 3　入力したメールアドレスを登録する」（7-5 ページ）を参照してください。

補 足

LAN（有線）が OFF のときは、「メールアドレス」の使用はできません。（→ 1-20 ページ）

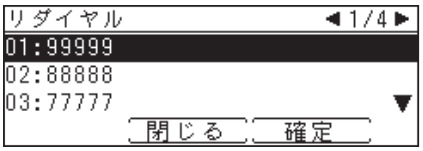
履歴から指定する

❑ ダイヤル履歴から選択する（リダイヤル）

本商品のテンキーを使ってダイヤルした電話番号や手動送信で送った宛先の番号を、最後にダイヤルした宛先から数えて 10 件まで記憶しています。
ダイヤル履歴から電話番号を指定し、再び同じ番号へダイヤルできます。

1 **カーソルキーの上（リダイヤル）を押します。**

2 **目的の宛先を選択し、[確定] を押します。**



[確定] を押した後、入力された番号を修正できます。

3 **番号を確認し、[確定] を押します。**

補足

- ハンドセットのテンキーや、増設電話でダイヤルした番号は記憶されません。
- 1 件につき 40 桁までの電話番号を記憶します。

❑ メール送信履歴からメールアドレスを選択する（メール履歴）

本商品のテンキーを使って直接入力して送信したメールアドレスを、最後に送信した宛先から数えて 20 件まで記憶しています。
メール履歴からメールアドレスを指定し、再び同じ宛先へ送信できます。

1 **〈応用機能〉を押します。**

2 **「メール履歴」を選択し、[確定] を押します。**

3 **目的のメールアドレスを選択し、[確定] を押します。**

[確定] を押した後、入力されたメールアドレスを修正できます。

4 **メールアドレスを確認し、[確定] を押します。**

補足

- メール履歴は、メールアドレスを直接入力したときのみ記憶されます。登録宛先から指定して送信したときは記憶されません。
- LAN（有線）が OFF のときは、「メール履歴」の使用はできません。（→ 1-20 ページ）

ハンドセットで指定する

手動送信や電話をかけるときに、ハンドセットの機能をつかって、宛先を指定できます。

❑ 短縮ダイヤルを使う

あらかじめハンドセットに短縮ダイヤルを登録する（→ 7-10 ページ）必要があります。

1 **ハンドセットの〈短縮ダイヤル〉を押します。**

2 **ハンドセットのテンキーで短縮番号（0 ～9）を入力します。**

❑ リダイヤルを使う

かけ直しできる電話番号は 1 件・最大 31 桁までです。本商品側で電話をかけた場合は、リダイヤルできません。

1 **ハンドセットの〈リダイヤル〉を押します。**

補 足

- 電話機ヒモまたはハンドセットのカールコードを、電話コンセントまたは本体から約 12 時間以上はずした場合、短縮ダイヤルの登録情報・リダイヤルの電話番号が消去されます。
- 停電時に電源が供給されない回線に接続しているときも、約 12 時間以上電源が供給されない状態が続くと、短縮ダイヤルの登録情報･リダイヤルの電話番号が消去されます。

（空白ページ）

第 6 章

通信管理

送信結果を確認する（送信確認証） 6-2
送信確認証を発行する 6-2
送信確認証のみかた 6-3
通信履歴を管理する 6-4
通信管理レポートを手動でプリントする 6-6
通信管理レポートを自動でプリントする 6-7
通信管理レポートのみかた 6-8

送信結果を確認する（送信確認証）

1 通信ごとの通信結果を確認できます。
ここで説明する設定は、設定した直後の通信 1 回のみに有効です。直後の通信が完了すると初期値設定に戻ります。

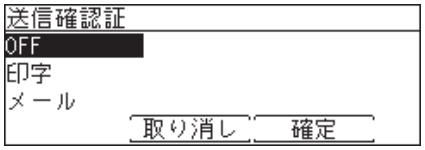
送信確認証を発行する

1 原稿をセットします。

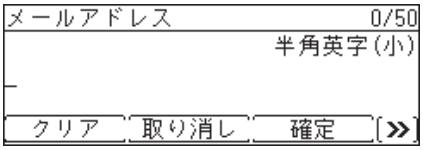
2 〈応用機能〉を押します。

3 「送信確認証」を選択し、［確定］を押します。

4 送信確認証の設定をします。



5 「メール」を選択した場合は、送信先のメールアドレスを入力し、［確定］を押します。



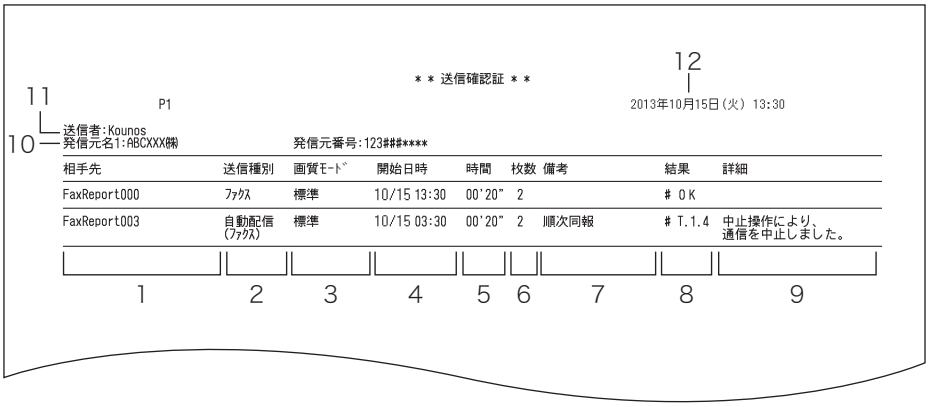
・メールアドレスは 50 文字まで入力できます。
・文字入力のしかたについては、（→ 7-29 ページ）を参照してください。
・入力した文字を削除する場合は、［クリア］を押します。

6 宛先を指定し、〈スタート〉を押します。
2 箇所以上の宛先を選択したときは、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、「送信宛先を確認する（宛先確認）」（2-7 ページ）を参照してください。

補 足

- LAN（有線）が OFF のときは、「メール」の使用はできません。
- 送信確認証の初期値設定を変更する場合は、「ファクス機能の初期値を設定する」（7-16 ページ）を参照してください。

送信確認証のみかた



番号	項目	説明
1	相手先	宛先の名前、ファクス番号、またはメールアドレス
2	送信種別	ファクス：ファクス送信の場合 メール：インターネットファクス送信の場合
3	画質モード	通信した画質
4	開始日時	通信開始の日時
5	時間	通信開始から終了の所要時間
6	枚数	送信枚数
7	備考	以下の通信をした場合は、通信の種類がプリントされます。 • 手動送信 • 順次同報 • Ｆコード送信 • ＰＣファクス送信 • リルート FAX 送信
8	結果	OK：正常終了 ＊：ECM モード送信 ＃：スーパー G3 送信 コード：通信エラーコード＊1
9	詳細	通信が正常に終了した場合は、空欄 通信エラーが発生した場合は、エラーメッセージがプリントされます＊1
10	発信元名・発信元番号	登録した発信元名・発信元番号
11	送信者	ユーザー名（ユーザーログインしている場合）
12	―	送信確認証がプリントされた日時

＊1 通信エラーコードとエラーメッセージがプリントされた場合は、内容を確認して再送信してください。詳しくは、「エラーメッセージが表示されたときは」（10-5 ページ）を参照してください。

通信履歴を管理する

ファクス、インターネットファクス、フォルダー送信（自動配信・アーカイブでフォルダーを指定した場合）の通信履歴を記録した通信管理レポートをプリントし、通信の履歴を確認できます。

❑ 通信管理レポートの種類

通信管理レポートには、以下の種類があります。

- ファクス送信管理レポート（ファクスの送信履歴）
- ファクス受信管理レポート（ファクスの受信履歴）
- ファクス送受信管理レポート（ファクスの送受信履歴）
- メール送信管理レポート（インターネットファクス送信履歴）
- メール受信管理レポート（インターネットファクス受信履歴）
- メール送受信管理レポート（インターネットファクス送受信履歴）
- 共有フォルダー送信管理レポート（フォルダーに送信された文書の送信履歴）

❑ 通信管理レポートのプリントについて

通信管理レポートのプリントには、通信履歴を確認したいときに本体を操作してプリントする手動印字と、あらかじめ登録しておいた設定にしたがって自動的にプリントする自動印字があります。

手動印字の場合は、指定した通信履歴の最新 100 通信分をプリントします。（→ 6-6 ページ）

自動印字の場合は、最新の通信履歴が 100 通信になったときにプリントする方法と、指定した通信履歴を毎日設定した時刻にプリントする方法（通信日報）があります。（→ 6-7 ページ）

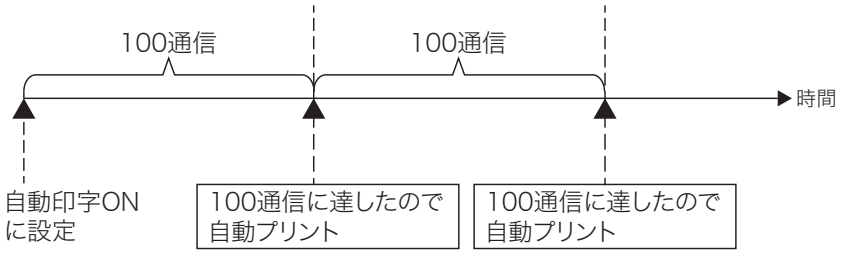
❑ 通信管理レポートの自動印字について

自動印字には以下の 2 種類のプリント方法があります。

- 最新の通信履歴が 100 通信になったときにプリントする方法
- 指定した通信履歴を毎日設定した時刻にプリントする方法（通信日報）

最新の通信履歴が 100 通信になったときにプリントする方法

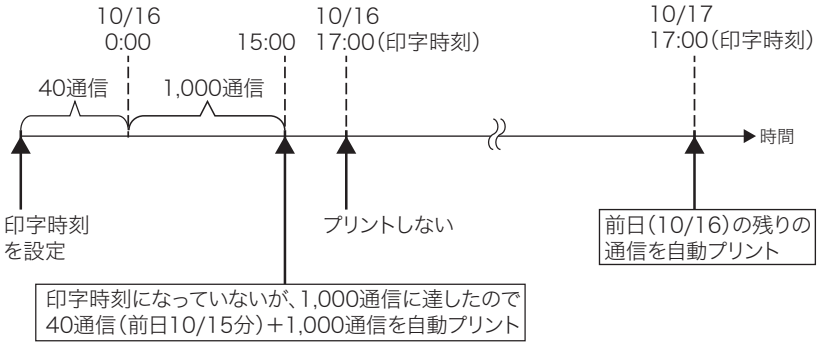
「通信管理レポート自動印字」を ON に設定すると、時刻に関係なく、100 通信に達した時点でプリントします。



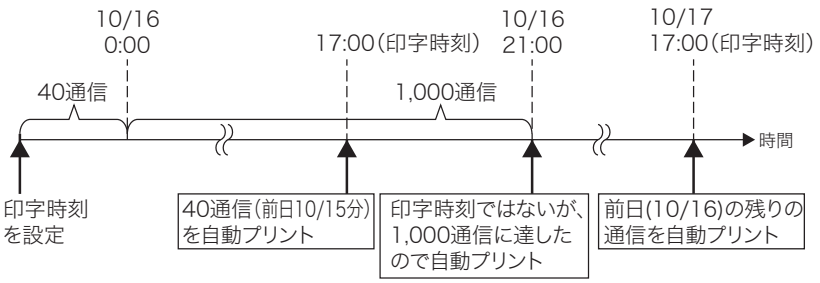
指定した通信履歴を毎日設定した時刻にプリントする方法（通信日報）

「通信管理レポート自動印字」の「印字時刻指定」で印字時刻を設定すると、前日分（00:00 ～ 23:59）の通信を翌日の印字時刻にプリントします。
ただし、1 日の通信件数が 1,000 通信を超えたときは、1,000 通信に達した時点で通信履歴をプリントし、残りの通信履歴は翌日の印字時刻にプリントします。（100 通信の時点では自動プリントしません）

（例）設定した印字時刻（17:00）までに通信件数が 1,000 通信に達したとき
1,000 通信に達した時点で、前日分の 40 通信と 1,000 通信の通信履歴を自動プリントします。残りの通信履歴は翌日の指定時刻にプリントします。



（例）設定した印字時刻（17:00）までに通信件数が 1,000 通信に達していないとき
1,000 件に達した時点で、1,000 通信の通信履歴を自動プリントします。残りの通信履歴は翌日の指定時刻にプリントします。



補足

- 最新の 100 通信以前の通信履歴は、プリントできません。
- 自動印字の場合は、送受信履歴のない通信管理レポートもプリントします。

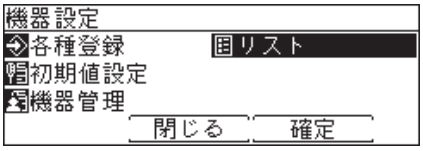
通信管理レポートを手動でプリントする

指定した通信履歴の最新 100 通信分をプリントします。

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

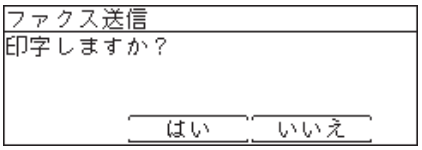
3 「リスト」を選択し、［確定］を押します。



4 「通信管理レポート」を選択し、［確定］を押します。

5 プリントしたい通信管理レポートを選択し、［確定］を押します。

6 確認画面が表示されたら、［はい］を押します。



補足

通信管理レポートのみかたについては、「通信管理レポートのみかた」（6-8 ページ）を参照してください。

通信管理レポートを自動でプリントする

最新の通信履歴が 100 通信になったときにプリントする方法と、指定した通信履歴を毎日設定した時刻にプリントする方法（通信日報）があります。

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

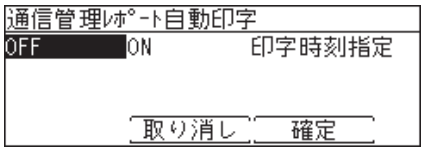
3 「初期値設定」を選択し、［確定］を押します。

4 「ファクス機能」を選択し、［確定］を押します。

5 「その他の設定」を選択し、［確定］を押します。

6 「通信管理レポート自動印字」を選択し、［確定］を押します。

7 自動印字（100 通信ごとに印字）を設定するときは「ON」、印字時刻（通信日報）を設定するときは「印字時刻指定」を選択し、［確定］を押します。

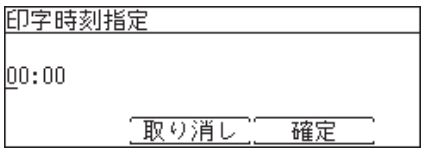


8 手順 7 で「印字時刻指定」を選択した場合は次の手順に進みます。

「ON」を選択した場合は、操作終了です。

9 「印字時刻指定」を選択し、［確定］を押します。

10 印字時刻を入力し、［確定］を押します。



時刻は 24 時間制で入力してください。

11 プリントしたい通信履歴を ON に設定します。

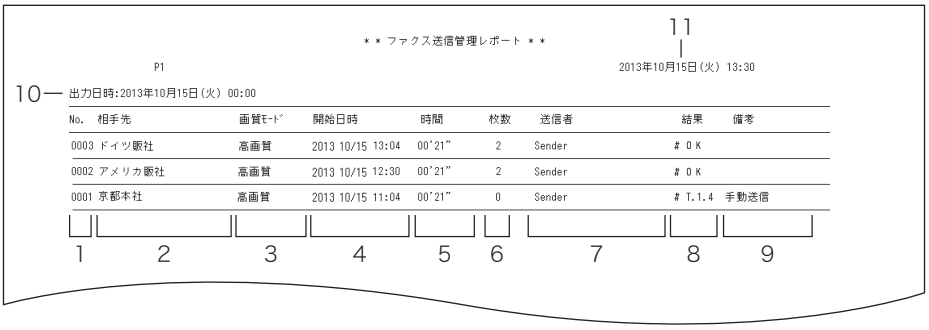
プリントしたい通信履歴を選択し、［確定］を押します。「ON」を選択し、［確定］を押します。

12 ［閉じる］を押します。

通信管理レポートのみかた

❑ ファクス送信管理レポート

プリント例



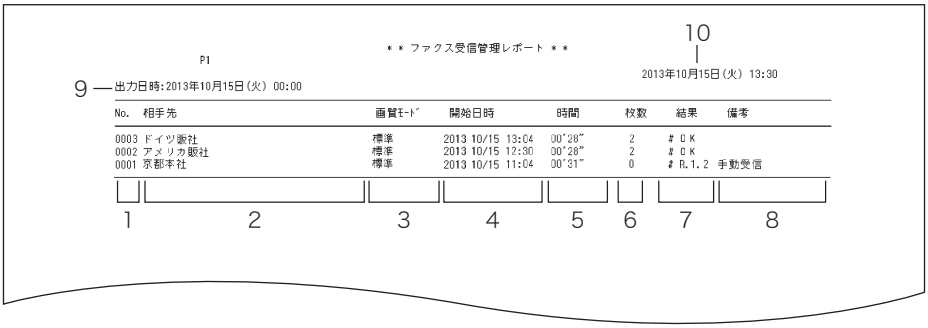
番号	項目	説明
1	No.	通信の管理番号
2	相手先	宛先の名前、またはファクス番号
3	画質モード	通信した画質
4	開始日時	通信開始の日時
5	時間	通信の開始から終了の所要時間
6	枚数	送信枚数
7	送信者	• ユーザー名またはユーザー ID（ユーザーがログインしている場合） • ゲスト（ユーザーログインしていない場合） • 機器名称（機器が自動で送信した場合）
8	結果	OK　：正常終了 *　：ECM モード受信 #　：スーパー G3 受信 コード：通信エラーコード＊1
9	備考	以下の通信をした場合は、通信の種類がプリントされます。そのほかの通信のときは、何も表示されません。 • 手動送信 • ポーリング送信 • Ｆコード送信 • 順次同報 • ＰＣファクス送信 • アーカイブ送信 • リルートファクス送信 • 転送
10	出力日時＊2	通信日報のプリント予定日時
11	—	通信管理レポートをプリントした日時。 日報の場合は、本商品が前日分の通信結果を集計した日時を示します。日報として集計された通信結果は、通信日報のプリント予定日時にプリントされます。

＊1 通信エラーコードがプリントされた場合は、内容を確認して再送信してください。エラーコードについては、「エラーメッセージが表示されたときは」（10-5 ページ）を参照してください。

＊2 出力日時がプリントされるのは、通信日報だけです。

❑ ファクス受信管理レポート

プリント例



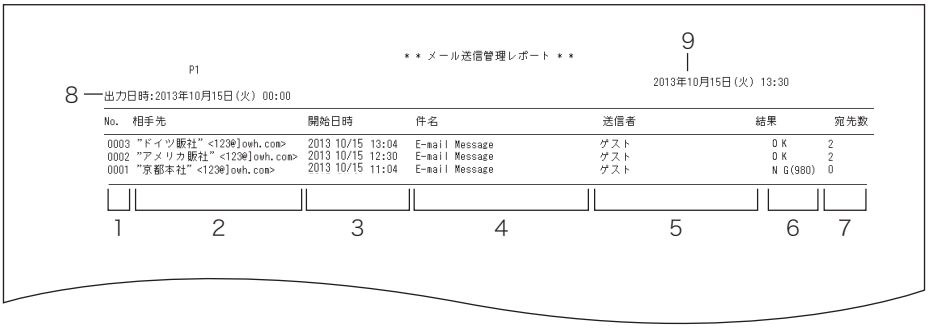
番号	項目	説明
1	No.	通信の管理番号
2	相手先	送信者の名前、またはファクス番号
3	画質モード	通信した画質
4	開始日時	通信開始の日時
5	時間	通信開始から終了の所要時間
6	枚数	受信枚数
7	結果	OK　：正常終了 *　：ECM モード受信 #　：スーパー G3 受信 コード：通信エラーコード＊1
8	備考	以下の通信をした場合は、通信の種類がプリントされます。そのほかの通信のときは、何も表示されません。 • 手動受信 • ポーリング受信 • F コードポーリング受信 • F コード親展受信 • F コード掲示板受信
9	出力日時＊2	通信日報のプリント予定日時
10	−	通信管理レポートをプリントした日時。 日報の場合は、本商品が前日分の通信結果を集計した日時を示します。日報として集計された通信結果は、通信日報のプリント予定日時にプリントされます。

＊1 エラーコードについては、「エラーメッセージが表示されたときは」(10-5 ページ）を参照してください。

＊2 出力日時がプリントされるのは、通信日報だけです。

❑ メール送信管理レポート

プリント例



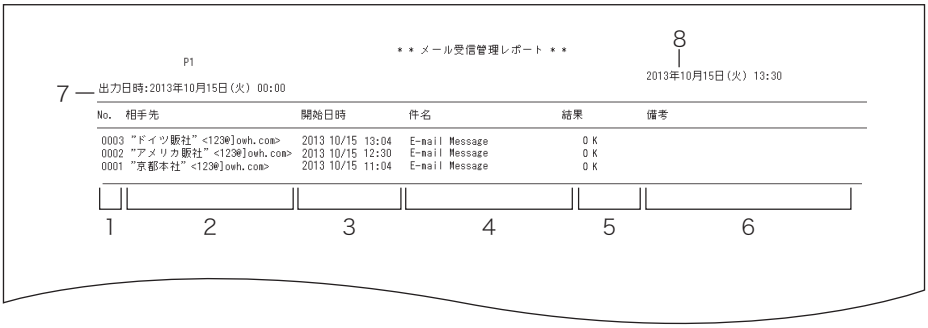
番号	項目	説明
1	No.	通信の管理番号
2	相手先	宛先の名前、またはメールアドレス
3	開始日時	送信開始の日時
4	件名	通信の件名
5	送信者	ユーザー名（ユーザーログインしている場合） ゲスト（ユーザーログインしていない場合） 機器名（送信確認証を送信した場合）
6	結果	OK　：正常終了 コード：通信エラーコード＊1
7	宛先数	送信した宛先の数
8	出力日時＊2	通信日報のプリント予定日時
9	−	通信管理レポートをプリントした日時。 日報の場合は、本商品が前日分の通信結果を集計した日時を示します。日報として集計された通信結果は、通信日報のプリント予定日時にプリントされます。

＊1 通信エラーコードがプリントされた場合は、内容を確認して再送信してください。エラーコードについては、「エラーメッセージが表示されたときは」（10-5 ページ）を参照してください。

＊2 出力日時がプリントされるのは、通信日報だけです。

❑ メール受信管理レポート

プリント例



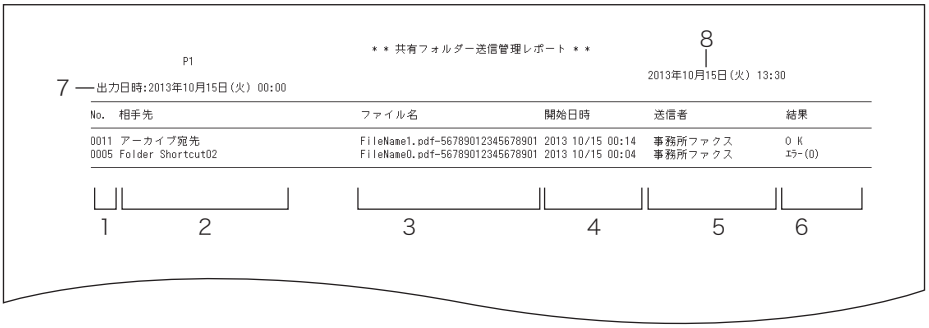
番号	項目	説明
1	No.	通信の管理番号
2	相手先	送信者の名前、またはメールアドレス
3	開始日時	通信開始の日時
4	件名	通信の件名
5	結果	OK　：正常終了 コード：通信エラーコード＊1
6	備考	本体が以下の操作を行った場合は、備考欄に表示されます。 • ファクス転送： メールを受け取り、ファクスへ転送しました。 • プリント： MDN、または DSN をプリントしました。 • エラーメール（MDN）： 受信時にエラーが発生し、MDN の応答を送信しました。 • エラーメール（転送）： 受信時にエラーが発生し、受信したメールを指定の宛先へ転送しました。 • エラーメール（返信）： 受信時にエラーが発生し、受信したメールを送信者に返信しました。 • エラーメール（通知）： 受信時にエラーが発生し、エラー通知を送信者に送信しました。 • エラーメール（サイズオーバー）： メールの容量が大きすぎるため受信時にエラーが発生し、サイズオーバーの通知メールを送信しました。 • 消去： 受信時にエラーが発生し、受信したメールを消去しました。
7	出力日時＊2	通信日報のプリント予定日時
8	−	通信管理レポートをプリントした日時。 日報の場合は、本商品が前日分の通信結果を集計した日時を示します。日報として集計された通信結果は、通信日報のプリント予定日時にプリントされます。

＊1 エラーコードについては、「エラーメッセージが表示されたときは」（10-5 ページ）を参照してください。

＊2 出力日時がプリントされるのは、通信日報だけです。

❑ 共有フォルダー送信管理レポート

プリント例



番号	項目	説明
1	No.	通信の管理番号
2	相手先	自動配信の場合： フォルダーショートカット名またはフォルダーパス。 アーカイブの場合：「アーカイブ宛先」と表示されます。
3	ファイル名	保存されたファイルのファイル名
4	開始日時	フォルダー送信開始の日時
5	送信者	機器状態に登録されている機器名称
6	結果	OK ：正常終了 コード：通信エラーコード＊1
7	出力日時＊2	通信日報のプリント予定日時
8	−	通信管理レポートをプリントした日時。 日報の場合は、本商品が前日分の通信結果を集計した日時を示します。日報として集計された通信結果は、通信日報のプリント予定日時にプリントされます。

＊1 エラーコードについては、「エラーメッセージが表示されたときは」(10-5 ページ）を参照してください。

＊2 出力日時がプリントされるのは、通信日報だけです。

第７章

機器設定のしかた

宛先を登録する 7-2
宛先表に登録する 7-2
宛先グループを登録・変更する 7-7
ハンドセットの短縮ダイヤルに登録する 7-10
初期値を設定する 7-11
初期値設定一覧 7-12
コピー機能の初期値を設定する 7-13
メール機能の初期値を設定する 7-15
ファクス機能の初期値を設定する 7-16
節電モードを設定する 7-19
優先応用機能を変更する 7-21
ご愛用スイッチの登録内容を変更する 7-22
ジョブメモリーを使用する 7-23
ジョブメモリーを登録する・変更する 7-23
ジョブメモリーを削除する 7-24
ジョブメモリーリストをプリントする 7-25
ジョブメモリーを実行する 7-25
リストをプリントする 7-26
プリントのしかた 7-26
リスト一覧 7-26
機器情報を確認する 7-28
文字を入力する 7-29
文字入力に使用するキー 7-29
文字入力画面について 7-30
かな漢字変換について 7-30
入力モードについて 7-32
文字の割り当て 7-33
漢字・ひらがなを入力する 7-34
英字を入力する 7-35
数字を入力する 7-35
記号を入力する 7-35
空白を入力する 7-36
文字を削除する・挿入する 7-37

宛先を登録する

ファクス送信やメール送信などで使う宛先表を登録する方法を説明します。

宛先表に登録する

❑ 宛先表に登録できる内容

宛先は、500 件まで登録できます。

項目	内容
短縮番号	宛先の短縮番号です。(0001 ～ 9999) 短縮送信で宛先を指定するときに、この番号を入力します。
相手先名	相手先の名前を全角で 15 文字（半角で 30 文字）まで登録できます。
敬称	「宛先名表示」機能が ON のとき、送信原稿の先頭に追加される相手先名に敬称（様、殿、御中のいずれか）を付けることができます。 （工場出荷時の設定では、「宛先名表示」機能は ON に設定されています）
読み仮名*1	宛先表で検索するときに使うキーワードになります。 全角で 10 文字（半角で 20 文字）まで登録できます。
ファクス番号	相手先のファクス番号を 40 桁まで登録できます。 ポーズや「ー」（ハイフン）などのダイヤル記号を入力する場合は、〈応用機能〉→［ダイヤル記号］を押します。
メールアドレス	相手先のメールアドレスを 50 文字まで登録できます。
スーパー G3	スーパー G3（超高速通信モード）で送信できます。 通常は ON にしておきます。

＊1「読み仮名」を入力するには、「相手先名」の入力が必要です。

お願い

間違い電話や誤送信を防ぐために、相手先番号を登録する際は番号間違いのないよう液晶ディスプレイ表示を見ながら正確に行ってください。また、登録後は宛先リスト（→ 7-26 ページ）で正しく登録されていることを確認してください。

補 足

個人用の宛先表は、ネットワーク画面にて登録します。詳細は、『ネットワーク機能編』第 4 章の「宛先表を作成する」を参照してください。

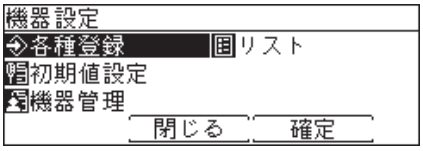
❑ 登録・変更する

宛先表に相手先番号や相手先名などを登録する手順を説明します。
登録内容を変更する場合は、それぞれの手順にて上書きまたは消去して入力し直します。

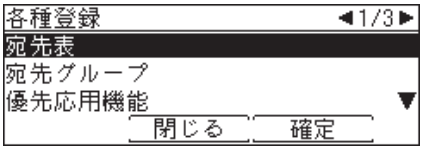
1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

3 「各種登録」を選択し、［確定］を押します。



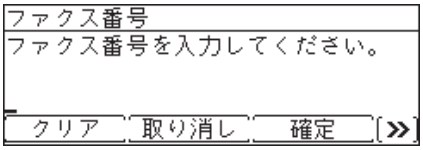
4 「宛先表」を選択し、［確定］を押します。



5 登録または変更したい宛先を選択し、［登録 / 変更］を押します。

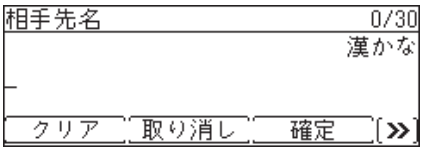
・新規に登録する場合は、＜未登録＞を選択します。
・登録内容を変更する場合は、手順 8 に進みます。

6 ファクス番号を入力し、［確定］を押します。

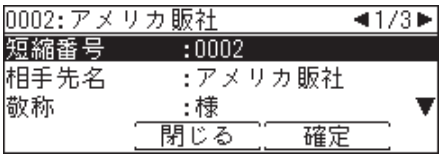


・〈応用機能〉→［ダイヤル記号］を押して、ダイヤル記号の入力もできます。ダイヤル記号については、「ダイヤル記号について」(2-15 ページ）を参照してください。
・カーソルキーの右を押すと、「ー」（ハイフン）を入力できます。
・ファクス番号を何も入力せずに［確定］を押すと、メールアドレスの入力画面になります。宛先は、ファクス番号かメールアドレスのどちらかを入力してください。

7 相手先名を入力し、［確定］を押します。



8 各項目を登録または変更します。



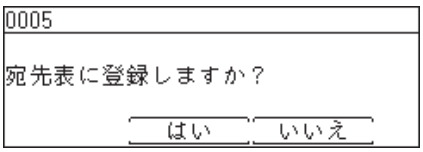
・各項目の内容については、「宛先表に登録できる内容」（7-2 ページ）を参照してください。
・文字入力のしかたについては、「文字を入力する」（7-29 ページ）を参照してください。

9 登録が終了したら、[閉じる] を押します。
〈リセット〉を押すと待機画面に戻ります。

❑ 便利な登録方法 1　未登録のワンタッチキーを押して登録する

1 未登録のワンタッチキーを押します。

2 [はい] を押します。

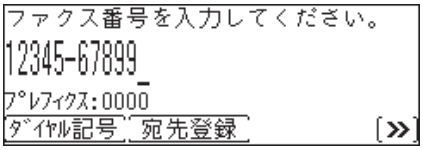


3 以降の操作は、「登録・変更する」（7-3 ページ）の手順 6 以降と同じです。

❑ 便利な登録方法 2　テンキーで入力した番号を登録する

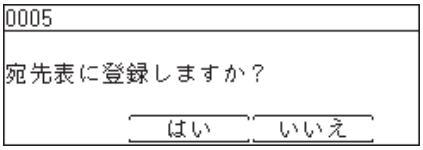
1 テンキーで宛先のファクス番号を入力します。

2 〈応用機能〉を押します。



3 [宛先登録] を押します。

4 [はい] を押します。



未登録の一番若い短縮番号に登録されます。

5 以降の操作は、「登録・変更する」（7-3 ページ）の手順 7 以降と同じです。

❑ 便利な登録方法 3　入力したメールアドレスを登録する

補 足

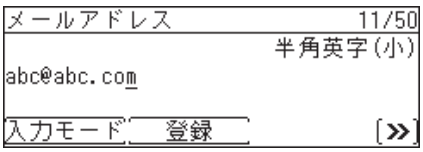
この機能は、LAN（有線）が ON の場合のときに使用できます。（→ 1-20 ページ）

1 〈応用機能〉を押します。

2 「メールアドレス」を選択し、[確定] を押します。

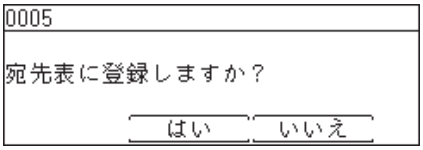
3 メールアドレスを入力します。

4 〈応用機能〉を押します。



5 [登録] を押します。

6 [はい] を押します。



未登録の一番若い短縮番号に登録されます。

7 以降の操作は、「登録・変更する」（7-3 ページ）の手順 7 以降と同じです。

❑ 削除する

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

3 「各種登録」を選択し、[確定]を押します。

4 「宛先表」を選択し、[確定]を押します。

5 削除したい宛先を選択し、[削除]を押します。

・テンキーを使って短縮番号を入力し、削除したい宛先を選択することもできます。
・送信中または送信予約に含まれている宛先は、送信が完了するまで削除できません。
・自動配信（→ 2-33 ページ）やジョブメモリーでファクス宛先に使用されている宛先は削除できません。

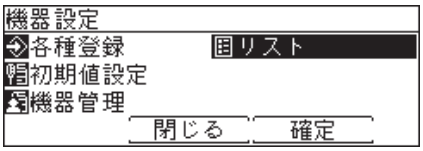
6 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。

❑ 宛先リストをプリントする

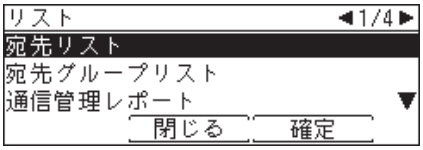
1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

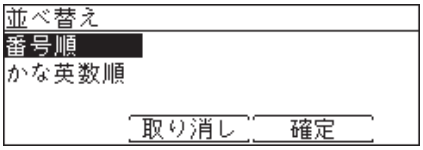
3 「リスト」を選択し、[確定]を押します。



4 「宛先リスト」を選択し、[確定]を押します。

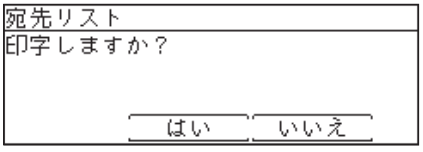


5 並べ替え方法を選択し、[確定]を押します。



「番号順」　　：宛先番号順にプリントします。
「かな英数順」：相手先名をかな英数順に並べ替えてプリントします。

6 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。



宛先グループを登録・変更する

宛先表に登録されている複数の宛先を宛先グループにまとめて登録できます。
いつも同じ複数の宛先に送信することが多い場合は、宛先グループに登録しておくと便利です。宛先グループは 100 グループまで登録できます。

項目	内容
宛先グループ名	画面上のボタンにグループ名として表示されます。 全角で 25 文字（半角で 50 文字）まで入力できます。
グループ登録宛先	グループ内に登録される宛先です。 宛先は 500 件まで登録できます。

補足

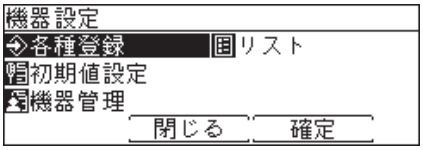
宛先グループはネットワーク設定画面からも登録できます。
詳しくは、『ネットワーク機能編』第 4 章の「宛先表を作成する」を参照してください。

❑ 登録・変更する

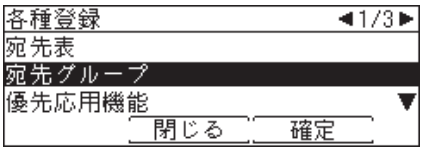
1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **［機器設定］を押します。**

3 **「各種登録」を選択し、［確定］を押します。**



4 **「宛先グループ」を選択し、［確定］を押します。**



5 **登録または変更したい宛先グループを選択し、［登録 / 変更］を押します。**

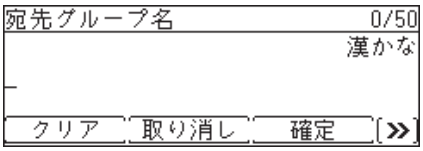
・新規に登録する場合は、＜未登録＞を選択します。
・登録内容を変更する場合は、手順 9 に進みます。

6 登録したい宛先を選択し、[選択] を押します。

・選択された宛先には、チェックマーク（✓）がつきます。選択を解除するときは、[クリア] を押します。
・〈応用機能〉→ [索引] を押すと、五十音の行が表示されます。五十音の行を選択し、[確定] を押すと、その行の読みの宛先を表示します。（→ 5-3 ページ）

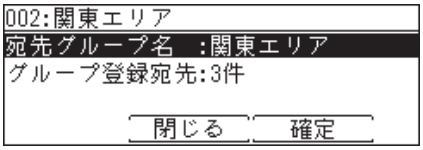
7 [閉じる] を押します。

8 宛先グループ名を入力し、[確定] を押します。



文字入力のしかたについては、「文字を入力する」（7-29 ページ）を参照してください。

9 登録内容の確認・変更をする場合は、項目を選択し、[確定] を押します。



10 [閉じる] を押します。

❑ 削除する

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定] を押します。

3 「各種登録」を選択し、[確定] を押します。

4 「宛先グループ」を選択し、[確定] を押します。

5 削除したい宛先グループを選択し、[削除] を押します。

6 確認画面が表示されたら、[はい] を押します。

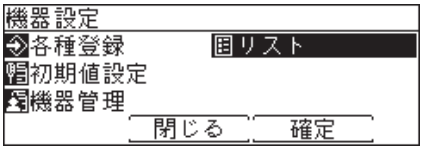
7 [閉じる] を押します。

❑ 宛先グループリストをプリントする

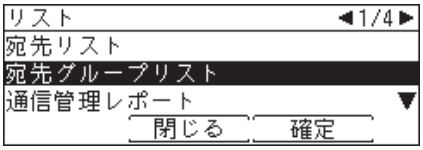
1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

3 「リスト」を選択し、[確定]を押します。

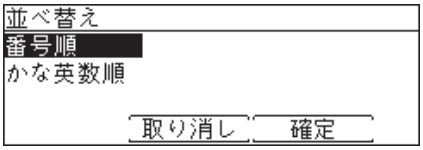


4 「宛先グループリスト」を選択し、[確定]を押します。



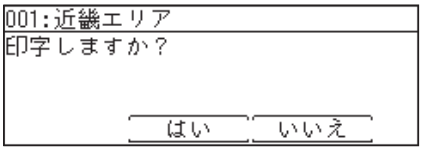
5 プリントしたい宛先グループを選択し、[確定]を押します。

6 並べ替え方法を選択し、[確定]を押します。



「番号順」：宛先番号順にプリントします。
「かな英数順」：相手先名をかな英数順に並べ替えてプリントします。

7 確認画面が表示されたら、[はい]を押します。



ハンドセットの短縮ダイヤルに登録する

ハンドセットには本商品の宛先とは別に、最大 10 件までの電話番号を短縮ダイヤルに登録できます。

1 **ハンドセットを取り上げ、〈セット / ミュート〉を押します。**

2 **〈短縮ダイヤル〉を押します。**

3 **短縮ダイヤルを登録する、ハンドセットのダイヤルキー〈0〉～〈9〉を押します。**

4 **ハンドセットのダイヤルキーで、相手先の電話番号を入力します。（最大 31 桁）**

5 **〈セット / ミュート〉を押します。**

6 **ハンドセットを元に戻します。**

補 足

- ハンドセットの短縮ダイヤルを本商品から操作したり、本商品の宛先表をハンドセットから操作したりすることはできません。
- すでに短縮ダイヤルを登録してあるダイヤルキーに、別の電話番号を登録したい場合は、再度登録操作をして上書します。
- 登録途中で間違えたときは、ハンドセットをいったん戻して、再度はじめからやり直してください。
- 登録操作中は、ハンドセットから「ツー」音（発信音）が聞こえますが、ダイヤルキーを押しても電話はかかりません。
- 電話機ヒモまたはハンドセットのカールコードを、電話コンセントまたは本商品から約 12 時間以上はずした場合、短縮ダイヤルの登録情報が消去されます。
- 停電時に電源が供給されない回線に接続しているときも、12 時間以上電源が供給されない状態が続くと、短縮ダイヤルの登録情報が消去されます。

初期値を設定する

初期値とは、〈リセット〉を押したときに設定される値のことです。何も操作せずに一定時間が経過したときも初期値に戻ります。よく使う設定を初期値にしておくと、操作のたびに設定する手間が省けます。

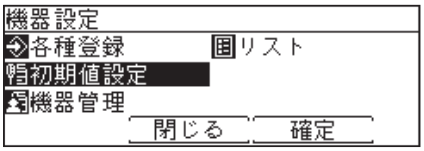
補足

初期値に戻るまでの時間（画面自動リセット時間）を設定できます。（→ 7-12 ページ）

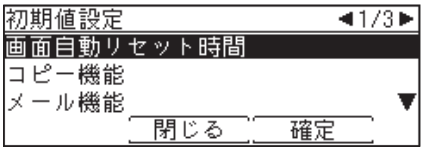
1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

3 「初期値設定」を選択し、［確定］を押します。



4 設定する項目を選択し、［確定］を押します。



5 初期値を選択し、［確定］を押します。

初期値設定一覧

機能	機能説明	設定値
画面自動リセット時間	各画面を待機画面に戻すまでの時間を設定できます。 • リセット時間： 何も操作をしなかった場合、設定をリセット（初期値に戻す）し待機画面に戻るまでの時間。 • 読取終了後にログアウト： ON に設定すると、原稿の読み取り終了後すぐに、ログアウトします。	リセット時間 1 ～ 10 分：3 分 読取終了後にログアウト OFF ON
コピー機能	コピー機能の初期値を設定できます。(→7-13ページ)	
メール機能	インターネットファクス、メール定型文の初期値を設定できます。(→ 7-15 ページ)	
ファクス機能	ファクス機能の初期値を設定できます。(→ 7-16 ページ)	
音設定	各種音の設定ができます。 • 音量 操作確認音、動作完了音、注意音、呼び出し音の音量を調整できます。個別に音量を調整することはできません。 • 操作確認音 操作ボタンを押したときの音色を設定できます。 • 動作完了音 以下の動作の完了を音で知らせます。 動作完了音を一括で設定する場合は［OFF］、［タイプ 1］～［タイプ 3］のいずれかを選びます。 個別に設定する場合は［詳細設定］を選び、それぞれを設定します。 ・コピー完了 ・ファクス送信完了 ・ファクス受信完了 ・ファクス受信印字完了 ・リストプリント完了 • 注意音 紙づまりのお知らせやメモリーオーバーなどのエラーをブザー音で知らせます。 ［詳細設定］を押すと、紙づまりのお知らせ音を個別に設定できます（初期値 ON）。 • 呼び出し音 ハンドセットが無くても、ファクスの着信時に呼出ベル音が鳴るように設定できます。	 1 ～ 7 段階：4 OFF 低音 中音 高音 OFF タイプ 1 タイプ 2 タイプ 3 OFF ON OFF ON

機能	機能説明	設定値
節電モード	設定の詳細については、「節電モードを設定する」(7-19 ページ) を参照してください。	節電モードへの移行時間 1 ～ 240 分後：1 分後 節電モード時刻指定 ・開始時刻 OFF ON ・解除時刻 OFF ON ・解除曜日 月、火、水、木、金、土、日
LCDコントラスト	液晶ディスプレイのコントラストを調整できます。〈スタート〉を押してコントラストを調整します。待機画面にて、〈リセット〉を押し続けて調整することもできます。	

補 足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

コピー機能の初期値を設定する

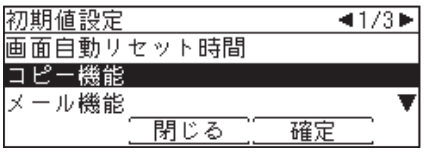
❑ 仕分けを設定する

1 〈メニュー〉を押します。

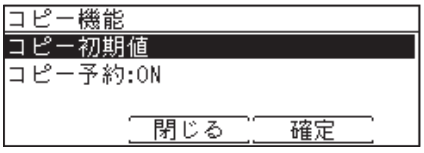
2 [機器設定] を押します。

3 「初期値設定」を選択し、[確定] を押します。

4 「コピー機能」を選択し、[確定] を押します。



5 「コピー初期値」を選択し、[確定] を押します。



6 「仕分け」を選択し、[確定] を押します。

7 初期値を選択し、[確定] を押します。

・「ノンソート」か「ソート」かを選択します。(→ 4-10 ページ)
・工場出荷時の初期値は「ノンソート」です。

8 設定が終了したら、[閉じる] を押します。

❑ コピー予約を設定する

コピー予約を ON にすると、コピーの印刷中に次の原稿を読み取ることができます。

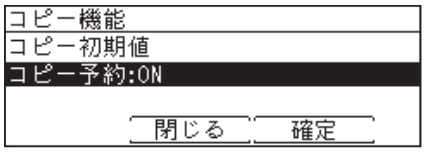
1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定] を押します。

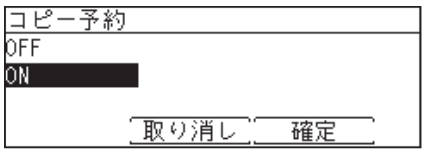
3 「初期値設定」を選択し、[確定] を押します。

4 「コピー機能」を選択し、[確定] を押します。

5 「コピー予約」を選択し、[確定] を押します。



6 「ON」を選択し、[確定] を押します。



「OFF」を選択すると、コピー予約の設定が OFF になります。

7 設定が終了したら、[閉じる] を押します。

メール機能の初期値を設定する

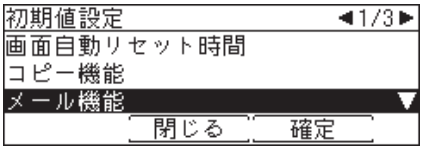
インターネットファクスとメール定型文の初期値を変更できます。

1 **〈メニュー〉を押します。**

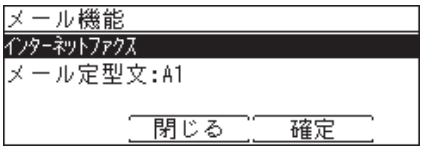
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「初期値設定」を選択し、［確定］を押します。**

4 **「メール機能」を選択し、［確定］を押します。**



5 **設定したい機能を選択し、［確定］を押します。**



設定項目の詳細については、「インターネットファクス初期値設定一覧」（7-15 ページ）、「メール定型文初期値設定一覧」（7-16 ページ）を参照してください。

6 **設定が終了したら、［閉じる］を押します。**

❑ インターネットファクス初期値設定一覧

機能	機能説明	設定値
ファイル形式	インターネットファクス送信時に添付するファイルの保存ファイル形式の初期値を設定します。 TIFF-S：TIFF 形式です。原稿はすべて A4 サイズ、200 dpi 以下に変更して送信されます。 TIFF：　TIFF 形式です。原稿読み取り時の原稿サイズおよび解像度のまま送信します。 PDF：　PDF 形式で送信します。	TIFF-S TIFF PDF
分割送信	分割送信の初期値を設定します。 ページ毎：複数枚の原稿を 1 枚ずつ分割して送信します。 一括：　　複数枚の原稿を一括して送信します。	ページ毎 一括

補 足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

❑ メール定型文初期値設定一覧

機能	機能説明	設定値
メール定型文	インターネットファクスで使用する、電子メールの件名と本文の初期値を設定できます。 定型文 01 から 10 は、よく使うものを登録しておくことができます。登録方法については、『ネットワーク機能編』第 4 章の「メール定型文を設定する」を参照してください。	OFF ON 定型文の初期値 A1 固定文 A2 固定文（件名のみ） 定型文 01 ～定型文 10

補 足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

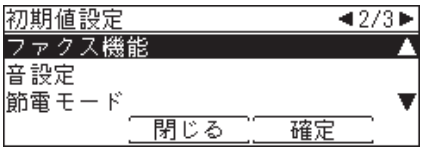
ファクス機能の初期値を設定する

1 **〈メニュー〉を押します。**

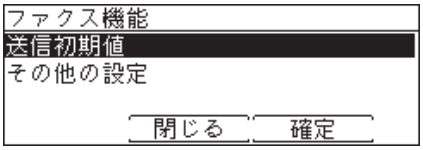
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「初期値設定」を選択し、［確定］を押します。**

4 **「ファクス機能」を選択し、［確定］を押します。**



5 **「送信初期値」を選択し、［確定］を押します。**



6 **設定したい機能を選択し、［確定］を押します。**

設定できる項目や設定値については、「送信初期値設定一覧」（7-17 ページ）、「その他の初期値設定一覧」（7-17 ページ）を参照してください。

7 **設定が終了したら、［閉じる］を押します。**

❑ 送信初期値設定一覧

機能	機能説明	設定値
画質	読み取り時の画質の初期値を設定します。	標準 高画質 超高画質 写真
濃度	読み取り時の濃度の初期値を設定します。	薄く 普通 濃く
済スタンプ	済スタンプの初期値を設定します。	OFF ON
発信元名	相手先の受信原稿の先頭に、発信元名がプリントされます。	OFF ON
送付案内書	送信原稿と一緒に簡単な文書（メッセージ）の入った送付案内書を付けて送信できます。 詳しくは、「送付案内書を付けて送信する（送付案内書）」（2-9 ページ）を参照してください。	OFF 文書 1 文書 2 文書 3
送信確認証	送信結果をプリントします。メール宛先に送ることもできます。	OFF 印字 メール
メモリー送信	送信するときにメモリー送信を優先するか、リアルタイム送信を優先するかを設定します。ON に設定するとメモリー送信に、OFF に設定するとリアルタイム送信になります。	OFF ON
通信モード	特定通信の初期値を設定します。コンピューターからのファクス送信、自動配信やアーカイブでのファクス送信、電子メールでファクス送信する場合も、ここで設定された通信モードで送信されます。	通常通信 特定通信

補足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

❑ その他の初期値設定一覧

機能	機能説明	設定値
宛先名表示	宛先表に登録している相手先名を、宛名として送信原稿の先頭に挿入します。	OFF ON
リダイヤル回数	相手が話し中など相手につながらないとき、ここで設定した回数分、再度ダイヤルします。	0 ～ 15 回： 3 回
リダイヤル間隔	リダイヤルの間隔を設定します。	0 ～ 5 分： 1 分
ダイレクトメール防止	詳しくは、「ダイレクトメールを防止する」（2-39 ページ）を参照してください。	OFF モード 1 モード 2 モード 3
呼出ベル回数	受信モードがファクス待機、電話・ファクス待機のとき、受信動作が開始されるまでのベル回数を設定します。節電モード中は、呼び出しベル回数が設定した値より長くなることがあります。	0 ～ 10 回： 2 回
ポーズ時間	ポーズ記号を入力したときのダイヤル間隔の初期値を設定します。	0 ～ 10 秒： 3 秒

機能	機能説明	設定値
逆順プリント	ON に設定すると、受信した原稿、通信予約原稿、ポーリング原稿、F コードボックスの印字原稿を逆順にプリントします。 ON に設定していても、メモリー残量が少ないと通常のプリントになる場合があります。	OFF ON
ECM モード	電話回線の影響で正しく送信できなかったときに、その部分を自動的に送信し直します。（相手先にも同じ機能が必要です）	OFF ON
サービスモード	設定しないでください。	OFF ON
プレフィクス	よく使う番号を登録しておくと、ファクス番号を入力するときにボタンを押すだけでその番号を入力できます。プレフィクス番号は 40 桁まで入力できます。数字、＃、＊、/P（ポーズ）、/T（PB）が登録できます。	0000
受信タイムスタンプ	原稿を受信した時間をプリントします。受信原稿の到着時間を正確に管理できます。	OFF ON
通信管理レポート自動印字	通信状況の一覧をプリントできます。詳しくは、「通信管理レポートを自動でプリントする」（6-7 ページ）を参照してください。	OFF ON 印字時刻指定
通信管理レポート並べ替え	通信管理レポートの内容を、通信ジョブ順または通信番号順に並べ替えます。	通信ジョブ順 通信番号順

補 足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

節電モードを設定する

本商品には、一定時間以上使っていないと自動的に節電モードに入り、電力を節約できる節電機能があります。設定できる項目は以下のとおりです。

項目		内容
節電モードへの移行時間		節電モードへ移行するまでの時間（1 ～ 240 分）を設定できます。 （出荷時設定：1 分） 節電モードを完全に働かないように設定することはできません。
節電モード時刻指定		
	開始時刻	ON に設定すると、節電モードを自動的に開始する時刻を設定できます。
	解除時刻	ON に設定すると、節電モードを自動的に解除する時刻を設定できます。
	解除曜日	節電モードを自動的に解除する曜日を設定できます。 たとえば、解除曜日に月曜日から金曜日までを指定すると、土曜日と日曜日は解除時刻になっても節電モードが解除されません。 解除曜日の設定は、節電モードの解除時刻を設定したときに可能です。

補足

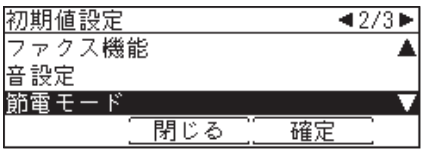
- 待機状態で〈節電〉を押すと、節電モードに入ります。
- 節電モード中に〈節電〉を押すと、待機状態に戻ります。

1 **〈メニュー〉を押します。**

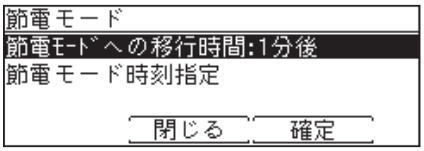
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「初期値設定」を選択し、［確定］を押します。**

4 **「節電モード」を選択し、［確定］を押します。**



5 **「節電モードへの移行時間」を選択し、［確定］を押します。**



6 **節電モードへの移行時間を設定し、［確定］を押します。**

テンキーまたはカーソルキーを使って設定します。

7 **「節電モード時刻指定」を選択し、［確定］を押します。**

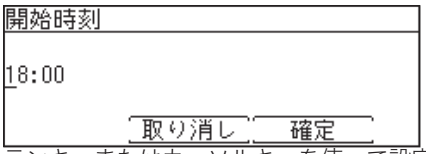
8 「開始時刻」を選択し、[確定] を押します。

開始時刻を設定しないときは、手順 11 に進みます。

9 「ON」を選択し、[確定] を押します。

「OFF」を選択すると、節電モード開始時刻設定が OFF になります。

10 節電モードの開始時刻を設定し、[確定] を押します。



テンキーまたはカーソルキーを使って設定します。

11 「解除時刻」を選択し、[確定] を押します。

12 「ON」を選択し、[確定] を押します。

「OFF」を選択すると、節電モード解除時刻設定が OFF になります。

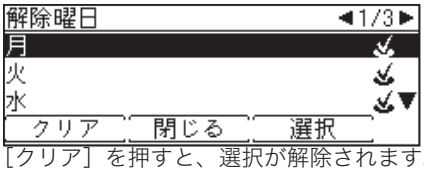
13 節電モードの解除時刻を設定し、[確定] を押します。

テンキーまたはカーソルキーを使って設定します。

14 「解除曜日」を選択し、[確定] を押します。

解除曜日を設定しないときは、手順はこれで終了です。

15 節電モードを解除する曜日を選択し、[選択] を押します。

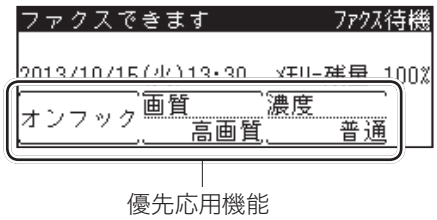


[クリア] を押すと、選択が解除されます。

16 [閉じる] を押します。

優先応用機能を変更する

応用機能を待機画面に 3 つまで表示できます。よく使う機能を、待機画面から使えるように設定できます。



割り当てられる機能
画質、濃度、グループ送信、送付案内書、時刻指定、自動配信、自動受信、メモリー送信、短縮送信、オンフック、発信元名、済スタンプ、ダイヤル記号、送信確認証、通信モード、セキュリティー受信、ID チェック送信、閉域送信、F コードポーリング、ポーリング、ポーリング原稿、F コード送信、F コード原稿、メールアドレス、メール編集、メール履歴、分割送信、ファイル形式、POP 受信

補 足

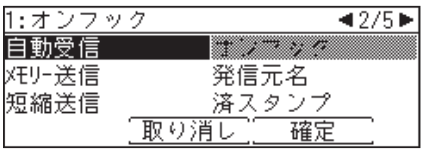
- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- 優先応用機能を設定できるのはファクス待機画面だけです。
- 〈メニュー〉から優先応用機能の設定を行うことときは、〈メニュー〉→ [機器設定] →「各種登録」と選択し [確定] を押します。次に、「優先応用機能」を選択→ [確定] →「ファクス画面」を選択→ [確定] を押します。その後、手順 3 に進みます。

1 〈応用機能〉を押します。

2 「優先応用機能」を選択し、[確定] を押します。

3 変更したい優先応用機能を選択し、[確定] を押します。

4 優先応用機能として表示したい機能を選択し、[確定] を押します。



ご愛用スイッチの登録内容を変更する

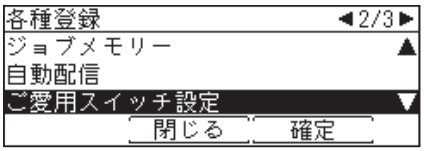
操作パネル上のご愛用スイッチキーは、よく使う機能のショートカットキーとして使用できます。ご愛用スイッチキーは３つあり、出荷時設定では「短縮送信」、「済スタンプ」、「通信モード」が登録されています。

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

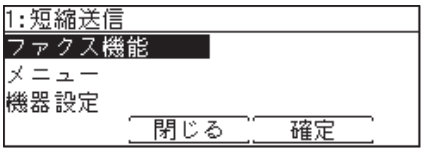
3 「各種登録」を選択し、［確定］を押します。

4 「ご愛用スイッチ設定」を選択し、［確定］を押します。

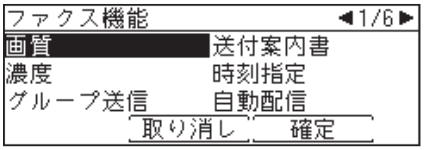


5 変更したいご愛用スイッチを選択し、［確定］を押します。

6 機能カテゴリーを選択し、［確定］を押します。



7 登録したい機能を選択し、［確定］を押します。



8 続けて別の機能をご愛用スイッチに登録する場合は、手順５から操作を繰り返します。

9 設定した機能名のラベルを、ご愛用スイッチキーに貼ります。

ジョブメモリーを使用する

よく使う設定をジョブメモリーに登録しておけば、設定のための操作の手間を省けます。

補足

- ジョブメモリーは 6 個まで登録できます。
- ファクス機能、コピー機能を登録できます。リストや機器設定などは登録できません。
- ジョブメモリーの登録中は「ピッ、ピッ」という音が鳴り、ジョブメモリーの登録中であることを知らせます。

ジョブメモリーを登録する・変更する

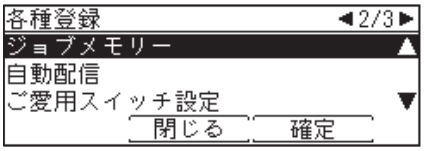
ここではジョブメモリーの登録方法を説明します。変更の場合は、手順 5 で変更したいジョブメモリーを選択し、[登録／変更] を押します。手順 10 の画面が表示されるので、変更したい項目を選択して変更してください。

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定] を押します。

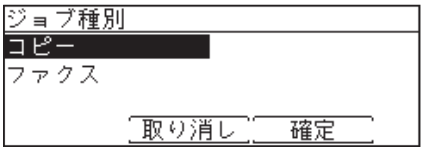
3 「各種登録」を選択し、[確定] を押します。

4 「ジョブメモリー」を選択し、[確定] を押します。



5 登録するキーを選択し、[登録／変更] を押します。

6 登録したいジョブの種別を選択し、[確定] を押します。

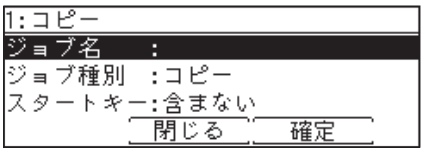


7 [はい] を押します。

8 登録したい操作を行います。

9 登録を終了するときは、〈スタート〉を押します。

10 ジョブ名を登録する場合は、「ジョブ名」を選択し、[確定] を押します。



ジョブ名を登録しなかった場合は、ジョブの種別がジョブメモリーの一覧に表示されます。

11 ジョブ名を登録し、[確定] を押します。

・全角で 20 文字（半角で 40 文字）まで入力できます。
・文字入力のしかたは、「文字を入力する」(7-29 ページ）を参照してください。

12 「スタートキー」を選択し、[確定] を押します。

13 ジョブメモリーにスタートキーを含む場合は「含む」、含まない場合は「含まない」を選択し、[確定] を押します。

- 含まない： ジョブメモリーを実行するときに、設定を確認して手動でスタートさせたい場合に選択します。
- 含む： ジョブメモリーを実行するときに、自動でジョブをスタートさせたい場合に選択します。

14 [閉じる] を押します。

ジョブメモリーを削除する

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定] を押します。

3 「各種登録」を選択し、[確定] を押します。

4 「ジョブメモリー」を選択し、[確定] を押します。

5 削除したいジョブメモリーを選択し、[削除] を押します。

6 確認画面が表示されたら、[はい] を押します。

[いいえ] を押すと、手順 5 の画面に戻ります。

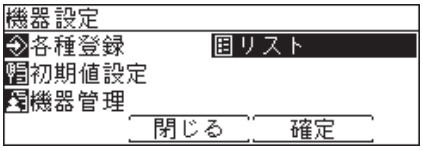
ジョブメモリーリストをプリントする

登録したジョブメモリーの一覧をプリントできます。

1 〈メニュー〉を押します。

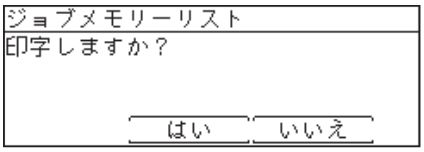
2 ［機器設定］を押します。

3 「リスト」を選択し、［確定］を押します。



4 「ジョブメモリーリスト」を選択し、［確定］を押します。

5 確認画面が表示されたら、［はい］を押します。

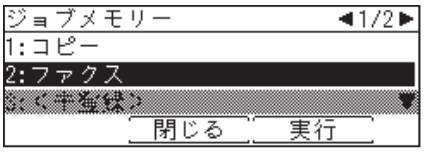


ジョブメモリーを実行する

1 〈メニュー〉を押します。

2 「ジョブメモリー」を選択し、［確定］を押します。

3 実行したいジョブメモリーを選択し、［実行］を押します。



リストをプリントする

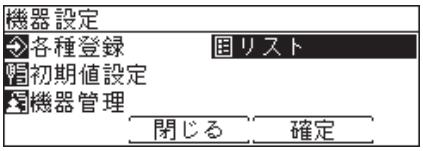
プリントのしかた

ここでは、機器設定リストのプリントを例に説明します。

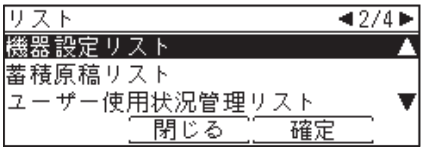
1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

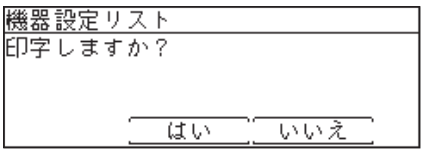
3 「リスト」を選択し、［確定］を押します。



4 「機器設定リスト」を選択し、［確定］を押します。



5 確認画面が表示されたら、［はい］を押します。



リスト一覧

リスト名	プリント内容	参照ページ
宛先リスト	宛先表に登録されている宛先の一覧をプリントします。	7-6
宛先グループリスト	宛先グループとして登録されている宛先の一覧をプリントします。	7-9
通信管理レポート	ファクスの送受信、電子メールの送受信の一覧をプリントします。 ネットワーク設定画面からも、通信管理レポートのプリントができます。詳細は、『ネットワーク機能編』第４章の「ジョブまたは通信履歴を確認する」を参照してください。	6-6
機器設定リスト	〈メニュー〉→［機器設定］の「初期値設定」、「機器管理」の設定内容をプリントできます。	
蓄積原稿リスト	送信予約原稿、受信原稿、ポーリング原稿、F コードボックス原稿のメモリー使用量や蓄積枚数などをプリントします。	2-23

リスト名	プリント内容	参照ページ
ユーザー使用状況管理リスト	コピーまたはファクスの、それぞれの総ページ数をプリントできます。	8-11
ジョブメモリーリスト	登録されているジョブメモリーの一覧をプリントします。	7-25
機器情報	機器の IP アドレスやネットワーク設定、印字枚数などをプリントします。	7-28
自動配信リスト	設定されている配信条件の一覧をプリントします。	2-37
送付案内書文書	登録されている送付案内書の内容をプリントします。	2-10
F コードボックスリスト	登録されている F コードボックスの一覧をプリントします。	2-60
ダイレクトメール防止リスト	ダイレクトメール防止の設定内容をプリントします。	2-41

機器情報を確認する

メニュー画面にある機器情報で、機器の IP アドレスやネットワーク設定、印字枚数などが確認できます。

補 足

「リスト」からも機器情報をプリントすることができます。(→ 7-26 ページ)

1 **〈メニュー〉を押します。**

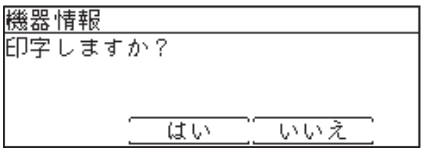
2 **「機器情報」を選択し、[確定] を押します。**

3 **確認したい機器情報の項目を選択し、[確定] を押します。**

4 **[閉じる] を押します。**

5 **プリントする場合は [印字] を押します。**
プリントしない場合は [閉じる] を押します。

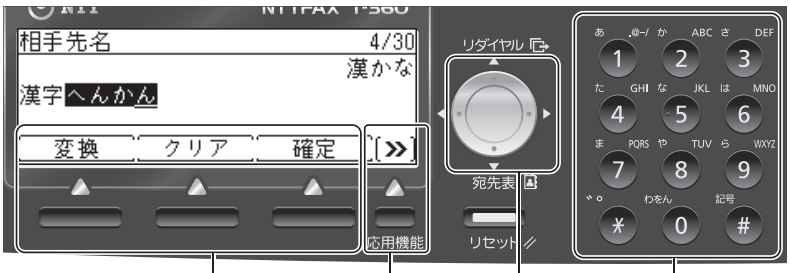
6 **確認画面が表示されたら、[はい] を押します。**



文字を入力する

発信元や宛先表の相手先など、文字を入力するときに参照してください。
入力できる文字は、漢字（全角）、ひらがな（全角）、カタカナ（全角／半角）、英字（全角／半角）、数字（全角／半角）、記号（全角／半角）です。
漢字は JIS 第一水準、JIS 第二水準が入力できます。

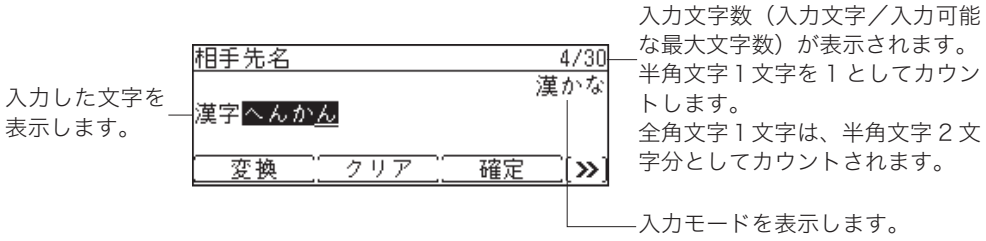
文字入力に使用するキー



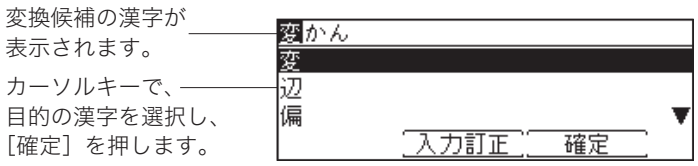
キー名称	内容
機能選択キー	文字の変換や消去などに使用します。
［変換］	入力した文字を漢字に変換するときに押します（漢かなモードのときに使用します）。
［クリア］	文字を消すときに使用します。
［確定］	入力した文字を確定するときに使用します。
［取り消し］	文字入力を行わずに前の画面に戻ります。
［入力モード］	入力モードを切り替えるときに使用します。
［空白］	空白を入力するときに使用します。
［入力訂正］	漢字変換時に、入力した文字を訂正したいときに押します（文字入力画面に戻ります）。未確定の場合、文字入力画面に戻るときに使用します。
［改行］	改行するときに押します（送付案内書の文書を入力するとき、メール編集の本文を入力するときに使用します）。
応用機能キー	機能選択キーを切り替えるときに使用します。
カーソルキー	カーソルを移動したり、漢字候補を選択したりするときに使用します。
テンキー	文字や数字を入力するときに使用します。

文字入力画面について

❑ 文字入力画面



❑ 漢字変換候補の選択



かな漢字変換について

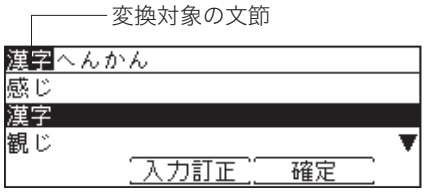
❑ 確定と未確定

文字が反転表示になっているときは、漢字変換していない状態です。これを「未確定」と呼びます。［確定］を押して入力を決定することを、「確定」と呼びます。

補 足

「漢かな」モードで入力した文字は、すべて未確定状態で入力されます。「漢かな」以外のモードで入力した文字は、確定状態で入力されます。

❑ 連文節変換



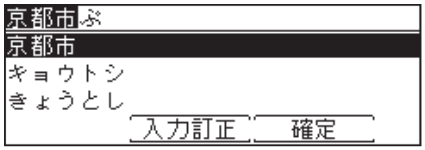
複数の文節をまとめて入力し、[変換] を押すと、特に指定しなくても自動的に適正と判断される文節の区切り位置で分割され、個々に漢字変換を行います。これを連文節変換といいます。変換対象になっている文節は反転表示されます。文節の区切りが正しくない場合は、カーソルキーの左右を押して、文節の区切り位置を指定できます。

❑ 変換する文節の長さを変える

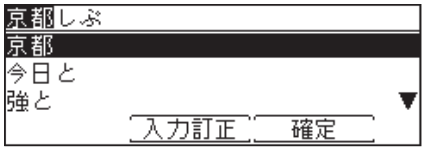
自動的に判断された文節の区切りが正しくない場合は、カーソルキーで文節の区切りを変更できます。

例：京都支部

1. カーソルキーで、変換する範囲を設定します。



2. 文節の区切りが変わり、それに応じて変換候補が変わります。



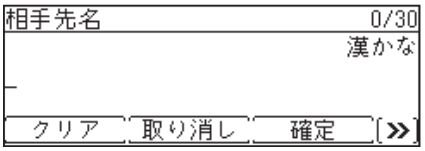
入力モードについて

入力モードと入力できる文字について示します。

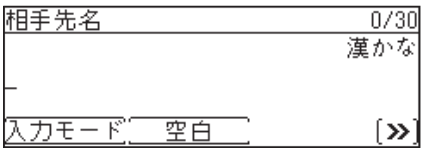
入力モード	入力できる文字種類	動作	サンプル
漢かな	全角漢字・ひらがな	漢字やひらがなが入力されます。	文字 もじ
半角カタカナ	半角カタカナ	半角カタカナが入力されます。	ﾓｼﾞ
全角カタカナ	全角カタカナ	全角カタカナが入力されます。	モジ
半角英字 (大)	半角アルファベット 大文字	半角アルファベットの大文字が入力されます。	ABC
半角英字 (小)	半角アルファベット 小文字	半角アルファベットの小文字が入力されます。	abc
全角英字 (大)	全角アルファベット 大文字	全角アルファベットの大文字が入力されます。	ＡＢＣ
全角英字 (小)	全角アルファベット 小文字	全角アルファベットの小文字が入力されます。	ａｂｃ
半角数字	半角数字	半角の数字が入力されます。	123
全角数字	全角数字	全角の数字が入力されます	１２３

❑ 入力モードの切り替え

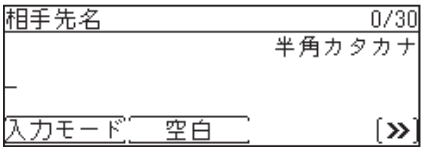
1 **未確定の文字が無いときに〈応用機能〉を押して、機能選択キーの画面を切り替えます。**



2 **[入力モード] を押します。**



3 **目的の入力モードが表示されるまで、[入力モード] を押します。**



文字の割り当て

文字を入力するにはテンキーを使用します。1つのキーに複数の文字が割り当てられています。文字が割り当てられたキーを繰り返し押して、入力したい文字を表示させます。
記号を入力するときは、〈#〉を押します。

テンキー	入力モード			
	漢かな	半角、全角 カタカナ	半角、全角 英字	半角、全角 数字
あ .@-/ 1	あいうえお ぁぃぅぇぉ	アイウエオ ァィゥェォ	. @ - / _ 1	1
か ABC 2	かきくけこ	カキクケコ	大文字：ＡＢＣ 小文字：ａｂｃ	2
さ DEF 3	さしすせそ	サシスセソ	大文字：ＤＥＦ 小文字：ｄｅｆ	3
た GHI 4	たちつてとっ	タチツテトッ	大文字：ＧＨＩ 小文字：ｇｈｉ	4
な JKL 5	なにぬねの	ナニヌネノ	大文字：ＪＫＬ 小文字：ｊｋｌ	5
は MNO 6	はひふへほ	ハヒフヘホ	大文字：ＭＮＯ 小文字：ｍｎｏ	6
ま PQRS 7	まみむめも	マミムメモ	大文字：ＰＱＲＳ 小文字：ｐｑｒｓ	7
や TUV 8	やゆよゃゅょ	ヤユヨャュョ	大文字：ＴＵＶ 小文字：ｔｕｖ	8
ら WXYZ 9	らりるれろ	ラリルレロ	大文字：ＷＸＹＺ 小文字：ｗｘｙｚ	9
わをん 0	わをん	ワヲン	（無効）	0
゛゜ *	濁点（゛）、半濁点（゜）を入力します（濁点や半濁点にできる文字だけに限られます）。		＊	＊
記号 #	・未確定時： ー（）・、。空白文字 ・確定時： 記号入力	記号の入力については、「記号を入力する」（7-35 ページ）を参照してください。		

補 足

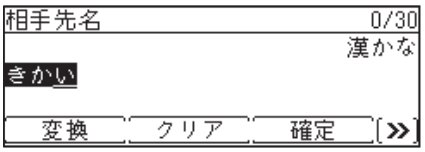
同じキーの文字を続けて入力するときは、カーソルキーの右を押してカーソルを移動してから次の文字を入力します。

漢字・ひらがなを入力する

1 **入力モードを「漢かな」にします。**

入力モードの切り替えについては、「入力モードの切り替え」(7-32 ページ）を参照してください。

2 **テンキーで、漢字の読みを入力します。**



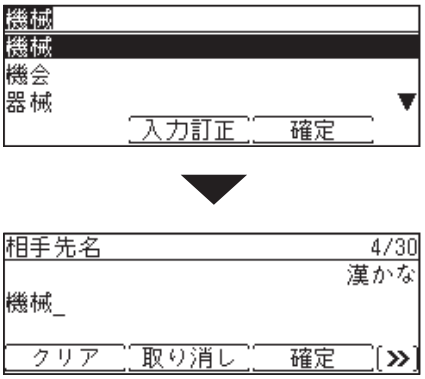
・濁点「゛」や半濁点「゜」を入力するときは、〈✳〉を押します。たとえば、「ぎ」と入力したいときは、「き」を入力した後に〈✳〉を押します。
・「ぇ」や「っ」などの小文字を入力するときは、小文字を含むテンキーを数回押します。詳細は、「文字の割り当て」(7-33 ページ）を参照してください。
・入力した文字を訂正するときは、訂正したい文字の上にカーソルを移動し、［クリア］を押して消去してから、正しい文字を入力します。

3 **漢字に変換するときは、［変換］を押します。**

ひらがなを入力するときは、文字を入力した後、［変換］を押さずに［確定］を押します。

4 **目的の漢字を選択し、［確定］を押します。**

漢字に変換されます。読みを訂正するときは［入力訂正］を押します。



英字を入力する

1 **入力モードを「半角英字 (大)」、「半角英字 (小)」、「全角英字 (大)」、または「全角英字 (小)」にします。**

入力モードの切り替えについては、「入力モードの切り替え」（7-32 ページ）を参照してください。

2 **テンキーで、英字を入力します。**

数字を入力する

1 **入力モードを「半角数字」、または「全角数字」にします。**

入力モードの切り替えについては、「入力モードの切り替え」（7-32 ページ）を参照してください。

2 **テンキーで、数字を入力します。**

記号を入力する

文字入力中にテンキーの〈#〉を押すと、記号画面が表示されます。カーソルキーで記号を選択し、［確定］を押して入力します。

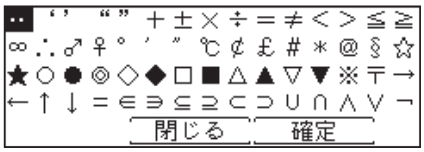
補足

- 全角の記号と半角の記号とでは、入力できる記号の種類が異なります。
- 入力モードが「漢かな」で、入力した文字の変換が未確定の場合は、一部の記号（ー（）・、。空白文字）のみ入力できます。

1 **〈#〉を押します。**

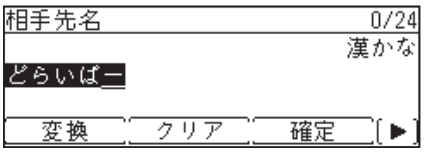
入力モードにより、表示される画面が異なります。

「漢かな」、「全角カタカナ」、「全角英字 (大)」、「全角英字 (小)」、「全角数字」のとき



「半角カタカナ」、「半角英字 (大)」、「半角英字 (小)」、「半角数字」モードのとき

「漢かな」モードで、文字変換が未確定のとき
〈#〉を押すごとに、ー（）・、。 空白文字 に変わります。

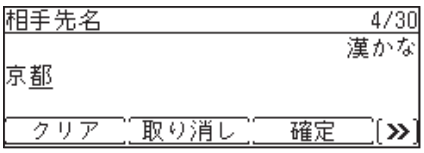


2 カーソルキーを使って記号を選択し、[確定] を押します。

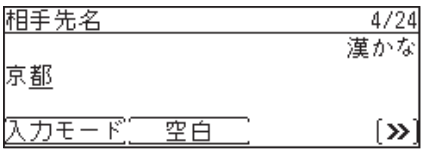
空白を入力する

[空白] を押すと空白が 1 文字分入力されます。
半角文字の入力では半角の空白が、全角文字の入力では全角の空白が入力されます。

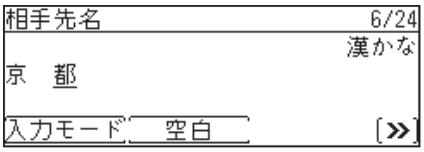
1 空白を挿入したい位置にカーソルを移動します。



2 〈応用機能〉を押して、機能選択キー画面を切り替えます。



3 [空白] を押します。

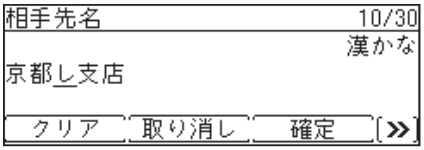


文字を削除する・挿入する

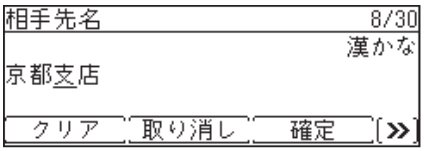
入力した文字を訂正するときは、訂正したい文字の下にカーソルを移動し、［クリア］を押して削除してから、正しい文字を入力します。

❑ 文字を削除する

1 削除したい文字までカーソルを移動します。

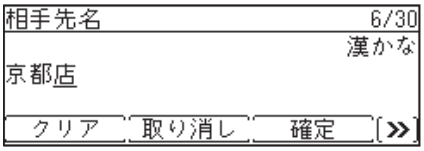


2 ［クリア］を押します。

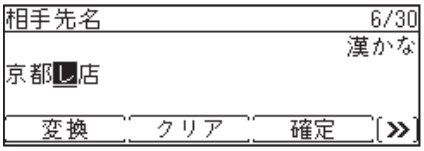


❑ 文字を挿入する

1 文字を挿入したい位置までカーソルを移動します。



2 文字を入力します。



（空白ページ）

第 8 章

管理設定をする

機器管理設定一覧 8-2
セキュリティーコードを設定する 8-4
　管理者パスワードを設定する 8-4
　プロテクトコードを設定する 8-5
設定や操作を制限する（機能プロテクト設定） 8-7
　機能プロテクトを設定する 8-8
　機能プロテクトを使う 8-9
モード禁止設定をする 8-10
ユーザーの使用状況を管理する 8-11
　ユーザー使用状況管理リストをプリントする 8-11
　集計データを消去する 8-12
ネットワーク設定をする 8-13
　TCP ／ IP 設定をする 8-15
自動ログアウト時間を設定する 8-21

機器管理設定一覧

設置モードやセキュリティー通信機能の設定、ネットワーク設定など、機器に関する重要な設定ができます。
管理者パスワードを設定しておくと、「機器管理」を押すたびに管理者パスワードを入力する画面が表示され、管理者以外による設定変更に制限をかけられます。（一度管理者パスワードを入力すると、「機器管理」内の設定は続けて行えます。）

機能	機能説明	設定値	参照ページ
セキュリティー通信機能	閉域通信やIDチェック送信、宛先確認、セキュリティー受信など、さまざまなセキュリティー通信の設定ができます。	閉域送信、閉域受信、IDチェック送信、ダイヤル2度押し、宛先2度押し、パスコードポーリング OFF ON パスコード 0000～9999： （登録なし） 宛先確認 OFF ON 同報のみ 同報送信 OFF ON セキュリティー受信 OFF ON（現在時刻）	2-42
機能プロテクト設定	管理者パスワードやプロテクトコードを利用して、さまざまな機能を管理できます。	プロテクトしない プロテクトする 禁止	8-7
モード禁止設定	コピーやリストプリントの使用禁止を設定できます。	OFF ON	8-10
ユーザー使用状況管理	各ユーザーのファクス、コピーやリストの総ページ数をリストで確認できます。	—	8-11
ネットワーク設定	本商品をネットワーク上で使用するためのネットワーク設定ができます。	—	8-13
設置モード	機器を使用するために必要な設定ができます。	—	1-14

機能	機能説明	設定値	参照ページ
全データ／設定の初期化	宛先表やコピー・ファクスの機能設定、蓄積文書など、[機器設定]で設定されているデータや機器に保存されているデータを消去できます。 **⚠注意** 一度消去したデータは復旧できません。	—	—
管理者パスワード	管理者パスワードを設定できます。管理者パスワードを設定すると、管理者以外による「機器管理」内の設定変更に制限がかけられます。	出荷時には管理者パスワードは設定されていません。	8-4
プロテクトコード	プロテクトコードを設定できます。プロテクトコードは機能プロテクト設定やセキュリティー受信を使用するときに必要です。	出荷時にはプロテクトコードは設定されていません。	8-5
自動ログアウト時間	何も操作しなかった場合に、ログイン状態から自動的にログアウトするまでの時間を設定します。	1-10 分：3 分	8-21

補足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

セキュリティーコードを設定する

本商品にはセキュリティーを設定する「鍵」として、管理者パスワードとプロテクトコードの 2 種類の鍵が設けられます。
管理者パスワードを設定すると、「機器管理」設定の操作に制限をかけることができます。
プロテクトコードは、機能プロテクト設定により操作制限をかけられた機能や、セキュリティー受信機能を使用するときに必要な 4 桁の数字です。

管理者パスワードを設定する

管理者パスワードは、半角のアルファベットと数字、記号、スペースで 28 文字まで入力できます。設定後はパスワードを控え、保管してください。

お願い

管理者パスワードを忘れた場合は、機器を初期化して再設定する必要があります。NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

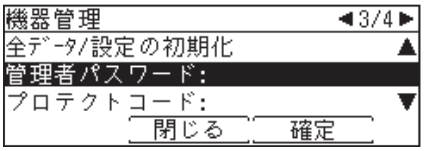
❑ 管理者パスワードを設定する

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

3 「機器管理」を選択し、［確定］を押します。

4 「管理者パスワード」を選択し、［確定］を押します。



5 設定したいパスワードを入力し、［確定］を押します。

半角のアルファベットと数字、記号、スペースで 28 文字まで入力できます。

6 再度パスワードを入力し、［確定］を押します。

❑ 管理者パスワードを変更する・削除する

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

3 「機器管理」を選択し、[確定]を押します。

4 管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。

5 「管理者パスワード」を選択し、[確定]を押します。

6 新しいパスワードを入力し、[確定]を押します。
・半角のアルファベットと数字、記号で 28 文字まで入力できます。
・パスワードを削除したい場合は、何も入力せずに[確定]を押します。

7 再度新しいパスワードを入力し、[確定]を押します。
パスワードを削除したい場合は、何も入力せずに[確定]を押します。

プロテクトコードを設定する

プロテクトコードは任意の 4 桁の数字を設定できます。設定後は番号を控え、保管してください。

❑ プロテクトコードを設定する

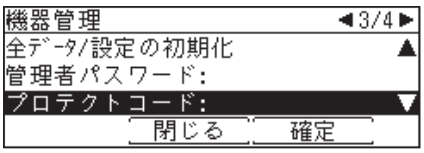
1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定]を押します。

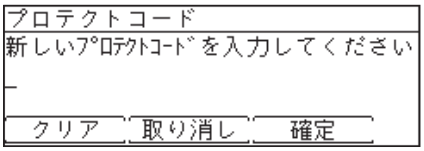
3 「機器管理」を選択し、[確定]を押します。

4 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 5 に進みます。

5 「プロテクトコード」を選択し、[確定]を押します。



6 テンキーでプロテクトコードを入力し、[確定]を押します。



4 桁の数字を入力してください。

❑ プロテクトコードを変更する・削除する

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

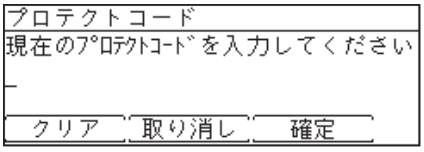
3 「機器管理」を選択し、［確定］を押します。

4 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

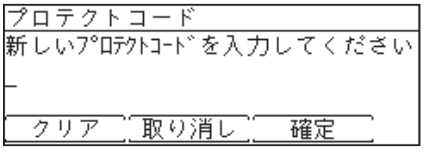
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 5 に進みます。

5 「プロテクトコード」を選択し、［確定］を押します。

6 テンキーで現在のプロテクトコードを入力し、［確定］を押します。



7 テンキーで新しいプロテクトコードを入力し、［確定］を押します。



プロテクトコードを削除する場合は、テンキーで「0000」と入力し、［確定］を押します。

設定や操作を制限する（機能プロテクト設定）

管理者パスワードやプロテクトコードを利用して機能を管理できます。
管理できる機能は以下のとおりです。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">操作をプロテクトできる機能</th><th colspan="3">プロテクトの種類</th></tr>
<tr><th>禁止</th><th>プロテクトする</th><th>プロテクトしない</th></tr>
<tr><td rowspan="10">ファクス送信・
インターネット
ファクス送信</td><td>短縮送信</td><td rowspan="10">操作不可
「使用禁止設定されています。管理者にお問い合わせください。」
と表示する</td><td rowspan="19">操作時に、
プロテクト
コードを入力</td><td rowspan="19">制限なし</td></tr>
<tr><td>直接ダイヤル
（テンキーを使った送信）</td></tr>
<tr><td>宛先グループ送信</td></tr>
<tr><td>手動送信（ハンドセットや［オンフック］を使った送信）</td></tr>
<tr><td>リダイヤル</td></tr>
<tr><td>閉域送信*1</td></tr>
<tr><td>ID チェック送信*1</td></tr>
<tr><td>メール履歴を使った送信</td></tr>
<tr><td>ジョブメモリー実行</td></tr>
<tr><td>F コード送信</td></tr>
<tr><td rowspan="8">機器設定</td><td>宛先登録</td><td rowspan="17">操作時に、
管理者パスワードを入力して使用可能</td></tr>
<tr><td>宛先グループ登録</td></tr>
<tr><td>自動配信</td></tr>
<tr><td>ポーリング原稿</td></tr>
<tr><td>F コード原稿</td></tr>
<tr><td>ジョブメモリー登録</td></tr>
<tr><td>F コードボックスの登録</td></tr>
<tr><td rowspan="9">リスト</td><td>宛先リスト</td></tr>
<tr><td>宛先グループリスト</td></tr>
<tr><td>通信管理レポート</td></tr>
<tr><td>ジョブメモリーリスト</td></tr>
<tr><td>自動配信リスト</td></tr>
<tr><td>通信履歴</td></tr>
</table>

＊1　禁止に設定されている場合でも、〈メニュー〉から設定を変更するときは、管理者パスワードを入力すると設定変更できます。

補足

- 通信管理レポートをプロテクトした場合でも、〈通信確認／ファクス中止〉からの通信履歴は表示できます。表示しないようにするには、通信履歴をプロテクトしてください。
- 短縮送信、直接ダイヤル、リダイヤルをプロテクトしていても、手動送信の場合はプロテクトできません。手動送信の場合で、短縮送信、直接ダイヤル、リダイヤルをプロテクトするには、「手動送信」をプロテクト設定してください。
- 手動送信を禁止またはプロテクトすると、〈スタート〉を押したときに「設定や操作を制限する（機能プロテクト設定）」（8-7 ページ）の表に書かれている動作になります。

機能プロテクトを設定する

補足

機能プロテクトを設定する場合は、あらかじめ管理者パスワード（→ 8-4 ページ）とプロテクトコード（→ 8-5 ページ）を設定しておく必要があります。

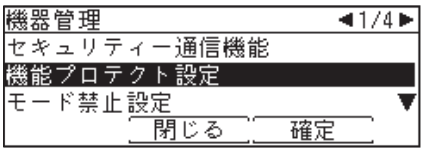
1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**

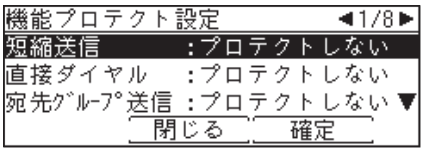
4 **管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。**

5 **「機能プロテクト設定」を選択し、［確定］を押します。**

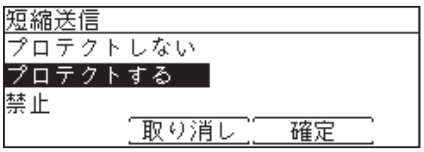


6 **プロテクトコードを入力し、［確定］を押します。**

7 **設定・変更したい機能を選択し、［確定］を押します。**



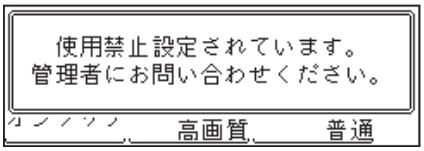
8 **プロテクトの種類を選択し、［確定］を押します。**



機能プロテクトを使う

❑ ファクス機能・インターネットファクス機能を「禁止」に設定した場合

機能プロテクト設定で「禁止」に設定した機能は使用できません。使用しようとすると画面に「使用禁止設定されています。管理者にお問い合わせください。」というメッセージが表示されます。

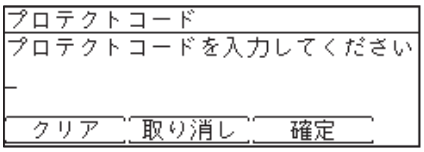


❑ 機器設定やリストの出力を「禁止」に設定した場合

機能プロテクト設定で機器設定やリストの出力を「禁止」に設定した場合は、その機能を使用するときに管理者パスワードの入力が要求されます。

❑「プロテクトする」に設定した場合

機能プロテクト設定で「プロテクトする」を設定した場合は、その機能を利用するときにプロテクトコードの入力が必要です。



モード禁止設定をする

コピーやリストのプリントを使用できないように設定できます。

1 〈メニュー〉を押します。

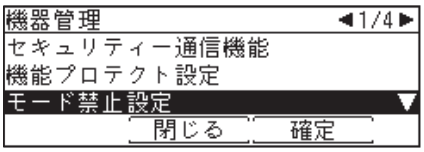
2 [機器設定]を押します。

3 「機器管理」を選択し、[確定]を押します。

4 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。

管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 5 に進みます。

5 「モード禁止設定」を選択し、[確定]を押します。



6 設定したい機能を選択し、[確定]を押します。

7 「ON」を選択し、[確定]を押します。

ユーザーの使用状況を管理する

ユーザーごとにコピーまたはファクスの、それぞれの総ページ数を確認できます。ユーザーが本商品にログインして使用した場合はユーザーごとに、ログインせずに使用した場合はゲストユーザーとして、それぞれ集計されます。

操作の流れ

1　コピー、ファクスを使用する。
2　ユーザー使用状況管理リストをプリントして使用状況を確認する。

補足

- ユーザーごとに管理するには、あらかじめネットワーク設定画面でユーザーを登録してください。
- ネットワーク設定画面でもユーザーの使用状況を管理できます。詳細は、『ネットワーク機能編』第 4 章の「ユーザーの使用状況を管理する」を参照してください。

ユーザー使用状況管理リストをプリントする

ゲストユーザーとユーザーごとの、コピーまたはファクスの総ページ数プリントできます。

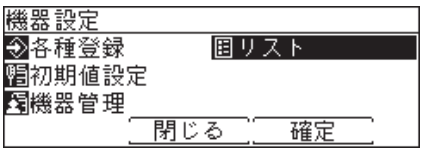
補足

- ユーザーを登録していないときは、ゲストユーザーの使用状況だけをプリントします。
- インターネットファクスのページ数はファクスの項目に加算されます。
- 999999 ページまでカウントできます。
- 特定のユーザーの機器使用状況のみをプリントしたい場合は、ネットワーク設定画面からリストをプリントしてください。詳細は、『ネットワーク機能編』第 3 章の「ユーザーの使用状況を管理する」を参照してください。

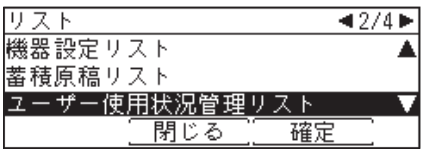
1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **［機器設定］を押します。**

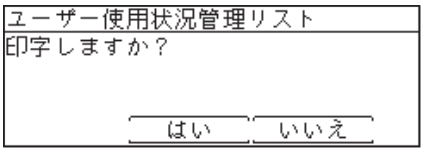
3 **「リスト」を選択し、［確定］を押します。**



4 **「ユーザー使用状況管理リスト」を選択し、［確定］を押します。**



5 **確認画面が表示されたら、［はい］を押します。**



集計データを消去する

集計したデータをすべて消去します。

補足

カウンターをリセットすると、今までの集計がすべて消去されますのでご注意ください。

1 **〈メニュー〉を押します。**

2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**

4 **管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。**

管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 5 に進みます。

5 **「ユーザー使用状況管理」を選択し、［確定］を押します。**

6 **「カウンターリセット」を選択し、［確定］を押します。**

7 **集計データを消去する場合は［はい］を押します。**

ネットワーク設定をする

ネットワークに関連するさまざまな機能を使用するための設定をします。

補足

- ネットワーク設定画面でも、ネットワークを設定できます。詳細は、『ネットワーク機能編』第 4 章の「接続環境を設定する」を参照してください。
- この機能は、LAN（有線）が ON の場合のときに使用できます。（→ 1-20 ページ）

1 **〈メニュー〉を押します。**

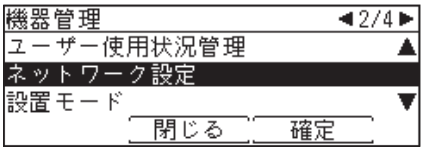
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**

4 **管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。**

管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 5 に進みます。

5 **「ネットワーク設定」を選択し、［確定］を押します。**



6 **それぞれ設定を行います。**

設定項目については、「ネットワーク一覧」（8-14 ページ）を参照してください。

❑ ネットワーク一覧

機能	機能説明	設定値	参照ページ
Ping	特定の IP アドレスを入力して ping を実行し、接続状況を確認できます。		—
TCP ／ IP 設定	本商品をネットワークで使用するための設定をします。 • ホスト名 • ワークグループ名 • DNS サーバーアドレス • DNS サフィクス • IP アドレス自動取得 • IP アドレス • サブネットマスク • ゲートウェイアドレス • WINS サーバーアドレス	 MAC アドレスが入力されています WORKGROUP 登録されていません 登録されていません OFF <u>ON</u> 192.168.1.10 255.255.255.0 登録されていません 登録されていません	8-15
アクセス制限設定のクリア	ネットワーク設定画面にアクセスできなくなった場合、アクセス制限を初期化できます。		—
サービス設定の初期化	ネットワーク設定画面にアクセスできなくなった場合、マシンポリシー設定にあるサービス設定を初期化できます。		—
ネットワーク接続速度切り替え	接続している LAN の通信速度を設定できます。	<u>自動</u> 100Mbps - 全二重 100Mbps - 半二重 10Mbps - 全二重 10Mbps - 半二重	—

補 足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

TCP ／ IP 設定をする

本商品をネットワークで使用するために、TCP ／ IP の設定をします。

項目	説明	参照ページ
ホスト名	本商品のホスト名を入力します。 初期設定は MAC アドレスで、15 文字まで入力できます。	8-16
ワークグループ名	本商品が接続されているネットワークのワークグループ名を入力します。 初期設定は「WORKGROUP」で、15 文字まで入力できます。	8-17
DNS サーバーアドレス	DNS サーバーを使用しているときは、優先 DNS サーバーアドレス（優先プライマリー）、代替 DNS サーバーアドレス（セカンダリー）を入力します。	8-17
DNS サフィクス	ホスト名だけで名前解決をする場合は、DNS サフィクスを登録します。	8-18
IP アドレス自動取得	ネットワーク上に DHCP サーバーがある場合に、DHCP サーバーから自動的に IP アドレスを取得するかどうかを設定します。IP アドレスを自動で取得する場合は「ON」、自動で取得しない場合は「OFF」を設定します。	8-18
IP アドレス	本商品のネットワーク上の IP アドレスを設定します。 補 足 「IP アドレス自動取得」が ON のときは、設定できません。	8-19
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。 補 足 「IP アドレス自動取得」が ON のときは、設定できません。	8-19
ゲートウェイアドレス	ゲートウェイを使用しているときは、ゲートウェイアドレスを設定します。	8-19
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーを使用しているときは、WINS サーバーアドレスを入力します。	8-20

補 足

- ネットワーク設定画面でも、TCP ／ IP 設定ができます。詳細は、『ネットワーク機能編』第 4 章の「接続環境を設定する」を参照してください。
- ネットワーク設定を変更する場合は、ネットワーク管理者に相談してください。
- IP アドレスの設定を間違えると、正しくネットワークに接続できません。

❑ TCP ／ IP 設定画面を開く

1 〈メニュー〉を押します。

2 ［機器設定］を押します。

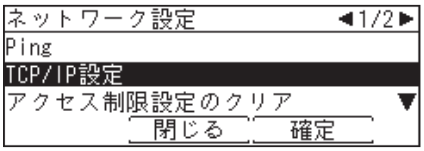
3 「機器管理」を選択し、［確定］を押します。

4 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。

管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 5 に進みます。

5 「ネットワーク設定」を選択し、［確定］を押します。

6 「TCP ／ IP 設定」を選択し、［確定］を押します。



7 それぞれ設定を行います。

❑ ホスト名を設定する

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。（→ 8-16 ページ）

2 「ホスト名」を選択し、［確定］を押します。

3 ホスト名を入力し、［確定］を押します。

名前の先頭に「＊」は、入力できません。

❑ ワークグループ名を設定する

補足

- ドメイン名はワークグループ名として使用できません。
- ネットワーク上にワークグループがない場合は、新しいワークグループを作成してください。
- 新しいワークグループを作成する場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。(→ 8-16 ページ)

2 「ワークグループ名」を選択し、[確定] を押します。

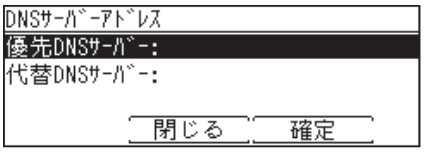
3 ワークグループ名を入力し、[確定] を押します。
名前の先頭に「＊」は、入力できません。

❑ DNS サーバーアドレスを設定する

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。(→ 8-16 ページ)

2 「DNS サーバーアドレス」を選択し、[確定] を押します。

3 「優先 DNS サーバー」を選択し、[確定] を押します。



4 優先 DNS サーバーのアドレスを入力し、[確定] を押します。

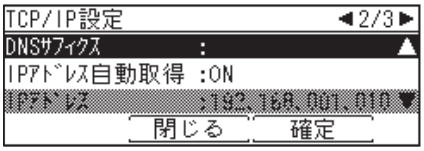
5 「代替 DNS サーバー」を選択し、[確定] を押します。

6 代替 DNS サーバーのアドレスを入力し、[確定] を押します。

❑ DNS サフィクスを設定する

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。(→ 8-16 ページ)

2 「DNS サフィクス」を選択し、[確定] を押します。



3 DNS 検索時に使用するサフィクスを入力し、[確定] を押します。

❑ IP アドレスを自動取得する

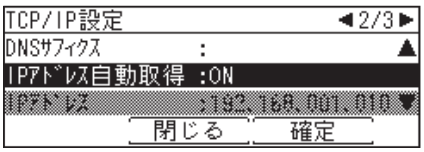
DHCP サーバーを利用して、IP アドレスやサブネットマスクなどを自動的に取得できます。DHCP サーバーの設定によっては、ゲートウェイアドレスと DNS サーバーアドレスも自動的に割り当てられます。

補 足

- 電源を長期間 OFF にすると、IP アドレスが無効になる場合があります。
- DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスとサブネットマスクは、変更できません。
- DHCP サーバーを利用しない場合は、DHCP 設定を OFF にして IP アドレスとサブネットマスクを手動で入力してください。

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。(→ 8-16 ページ)

2 「IP アドレス自動取得」を選択し、[確定] を押します。



3 IP アドレスを自動的に取得する場合は「ON」を、しない場合は「OFF」を選択し、[確定] を押します。

❑ IP アドレスを設定する

IP アドレスを自動取得しないときは、手動で IP アドレスを設定します。

補足

あらかじめ「IP アドレス自動取得」を OFF に設定してください。(→ 8-18 ページ)

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。(→ 8-16 ページ)

2 「IP アドレス」を選択し、[確定] を押します。

3 IP アドレスを入力し、[確定] を押します。

❑ サブネットマスクを設定する

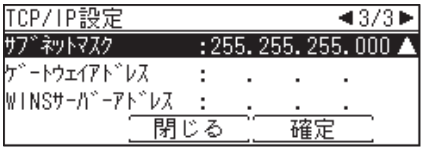
IP アドレスを自動取得しないときは、手動でサブネットマスクを設定します。

補足

あらかじめ「IP アドレス自動取得」を OFF に設定してください。(→ 8-18 ページ)

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。(→ 8-16 ページ)

2 「サブネットマスク」を選択し、[確定] を押します。

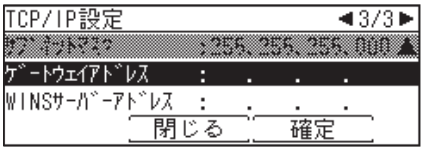


3 サブネットマスクの IP アドレスを入力し、[確定] を押します。

❑ ゲートウェイアドレスを設定する

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。(→ 8-16 ページ)

2 「ゲートウェイアドレス」を選択し、[確定] を押します。



3 ゲートウェイの IP アドレスを入力し、[確定] を押します。

❑ WINS サーバーアドレスを設定する

1 TCP ／ IP 設定画面を開きます。（→ 8-16 ページ）

2 「WINS サーバーアドレス」を選択し、［確定］を押します。

3 WINS サーバーの IP アドレスを入力し、［確定］を押します。

自動ログアウト時間を設定する

ログイン後、何も操作しなかった場合に自動的にログアウトするまでの時間を設定します。
ログインした状態で本商品から離れてしまったときに、不正に使用されるのを防ぎます。
設定可能範囲は 1 ～ 10 分で、初期値は 3 分です。

補足

手動でログアウトする方法については、「ログアウトする」（1-27 ページ）を参照してください。

1 **〈メニュー〉を押します。**

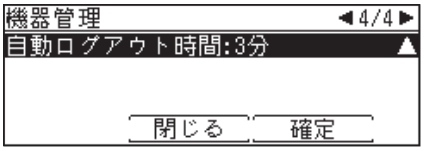
2 **［機器設定］を押します。**

3 **「機器管理」を選択し、［確定］を押します。**

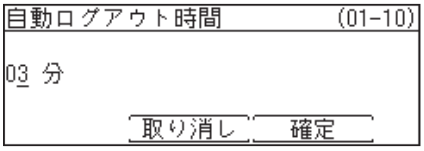
4 **管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、［確定］を押します。**

管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 5 に進みます。

5 **「自動ログアウト時間」を選択し、［確定］を押します。**



6 **自動ログアウト時間を入力し、［確定］を押します。**



テンキーを使って設定します。

（空白ページ）

第９章

メンテナンスについて

記録紙を交換する 9-2
済スタンプを交換する 9-4
清掃する 9-6
外装、操作パネルのお手入れ 9-6
読み取り部のお手入れ 9-6
記録部のお手入れ 9-8

記録紙を交換する

記録品質への悪影響および故障の原因となることがありますので、当社指定の記録紙をおすすめします。記録紙に赤い帯が出ると「まもなく記録紙がなくなります」というお知らせです。新しい記録紙と交換してください。

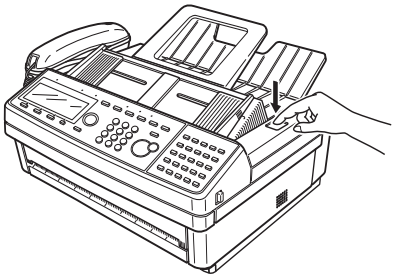
⚠注意

- サーマルヘッド（印字部）付近には触れないでください。動作直後は高温になっており、やけどの原因となります。
- トップカバーはいきおいよく開きますので注意してください。

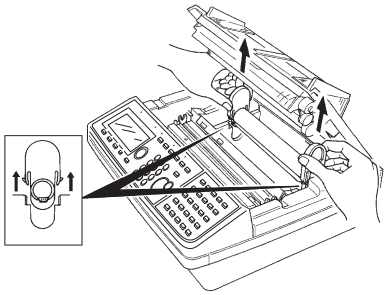
お願い

記録紙を交換するときは、電源を切らずに交換してください。電源を切ると蓄積原稿が消えることがあります。

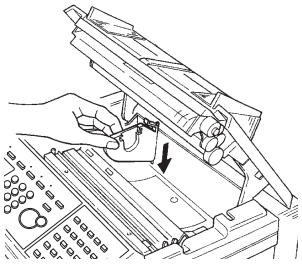
1 トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを開けます。



2 記録紙の芯を取り除きます。

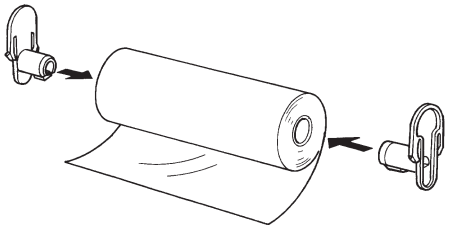


3 仕切板を記録紙サイズに合わせます。

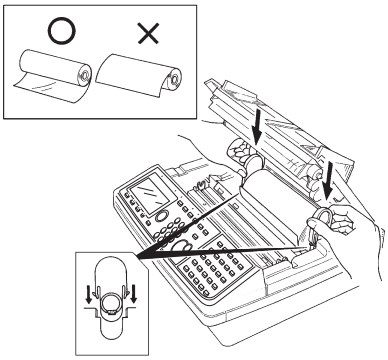


A4 の記録紙を使用するときは、仕切板を内側に移動させます。

4 記録紙に記録紙ホルダーを取り付けます。

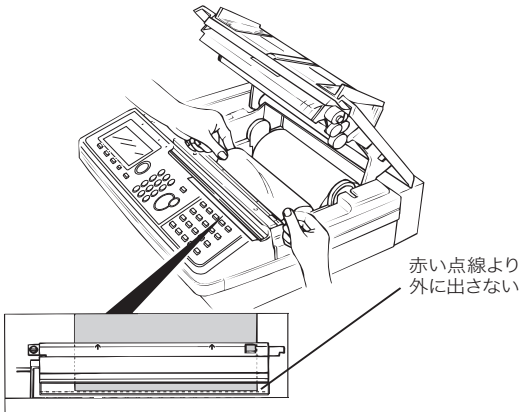


5 記録紙ホルダーを溝に差し込み、記録紙を本体にセットします。



・記録紙ホルダーを図のように差し込んでください。
・記録紙を入れる向きに注意してください。

6 記録紙の先端をペーパーガイドの下（黒い矢印の下）に挿入します。



ペーパーガイドのフィルムから記録紙が見えるまで挿入します。記録紙がフィルムの赤い点線より外に出ないようにします。

7 トップカバーの両端を押さえて閉じます。

・トップカバーを閉じると、記録紙の先端をテストカットします。これが行われないときは、もう一度記録紙をセットし直してください。
・排出された記録紙にテスト文書が印字されているか確認してください。何も印字されていない場合は、記録紙のセット方法が間違っています。手順 5 を参照してセットし直してください。

済スタンプを交換する

済スタンプが薄くなったときは、済スタンプを交換してください。

⚠注意

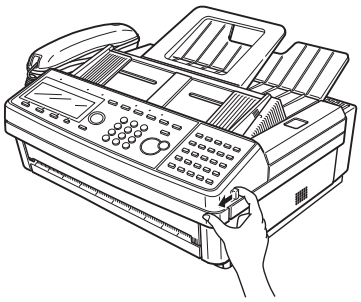
- 済スタンプを交換するときは、原稿カバーで手などをはさまないように片方の手で原稿カバーを押さえながら交換してください。
- 付属のピンは先がとがっています。指などに刺さらないようご注意ください。

お願い

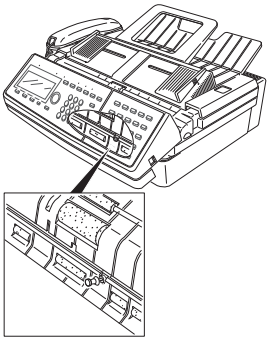
スタンプ印面には、直接手を触れないでください。インクが手などに付着したときは、できるだけ早く水で洗ってください。

1 **原稿カバーを開けます。**

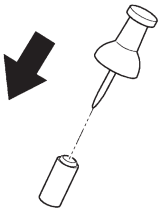
原稿カバー開放レバーを引き、原稿カバーを開けます。



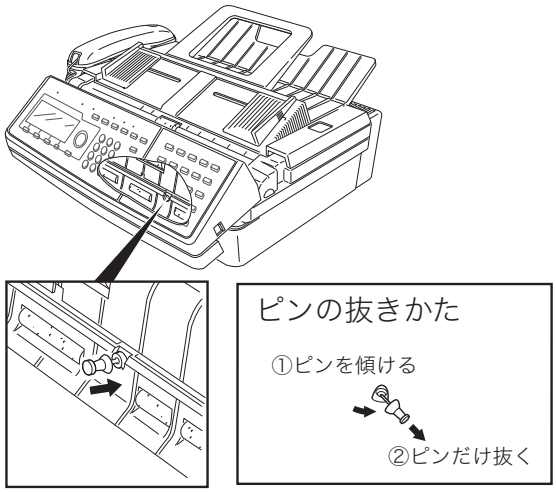
2 **交換する済スタンプの印面に付属のピンを刺し、済スタンプを引き抜きます。**



3 **交換用済スタンプの印面中央部に、付属のピンを刺します。**

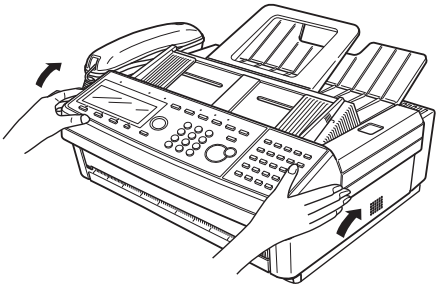


4 **本体に差し込み、付属のピンだけを斜めに傾けて抜きます。**



5 **原稿カバーを閉めます。**

原稿カバーの左右の端を上から押して閉めてください。



清掃する

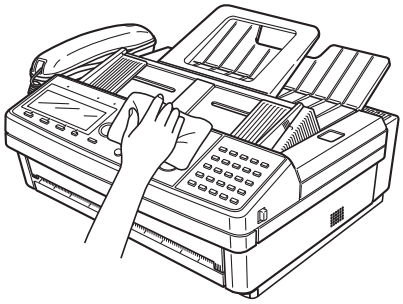
定期的にお手入れしてください。

⚠警告

水やアルコール、水で薄めた中性洗剤を使用して清掃する場合は、少量を柔らかい布にしみこませて清掃してください。しみこませる量が多いと、火災・感電の原因となります。

外装、操作パネルのお手入れ

1 **柔らかい布で、から拭きします。**



お願い

- 汚れがひどいときは、アルコール（エタノール、メタノール）か水で薄めた中性洗剤を少量しみこませた柔らかい布をご使用ください。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。

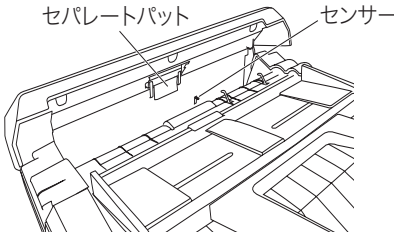
読み取り部のお手入れ

⚠注意

セパレートパットと原稿カバーの内側を清掃するときは、セパレートパットの両脇にある金属に触れないでください。けがをする恐れがあります。

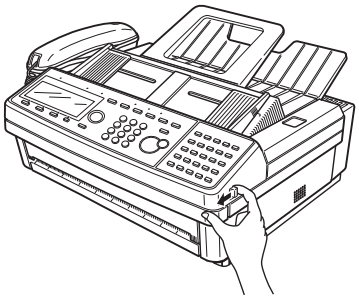
お願い

- 清掃には水を少量しみこませてよく絞った柔らかい布をご使用ください。汚れがひどいときは、アルコール（エタノール、メタノール）か水で薄めた中性洗剤を少量しみこませた柔らかい布をご使用ください。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。
- 清掃するときは、センサー部分に触れないようにご注意ください。

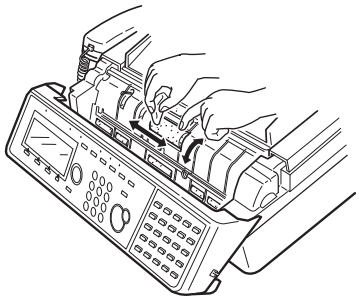


1 **原稿カバーを開けます。**

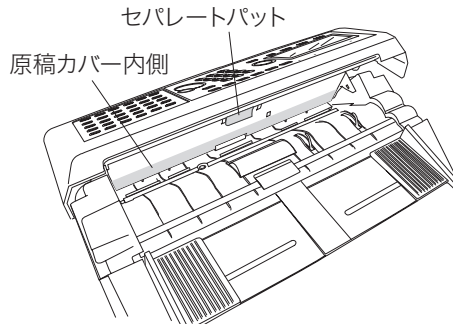
原稿カバー開放レバーを引き、原稿カバーを開けます。



2 **原稿送りローラーを回しながら汚れを拭き取ります。**



3 **セパレートパットと原稿カバーの内側の汚れを拭き取ります。**



記録部のお手入れ

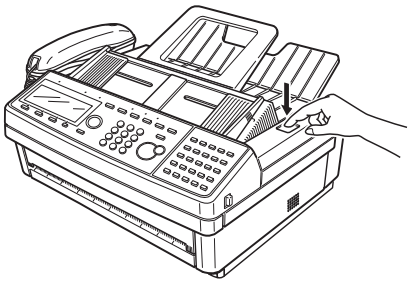
⚠警告

- サーマルヘッド（印字部）付近には触れないでください。動作直後は高温になっており、やけどの原因となります。
- トップカバーはいきおいよく開きますので注意してください。

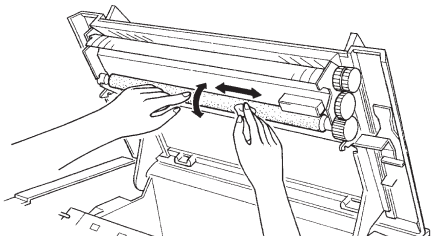
お願い

- 清掃には水を少量しみこませてよく絞った柔らかい布をご使用ください。汚れがひどいときは、アルコール（エタノール、メタノール）か水で薄めた中性洗剤を少量しみこませた柔らかい布をご使用ください。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。
- サーマルヘッド表面を金属などの硬いものや爪でこすらないでください。また、直接手で触れないでください。

1 トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを開けます。



2 記録紙ローラーを回しながら、汚れを拭き取ります。



ローラーを手で回しながら、ローラー全面を拭いてください。

第 10 章

こんなときには

紙づまりを処理する **10-2**
記録紙づまりを解除する 10-2
原稿づまりを解除する 10-4
エラーメッセージが表示されたときは **10-5**
アラームランプについて 10-5
プリントされるチェックメッセージ 10-5
エラーコード 10-7
主なメッセージと処置のしかた 10-12
故障かなと思ったら **10-15**
動作しない 10-15
送信できない 10-16
受信できない 10-17
画質が悪い 10-18
停電のときは **10-20**
本体の動作 10-20
消去通知 10-20

紙づまりを処理する

記録紙づまりを解除する

記録紙がつまるとアラーム音が鳴り「紙づまりです」と表示されます。以下の手順に従って慎重に取り除いてください。

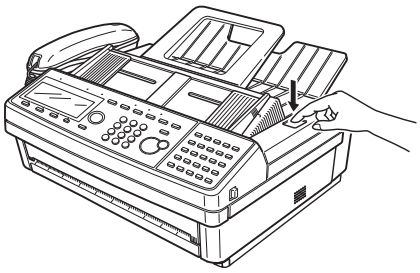
⚠注意

- サーマルヘッド（印字部）付近には触れないでください。動作直後は高温になっており、やけどの原因となります。
- カッター部には絶対に指を入れないでください。けがの原因となります。
- トップカバーはいきおいよく開きますので注意してください。

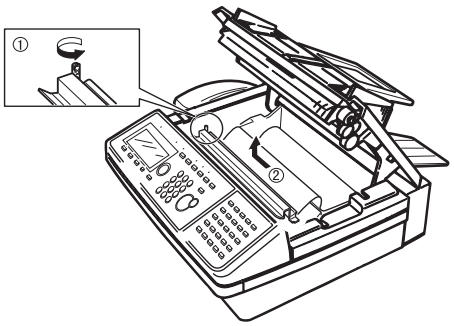
お願い

- 記録紙を交換するときは、電源を切らずに交換してください。電源を切ると蓄積原稿が消えることがあります。
- 記録紙は無理に引き抜かないでください。故障の原因となります。

1 **トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを開けます。**



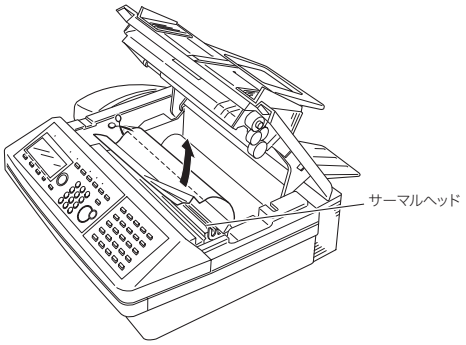
2 **ペーパーガイドを外します。**



ペーパーガイドを外すとカッター部が露出しますので、絶対に触れないでください。

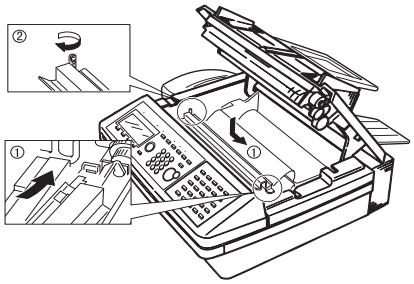
3 つまった記録紙を取り除きます。

記録紙の破れた部分やしわになった部分をハサミなどでまっすぐに切り取ります。サーマルヘッドには手を触れないでください。



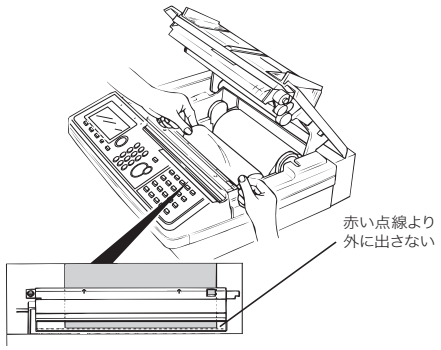
4 ペーパーガイドを取り付けます。

ペーパーガイドの右端の突起部を本体側の四角い穴に入れ、ネジで固定します。



5 記録紙の先端をペーパーガイドの下（黒い矢印の下）に挿入します。

ペーパーガイドのフィルムから記録紙が見えるまで挿入します。記録紙がフィルムの赤い点線より外に出ないようにします。



6 トップカバーの両端を押さえて閉じます。

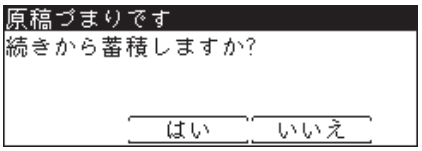
トップカバーを閉じると、記録紙の先端をテストカットします。これが行われないときは、もう一度記録紙をセットし直してください。

原稿づまりを解除する

原稿がつまったときは、以下の手順でつまっている原稿を取り除いてください。

補 足

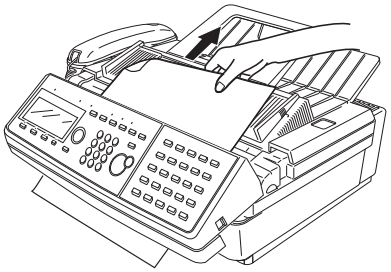
原稿づまり解除後に以下の表示がされた場合は､原稿の続きから読み取りを再開できます。
- ［はい］を押し、画面の指示に従って原稿をセットし直してください。
- ［いいえ］を押すと、ジョブをキャンセルします。



1 **原稿カバーを開けます。**

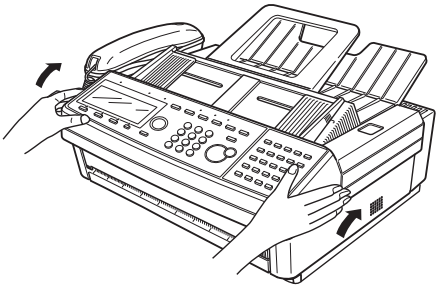
原稿カバー開放レバーを引き、原稿カバーを開けます。

2 **つまっている原稿を取り除きます。**



3 **原稿カバーを閉めます。**

原稿カバーの左右の端を上から押して閉めてください。



.

エラーメッセージが表示されたときは

通信エラーや機器の異常時には、アラームランプが点灯し、ディスプレイにエラーメッセージを表示したり、記録紙にチェックメッセージをプリントしたりしてお知らせします。

アラームランプについて

通信エラーや機器に異常があると、アラームランプが点灯します。アラームランプは、〈ストップ〉を押して消灯できるものと、消灯できないものがあります。
消灯できないものは、エラーに対しての処置が必要です。エラーの要因が解除されるとアラームランプは消灯します。

アラームランプを消灯できるエラー
・通信エラー
・受信中にメモリーオーバーしたとき
・蓄積中にメモリーオーバーしたとき

アラームランプを消灯できないエラー
・記録紙切れ、記録紙づまり、原稿づまり
・カバーが開いているとき
・機器の重大なエラー

プリントされるチェックメッセージ

通信エラーが発生したときは、エラーの内容・対処方法のメッセージとエラーコードがプリントされます。エラーコードは通信エラーの原因を表すコードです。メッセージとエラーコードを確認して対処してください。

プリント例

＊＊ チェックメッセージ ＊＊

P1　　2013年10月15日(火) 13:30

発信元名1:ABCXXX(株)　　発信元番号:123###****

相手先	送信種別	画質ﾓｰﾄﾞ	開始日時	時間	枚数	備考	結果	詳細
1234567890	ﾌｧｸｽ	高画質	10/15 15:00	00'36"	0		T.1.1	相手機が応答しませんでした。相手機をご確認ください。

❑ メッセージ例

メッセージ	メッセージの発生状態と対応の方法	エラーコード
ID チェック送信で、相手機の ID と一致しませんでした。	相手先に登録されているファクス番号の下 4 桁と入力した番号の下 4 桁が一致しません。 → ID 番号を確認してください。	T.2.2
ID チェック送信で、相手機の発信元番号が未登録でした。	相手先にファクス番号が登録されていません。 → 相手先に電話をかけ、相手側機のファクス番号の確認を依頼してください。	T.2.2
閉域送信で、相手機のパスコードと一致しませんでした。	相手側機のパスコードの確認を依頼してください。	T.2.2
相手機が応答しませんでした。相手機をご確認ください。	相手先に電話をかけ、相手側機のモード、ファクス番号、機器の状態などの確認を依頼してください。	T.1.1、T.1.2、T.2.2、R.1.1、R.1.2
相手機側で原稿を正しく受信できませんでした。	相手先に電話をかけ、相手側機の動作状態の確認を依頼してください。	T.4.2
原稿読み取りエラーが発生しました。もう一度送信してください。	原稿がスムーズに繰り込まれていない状態になっていることがあります。 → 再度、送信してください。	T.3.1
相手機が応答しませんでした。もう一度送信してください	回線状態が悪いことがあります。 → 再度、送信してください。	T.4.1、T.5.1、T.5.2
発信音が検出できませんでした。回線接続状況をご確認ください。	“/P”、“/T” の箇所で発信音がかえってきませんでした。 → “/P”、“/T” の位置を確認して再送信してください（交換機によってはこれらの記号が不要な場合もあります）。	D.0.8
相手先が話し中でした。もう一度送信してください。	設定してある再ダイヤル回数分の電話をしても、相手先に送信できませんでした。 → 改めて相手先のファクス番号を押し、送信してください。再度このメッセージが表示されるときは、相手先に電話をかけて相手側機の状態を確認してください。	D.0.2
	ダイヤル種別が正しいか確認してください。 詳細は、「ダイヤル種別を設定する」を参照してください。	
ダイヤル情報がありませんでした。宛先表の相手先番号をご確認ください。	宛先表番号をセットし直して、再度送信してください。	D.0.6
中止操作により、通信を中止しました。	通信がストップしましたので、再度通信してください。	D.0.3、T.1.4、R.1.4

エラーコード

❑ ダイヤル時の異常

モード	エラーコード	コードの内容	対応・処理の方法
G3送信	D.0.1	発信と着信が同時に起きました	再送信してください。
	D.0.2	相手が話中	再送信してください。
	D.0.3	〈ストップ〉が押された	再送信してください。
	D.0.7	オートダイヤル発信したとき、相手先に着信しない	正しいファクス番号をセット後、再送信してください。
	D.0.8	ダイヤルトーンが検出できません	電話機ヒモが正しく接続されているか確認してください。
			ダイヤルトーンの検出設定を確認してください。 詳細は、ダイヤルトーン検出を設定する」を参照してください。
		“/P”、“/T” の箇所で発信音がかえってこなかった	“/P”、“/T” の位置を確認して再送信してください。交換機によってはこれらの記号は不要な場合もあります。

❑ 送信時の異常

モード	エラーコード	コードの内容	対応・処理の方法
G3送信	T.1.1	番号間違い（相手が電話を切った）	相手先のファクス番号を確認し、再送信してください。
		相手が手動受信で電話を切った	相手先の受信方法を確認してください。
		相手機種が G3 機でない	当機では通信できません。
	T.1.4	交信開始時に送信中止した （通信管理記録のみ表示）	再送信してください。
	T.2.1	回線状態が悪く（特に海外）相手機が回線を切った	再送信してください。何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
		相手側機と設定が合わない	相手側の設定を確認してください。相手側で特殊な設定をしている場合は、その設定を解除するよう依頼してください。
	T.2.2	相手側機と設定が合わない	相手先の機種および設定状況を確認してください。
	T.2.3	回線状態が悪く、最低速度でも送信できませんでした。	再送信してください。何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

モード	エラーコード	コードの内容	対応・処理の方法
G3送信	T.3.1	原稿繰りこみ時に原稿がつまった	つまったページから再度送信してください。
		900 mm 以上の原稿を送信した	1 ページを 900 mm 以内にして送信してください。
		交信中断の後 “ ランプを確認してください ” と表示された場合は光源の光量不足です	電源スイッチを OFF → ON してコピーをとってみてください。 “ ランプを確認してください ” が表示されなければ再度送信してください。コピーでも “ ランプを確認してください ” が表示される場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
	T.4.1	原稿を送信中に回線障害などが原因で相手機が回線を切った	再送信してください。何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
	T.4.2	相手側で画質異常となった (回線障害などが原因)	送信したページはすべて相手側に届いていますが、一部写りが悪くなっている可能性があります。相手側に受信画質の確認を依頼してください。
	T.5.1、T.5.2、T.5.3	原稿を送信中に回線が切れた (回線障害などが原因)	再送信してください。何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
	T.8.1	受信モードが合わない	相手側を確認してください。相手側機がファクスではないことがあります。
	T.8.10、T.8.11	回線状態が悪く、送信できませんでした。	再送信してください。何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

❑ 受信時の異常

モード	エラーコード	コードの内容	対応・処理の方法
G3受信	R.1.1	手動受信または転送受信を行ってファクスが受信状態になったが相手から信号がこない	送信側の操作ミスが考えられます。 相手がわかっている場合はもう一度送信を依頼してください。
	R.1.2	送信機とのモードが合わない	相手がわかっている場合はもう一度送信を依頼してください。 何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
		ダイレクトメール防止設定中にダイレクトメールを受信した（通信管理記録にのみ記載）	詳細は、「ダイレクトメールを防止する」を参照してください。
	R.1.4	ポーリング受信中に通信中止した (通信管理記録にのみ記載)	相手がわかっている場合はもう一度送信を依頼してください。

モード	エラーコード	コードの内容	対応・処理の方法
G3受信	R.2.3	回線障害などにより回線が切れた	相手がわかっている場合はもう一度送信を依頼してください。 何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
	R.3.1	送信側で原稿を引き抜いた または〈ストップ〉を押した	
	R.3.3	受信中に信号が途切れた (回線障害などが原因)	
	R.3.4	最低のスピードでも受信できない (回線障害などが原因)	
	R.4.1	受信した原稿が長いため、すべて受信できませんでした。	相手がわかっている場合は、原稿の長さを短くして送信してもらってください。 何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
	R.4.2	受信中に信号が途切れた (回線障害などが原因)	相手がわかっている場合はもう一度送信を依頼してください。 何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
	R.4.4	メモリー容量オーバー (通信管理記録にのみ記載)	
	R.5.1	受信中に信号が途切れた 送信側で〈ストップ〉を押した	
	R.5.2	受信中に信号が途切れた (回線障害などが原因)	
	R.8.1	通信機とのモードが合わない	相手側を確認してください。 ポーリング受信時は、相手機に原稿がセットされていない場合があります。
	R.8.10、 R.8.11	回線状態が悪く、受信できませんでした。	何度もこのエラーが発生する場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

❑ インターネットファクス送信時の通信エラー

エラーコード	エラーメッセージ	対処および処理の方法
980、984、 985、986、 991、992、 996、999	送信できませんでした。 もう一度送信してください。	再送信してください。
987、988、 990、997	送信できませんでした。 設定を確認してください。	ネットワーク設定の画面で、「SMTP/POP設定」が正しく設定されているか確認してください。
989	送信できませんでした。 宛先メールアドレスを確認してください。	送信先に選択したメールアドレスが正しく入力されているか確認してください。
994	メールサーバーからの応答がありません。	ネットワークの接続を確認してください。
995	送信できませんでした。 メールサーバーが見つかりません。	DNS の設定を確認してください。
1002	送信できませんでした。停止しました。	送信中に〈ストップ〉が押されました。

❑ フォルダー送信時（自動配信、アーカイブ）の通信エラー

エラーコード	エラーメッセージ	対処および処理の方法
9999	システムエラーが発生しました。	一時的にシステムメモリーが不足したため、エラーが発生しました。しばらく待って、再度操作してください。
1001、1003、1007、1008、1009、1010、1011、1013、1015、1016、1017、1032、1033、1066、1080、1087、1122、1123、1183、1230、1231、1232、1233、1234、2001	接続できませんでした。	ネットワーク上に機器のホスト名と同じ名前のコンピューターが存在しないことを確認してください。
		TCP/IP 設定の DNS サーバーアドレス、DNS サフィックス、WINS サーバーアドレスが正しく設定されていることを確認してください。
		DNS サーバーに相手先コンピューター名が登録されていることを確認してください。
		相手先コンピューターに WINS が正しく設定されていることを確認してください。
1002、1004、1006、2999、3019、3020、3021、3022、3023、3024、3025、3026、3027、3028、3029、3030、3031、3034、3035、3036、3039	ファイル読み書きできませんでした。	コンピューターの共有フォルダーが書き込み禁止になっていないことを確認してください。 コンピューターの共有フォルダーが、ネットワーク上のほかのコンピューターで表示できるか確認してください。表示されない場合は、共有フォルダーの設定が正しくない場合があります。詳しくは、ネットワーク管理者にご相談ください。
1005、1012、2002、2004、2005、2006、2007、2049、2050、2051、2052、2064、2065、2067、2069、2071、2081、2082、2083、2087、2088、2089、2090	ログインできませんでした。	宛先に選択した共有フォルダーにログインするためのユーザー名とパスワードが、正しく入力されていることを確認してください。 また、書き込み権限のあるユーザー名とパスワードを入力し、ログインしてください。
1018	共有フォルダーにファイルがありませんでした。	添付ファイルに選択したファイルが存在するか確認してください。
1067	共有フォルダーがありませんでした。	保存先に選択したフォルダーが共有フォルダーに設定されているか、確認してください。

❑ インターネットファクス受信結果について

受信管理レポートやネットワーク設定画面の通信履歴で、「結果」の欄に表示される 1 桁の数字です。

エラーコード	対処および処理の方法
2	・受信したメールに添付された画像は本商品に対応していません。 相手先に本商品に対応しているファイル形式で添付して再送していただくよう、依頼してください。 ・機器のメモリーが不足しているため受信できません。 機器のメモリーが十分に空いた状態で再度受信してください。
3	受信したメールのファクス転送要求が拒否されました。 ネットワーク設定画面の「メール設定＞メールオプション設定」で、ファクス転送要求の設定を確認してください。
4	POP3 サーバーに接続できません。 ネットワーク設定画面の「メール設定＞ SMTP / POP 設定」で、POP3 サーバーアドレス、POP3 ポート番号、SSL の使用、POP3S ポート番号が正しく設定されているか確認してください。
5	POP3 サーバーが見つかりません。 TCP/IP 設定の DNS サーバーアドレスの設定を確認してください。ネットワーク設定画面の「メール設定＞ SMTP / POP 設定」で、POP3 サーバーアドレス、POP3 ポート番号、SSL の使用、POP3S ポート番号が正しく設定されているか確認してください。
6	POP3 サーバーに対する認証に失敗しました。 ネットワーク設定画面の「メール設定＞ SMTP / POP 設定」で、認証方式、POP3 ユーザー名、POP3 ユーザーパスワードが正しく設定されているか確認してください。

❑ インターネットファクス受信エラーへの対応について

受信管理レポートやネットワーク設定画面の通信履歴で、「備考」の欄に表示される内容です。受信管理レポートではメッセージが表示されますが、ネットワーク設定画面の通信履歴では、1 桁の数字で表示されます。

エラーコード	エラーメッセージ	内容
2	ファクス転送	受信したメールにファクス宛先への転送が設定されていた場合、設定先にファクスを転送しました。
3	プリント	受信したメールが Message Disposition Notification（MDN：開封確認通知）への返信であった場合に、受信した結果をプリントしました。
4	エラーメール（MDN）	受信したメールが Message Disposition Notification（MDN：開封確認通知）を要求していたので、確認結果を送信しました。
5	エラーメール（転送）	ネットワーク設定画面の「解析不能メール受信処理」の設定に基づいて、受信したメールを転送しました。
6	エラーメール（返信）	ネットワーク設定画面の「解析不能メール受信処理」の設定に基づいて、受信したメールを差出人に返送しました。

エラーコード	エラーメッセージ	内容
7	エラーメール（通知）	ネットワーク設定画面の「解析不能メール受信処理」の設定に基づいて、受信したメールを差出人にエラー通知を送信しました。
8	エラーメール（サイズオーバー）	メールのサイズが大きすぎて、受信できませんでした。差出人に通知を送信しました。
9	消去	受信したメールを消去しました。

主なメッセージと処置のしかた

操作の間違いや、機器の異常などをディスプレイに表示します。下記以外のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って処理を行ってください。

メッセージ	原因	処置のしかた
～と同時に設定できません。	同時に設定できない機能を組み合わせようとしています。	このメッセージが表示された機能は、組み合わせて設定できません。
紙づまりです 点滅箇所のカバーを確認してください	機器内部にて、記録紙づまりが発生しました。	表示された部分のカバー、記録紙カセットを開いて、つまった記録紙を取り除いてください。 →「記録紙づまりを解除する」(10-2 ページ)
桁数オーバーです。	名前や番号などの入力のとき、最大桁数を超えました。	最大桁数内で入力し直してください。
件数オーバーです。	同報送信にて、直接ダイヤルを 31 件以上登録しようとしました。	→「複数の宛先へ一度に送信する(同報送信)」(2-7 ページ)
原稿がありません。 セキュリティー受信を解除しました	セキュリティー受信文書が無いときに、セキュリティー受信の解除操作を行いました。	セキュリティー受信の設定は解除されます。
原稿が蓄積済みです。	ポーリング原稿がすでに蓄積されています。	新しい原稿を蓄積する場合は、蓄積されている原稿を削除してください。 →「ポーリング送信用の原稿を蓄積する」(2-16 ページ)
原稿づまりです 続きから蓄積しますか？	原稿づまりを解除後、続きの原稿を読み取ることができる場合に表示されます。	続けて原稿を読み取る場合は、[はい] を押してください。 →「原稿づまりを解除する」(10-4 ページ)
原稿づまりです 点滅箇所のカバーを確認してください	自動原稿送り装置に原稿がつまっています。	つまった原稿を取り除いてください。 →「記録紙づまりを解除する」(10-2 ページ)
原稿をセットして［スタート］を押してください 再セットページ：	原稿づまりを解除後、自動原稿送り装置に原稿が残っていなかった場合に表示されます。	表示されたページの原稿をセットして〈スタート〉を押してください。続きを蓄積します。
コピー禁止中です。	コピー禁止が設定されています。	→「モード禁止設定をする」(8-10 ページ)

メッセージ	原因	処置のしかた
コピー予約が禁止されています。	コピー予約設定が OFF になっているため、コピー中に別のコピー原稿を読み取ることができません。	コピー予約設定を変更してください。 →「コピー予約を設定する」(7-14 ページ)
しばらくお待ちください。	機器が準備中です。	動作可能になるまでしばらくお待ちください。
自動原稿送り装置に原稿があります。	自動原稿送り装置に原稿がある場合は、節電モードに移行できません。	原稿を取り除いてください。
受信でメモリーオーバーしました	受信中にメモリー不足になり、メモリーがいっぱいになりました。	メモリーが空くのを待つか、不要な蓄積文書を削除してください。
受信件数の制限またはメモリー不足のためファクス受信できません。	代行受信が 100 件を超えました。または、受信中にメモリー不足になり、メモリーがいっぱいになりました。	代行受信になる原因を解除して、メモリーに蓄積されている文書をプリントしてください。または、メモリーが空くのを待つか、不要な蓄積文書を削除してください。
既に入力されています。	同じ名前または番号が、すでに登録されています。	別の名前または番号を登録してください。
セキュリティー受信原稿があります。	セキュリティー受信した文書がメモリーに保存されています。	プリントする場合はセキュリティー受信を OFF にします。
セキュリティー受信を解除しました	セキュリティー受信にて、受信した原稿をプリントしました。	プリント後、セキュリティー受信の設定は解除されます。 →「受信文書をメモリーに蓄積する(セキュリティー受信)」(2-52 ページ)
セキュリティー受信を設定してください	セキュリティー受信機能の設定がされていません。	セキュリティーを使用するには、あらかじめ設定が必要です。 →「受信文書をメモリーに蓄積する(セキュリティー受信)」(2-52 ページ)
正しい値を入力してください。	間違った値が入力されました。	正しい値を入力し直してください。
通信エラー	通信エラーが発生しました。	通信エラーの内容を確認して、再度操作してください。 →「エラーコード」(10-7 ページ)
通信予約できません。	通信予約文書が 30 件を超えています。	予約中の通信が終了するまで待つか、リアルタイム送信を行ってください。
点検をお受けください。	機器内部に異常が発生しました。	NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
入力範囲を超えています。 入力した値を確認してください。	間違った数値が入力されました。	正しい値を入力し直してください。
ファクス禁止中です。	ファクス禁止が設定されています。	→「モード禁止設定をする」(8-10 ページ)
プリント中です。	プリント中にリストなどをプリントしようとしました。	現在のプリントが終了するまでお待ちください。
プロテクトコードが未登録です。	プロテクトコードの設定が必要な機能を設定しようとしました。	プロテクトコードを登録してから操作してください。 →「プロテクトコードを設定する」(8-5 ページ)

メッセージ	原因	処置のしかた
他の機能で使用されています。	他の機能で使用中のものを変更 / 削除しようとしています。	変更 / 削除する場合は、使われている機能（自動配信 / ジョブメモリー）の登録から削除したあとに変更 / 削除してください。
メモリーオーバーしました。	原稿読み取り中にメモリーがいっぱいになりました。	メモリーが空くのを待って送信し直すか、リアルタイム送信してください。 →「メモリー送信／リアルタイム送信を切り替える」(2-13 ページ)
メモリーオーバーしました。 原稿蓄積枚数：　　枚 蓄積分を有効にしますか？	原稿読み取り中にメモリーがいっぱいになりました。蓄積できた原稿の枚数が表示されています。	［はい］を押すと、蓄積した分をメモリーに記憶します。 ［いいえ］を押すと、蓄積した原稿をメモリーから消去します。
記録紙を補給してください。	記録紙が無くなりました。	記録紙を補給してください。 →「記録紙を交換する」(9-2 ページ)
システムエラー	機器内部に異常が発生しました。	NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

故障かなと思ったら

故障かなと思ったときにお読みください。ここで書かれた処置を行っても異常が直らない場合は、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
ネットワーク関する問題は、『ネットワーク機能編』第 5 章の「故障かなと思ったときは」を参照してください。

⚠警告

本商品から煙が出ているなどの異常が発生した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

お願い

不当な修理・改造、指定外の消耗品の使用などによる故障および破損の場合は、保証の対象外になることがあります。

動作しない

発生状況	チェック項目	処置
動作しない	電源コードはしっかりと差し込んでありますか？	電源プラグを確認してください。 →「電源コードの接続」(1-8 ページ)
	電源スイッチは ON になっていますか？	電源スイッチを ON にしてください。 →「電源スイッチ」(1-12 ページ)
ディスプレイに何も表示しない	〈節電〉のランプが点灯していますか？	節電モードになっています。節電モードを解除してください。 →「節電モードについて」(1-13 ページ)
ダイヤルできない	電話機ヒモが本商品と電話回線に正しく接続されていますか？	正しく接続してください。 →「電話機ヒモの接続」(1-7 ページ)
	電話回線の種類は正しく設定されていますか？	電話回線にあったダイヤル種別に設定してください。 →「ダイヤル種別を設定する」(1-16 ページ)
電話が通じない	通信中ではありませんか？	通信終了までお待ちください。
	電話回線の種類は正しく設定されていますか？	電話回線にあったダイヤル種別に設定してください。 →「ダイヤル種別を設定する」(1-16 ページ)
記録紙が出てこない	記録紙がつまっていたり、異物が入っていたりしませんか？	エラーメッセージを確認し、つまっている記録紙や異物を取り除いてください。 →「記録紙づまりを解除する」(10-2 ページ)
記録紙がよくつまる 記録紙にシワが入る	記録紙が正しくセットされていますか？	記録紙を正しくセットしてください。 →「記録紙をセットする」(1-10 ページ)
	記録紙のサイズに合わせて正しくセットされていますか？	セットした記録紙のサイズに合わせて仕切板を挿入してください。 →「記録紙をセットする」(1-10 ページ)
	湿気を含んだ記録紙を使用していませんか？	湿気を含んでいない新しい記録紙と交換してください。
	折り目やシワなど記録紙に異常はありませんか？	不良の記録紙を取り除くか、新しい記録紙と交換してください。
	機器内部につまった記録紙や紙片が残っていたり、異物が入っていたりしませんか？	機器内部を点検し、紙片や異物を取り除いてください。

発生状況	チェック項目	処置
原稿が出てこない	原稿がつまっていたり、自動原稿送り装置に異物が入っていたりしませんか？	つまった原稿や異物を取り出し、原稿をセットし直してください。 →「原稿づまりを解除する」(10-4 ページ)
原稿がよくつまる	適切な原稿を使用していますか？	適切な原稿を使用してください。 →「使用できる原稿サイズ」(1-29 ページ)
	原稿ガイドの位置がずれていませんか？	原稿ガイドを原稿に沿わせてセットしてください。 →「原稿をセットするとき」(1-28 ページ)
	自動原稿送り装置に紙片が残っていませんか？	原稿カバーを開いて確認してください。 →「原稿づまりを解除する」(10-4 ページ)
	原稿搬送ローラーが汚れていませんか？	原稿搬送ローラーを清掃してください。 →「読み取り部のお手入れ」(9-6 ページ)
時計データや宛先表などの登録内容が消えてしまう	長時間電源を切ったままにしていませんでしたか？	登録内容を保持しているバッテリーの寿命が考えられます。NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
カバーが閉まらない	カバーの片方を押していませんか？	両端を押して閉めてください。

送信できない

発生状況	チェック項目	処置
送信できない	送信の手順は正しいですか？	手順を確認し、もう一度操作をしてください。 →「ファクス送信の基本操作」(2-3 ページ)
	相手先の電話番号は正しいですか？	宛先表で指定しているときは、正しく登録されているか、リストをプリントして確認してください。 →「宛先リストをプリントする」(7-6 ページ)
	電話回線の種類は正しく設定されていますか？	電話回線にあったダイヤル種別に設定してください。 →「ダイヤル種別を設定する」(1-16 ページ)
	エラーメッセージが表示されていませんか？	エラーメッセージに従って処置を行ってください。 →「エラーメッセージが表示されたときは」(10-5 ページ)
	外線発信番号を忘れていませんか？	0 発信など、内線から外線へ発信するときの外線発信番号を忘れていませんか？
	相手側にトラブルはありませんか？	相手側に確認し、受信できる状態にするよう依頼してください（電源、記録紙など）。
原稿が連続して送信されない	正しく原稿をセットしていますか？	原稿をセットし直してください。 →「原稿をセットするとき」(1-28 ページ)
	セットした原稿の中に、最小幅より狭い幅の原稿がセットされていませんか？	最小幅より狭い幅の原稿は、キャリアシートにセットして、ほかの原稿とは別にしてください。 →「別売品について」(12-3 ページ)

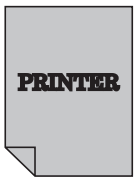
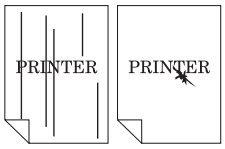
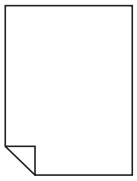
発生状況	チェック項目	処置
ダイヤルしても送信できない	電話回線の種類は正しく設定されていますか？	電話回線にあった種類に設定してください。 →「ダイヤル種別を設定する」(1-16 ページ)
	原稿は正しくセットされていますか？	正しく原稿をセットしてください。 →「原稿をセットするとき」(1-28 ページ)
	相手機に記録紙がセットされていますか？	相手機に記録紙をセットするよう連絡をしてください。
	電話番号が間違っていませんか？	正しい電話番号をダイヤルしてください。
	相手が話中ではありませんか？	相手の通信が終了するまでお待ちください。
手動送信できない	ハンドセットを置いた後に〈スタート〉を押していませんか？	ハンドセットを置く前に〈スタート〉を押してください。 →「手動送信する」(2-4 ページ)
メモリー送信のとき原稿が読み込まれない	原稿は正しくセットされていますか？	正しく原稿をセットしてください。 →「原稿をセットするとき」(1-28 ページ)。
	メモリーがいっぱいではありませんか？	メモリー容量を確認してください。

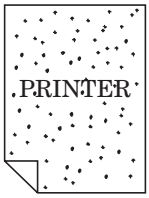
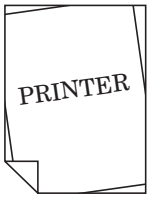
受信できない

発生状況	チェック項目	処置
受信できない	自動受信モードになっていますか？	受信モードを確認してください。 →「電話待機に設定する」(2-24 ページ)
	記録紙はありますか？	記録紙を補給してください。 →「記録紙を交換する」(9-2 ページ)
	記録紙がつまっていませんか？	エラーメッセージを確認し、つまっている記録紙を取り除いてください。 →「記録紙づまりを解除する」(10-2 ページ)
	電話機ヒモが本商品と電話回線に正しく接続されていますか？	正しく接続してください。 →「電話機ヒモの接続」(1-7 ページ)
	メモリーがいっぱいではありませんか？	メモリー容量を確認してください。
手動受信できない	ハンドセットを置いた後で〈スタート〉を押していませんか？	ハンドセットを置く前に〈スタート〉を押してください。 →「電話を中心に使用する（電話待機）」(2-25 ページ)
ポーリング受信ができずにチェックメッセージがプリントされる	相手先がパスコードを指定していませんか？	相手先と同じパスコードを設定してください。 →「パスコードと通信の範囲」(2-46 ページ)
	相手先がポーリング原稿を登録していますか？	相手先にポーリング原稿の登録を依頼してください。

画質が悪い

プリントの画質が悪いときにお読みください。以下の処理をしても正常に戻らないときは、NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

症状	原因	処置
プリントが薄い （かすれる、不鮮明） 	原稿の画像が薄いのではないですか？ 原稿の色が黄色や緑色などではないですか？	受信の場合は、相手先に原稿の色を黒系統に変えていただくように依頼してください。 コピーをとられることをおすすめします。
	適切な記録紙を使用していますか？	当社指定の記録紙をご使用ください。
	濃度の設定が正しくありません。	正しく設定してください。→「濃度」(2-5 ページ) 受信の場合は、相手に原稿の色を黒系統に変えていただくように依頼してください。コピーをとられることをおすすめします。
プリントが濃い 	原稿の地色が濃いのではないですか？	受信の場合は、相手先の原稿を確認して、原稿の地色部と画像にコントラスト（明暗）をつけてもらうか、濃度調整を依頼してください。
	適切な記録紙を使用していますか？	当社推奨の記録紙をご使用ください。
黒筋や汚れがプリントされる 	機器の故障が考えられます。	NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
記録紙全体が黒くプリントされる 	機器の故障が考えられます。	NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。
何もプリントされない 	原稿を裏表逆にセットしていませんか？	正しく原稿をセットしてください。→「原稿をセットする」(1-28 ページ)
	記録紙の裏表を間違えていませんか。	裏表を確認して正しくセットしてください。
	機器の故障が考えられます。	NTT 通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

症状	原因	処置
全体が汚れる  	両面原稿の裏面が写っています。	薄い紙の両面原稿の場合、裏面の原稿内容が透けて写ってしまうことがあります。この場合は、読み取り濃度を「薄く」にしてください。 →「濃度」(2-5 ページ)
画像が傾く  	原稿が正しくセットされていません。	正しく原稿をセットしてください。 →「原稿をセットする」(1-28 ページ)
	自動原稿送り装置に適した原稿がセットされていません。	自動原稿送り装置にセット可能な原稿を使用してください。 →「使用できる原稿サイズ」(1-29 ページ)
	原稿読み取り部に異物がありませんか？	原稿読み取り部を清掃してください。 →「読み取り部のお手入れ」(9-6 ページ)
	記録紙が正しくセットされていません。	記録紙を正しくセットしてください。 →「記録紙をセットする」(1-10 ページ)

停電のときは

本体の動作

❑ 停電になったとき

通話中は ...	引き続き通話ができます。
送信中は ...	送信が途中で切れます。 停電が復旧したら、メモリー送信のときは、送信途中のページから自動的に再送信します。 リアルタイム送信のときは、再送信を行いません。もう一度送信してください。
受信中は ...	受信が途中で切れます。 停電が復旧したら、受信が終了しているページはプリントします。
コピー中は ... 受信プリント中は ... リストプリント中は ...	プリントが途中で止まります。
原稿の読み取り中は ...	読み取りが途中で停止します。停電が復旧しても、読み取りは再開しません。復旧後は、〈ストップ〉を押して原稿を排出してください。

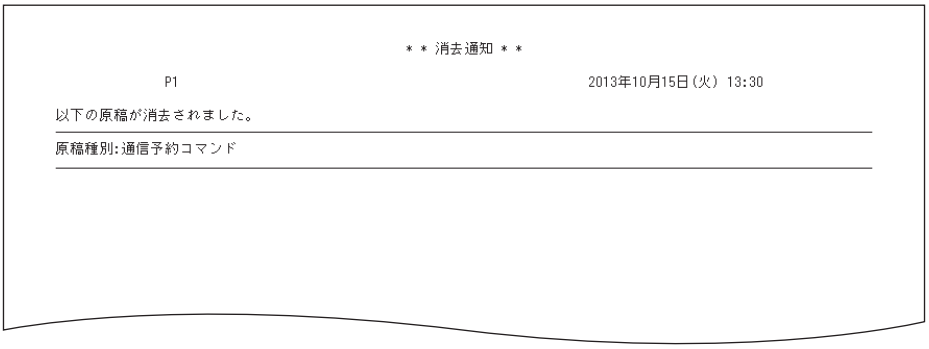
❑ 停電中

コピー	コピーできません。
ファクス送信	送信できません。
ファクス受信	受信できません。
電話をかける*1	ハンドセットのダイヤルキーを利用して、電話をかけられます。
電話を受ける*1	ハンドセットで、電話を受けられます。

＊1 ISDN や光回線など加入回線以外を使用している場合は、電話をかけること・受けることはできません。また、通信回線への接続装置が停電により使用できないときも、電話をかけること・受けることはできません。

消去通知

リアルタイム送信 (メモリー送信が OFF) を通信予約している場合は、電源が復旧した時点で消去通知をプリントし、通信予約が消えてしまったことをお知らせします。



第 11 章

主な仕様

主な仕様.....11-2
主な仕様.....11-2
外形寸法.....11-6

主な仕様

本商品の仕様、外観は改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

主な仕様

項目	仕　　様	
名称	T-360	
形式	卓上型、送受信兼用	
原稿サイズ	1 枚だけ読み取る場合	自動連続読み取りの場合
	■最大 幅 280 mm × 長さ 900 mm （読み取り幅は 252 mm） ■最小 幅 120 mm× 長さ 100 mm	■最大 幅 257 mm × 長さ 364 mm （読み取り幅は 252 mm） ■最小 幅 148 mm × 長さ 105 mm
原稿の紙厚	0.05 ～ 0.15 mm	0.06 ～ 0.13 mm
原稿の坪量	35 ～ 128 g/m^2	52 ～ 105 g/m^2
原稿の自動分離可能枚数	B4：30 枚　A4：30 枚　（原稿の総厚み 最大 4 mm)	
メモリー容量	16MB	
適用回線	加入電話回線（ファクス通信網を含む）NCC 回線	
走査方式	送信部：CCD イメージセンサーによる固体電子平面走査 受信部：サーマルヘッドによる固体走査	
記録方式	感熱記録方式	
走査線密度	超高画質　主走査 8 画素 /mm × 副走査 15.4 本 /mm＊1 高画質　主走査 8 画素 /mm× 副走査 7.7 本 /mm 標準　主走査 8 画素 /mm× 副走査 3.85 本 /mm 写真　主走査 8 画素 /mm× 副走査 7.7 本 /mm	
通信速度	33 600、31 200、28 800、26 400、24 000、21 600、 19 200、16 800、14 400、12 000、9 600、7 200、4 800、 2 400 bps（自動切替）	
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG	
通信モード	スーパー G3、G3	
送信原稿サイズ	B4、A4	
記録紙サイズ	感熱記録紙 B4 / A4（257 mm / 216 mm 幅）×100 m ロール 1 インチ紙管	
電送時間＊2	2 秒台（33 600 bps）/3 秒台（28 800 bps）	
電源	AC 100 V ±10 V　50/60 Hz 共用	
待機電力	待機時：5.3 Wh 節電モード時：1.3 W	
最大消費電力＊3	316 W 以下	
最大電流値	3.7 A	
直流抵抗値	256.4 Ω（ファクス本体のみ）	
大きさ（幅 × 奥 × 高）	幅 390 mm × 奥行き 353 mm × 高さ 187 mm （ファクス本体のみ）	
機械占有寸法（幅 × 奥）	幅 448 mm × 奥行き 394 mm	
質量	9.4 kg（記録紙含まず）	

項目	仕　　様
環境条件	周囲温度：5 ～ 35 ℃ 相対湿度：10 ～ 80 %
インターフェース	Ethernet 10BASE-T/100BASE-TX　(IEEE802.3az 対応)

＊1　該当モードを持たない装置とは交信できません。

＊2　A4 版 700 字程度の当社標準原稿を、標準画質（8 画素 /mm × 3.85 本 /mm)、スーパー G3 モード（ITU-TV.34 準拠 33 600 bps）で送信した場合の時間です。これは画像情報のみの電送速度で通信の制御時間は含まれていません。なお、実際の通信時間は原稿の内容、相手機種、回線の状態により異なります。G3 機との通信（同じ原稿を 14 400 bps で送ったとき）では 6 秒台になります。

＊3　最大消費電力の数値は、起動時などの瞬間的ピークの消費電力ではありません。

❑ PC-FAX 仕様

項　　目	仕　　様
原稿サイズ	A3、B4、A4
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信規格	T.30（FAX)、T.37（I-FAX）
通信速度	最大 33 600 bps（FAX)、最大 100 Mbps（I-FAX）
最大解像度	400 dpi × 400 dpi
宛先表	500 件
同報最大件数	530 件
対応 OS ファクスドライバー	Windows® 8 (x86/x64) Windows® 8 Pro (x86/x64) Windows® 8 Enterprise (x86/x64) Windows® 7 Enterprise（x86/x64） Windows® 7 Professional（x86/x64） Windows® 7 Ultimate（x86/x64） Windows® 7 Home Premium（x86/x64） Windows Server® 2012 R2 Datacenter Windows Server® 2012 R2 Standard Windows Server® 2012 R2 Essentials Windows Server® 2012 R2 Foundation Windows Server® 2012 Datacenter Windows Server® 2012 Standard Windows Server® 2012 Essentials Windows Server® 2012 Foundation Windows Server® 2008 R2 Datacenter（×64） Windows Server® 2008 R2 Enterprise（×64） Windows Server® 2008 R2 Standard（×64） Windows Server® 2008 Datacenter（×86/×64） Windows Server® 2008 Enterprise（×86/×64） Windows Server® 2008 Standard（×86/×64） Windows Server® 2003 Datacenter×64 Edition Windows Server® 2003 Datacenter Edition Windows Server® 2003 Enterprise ×64 Edition Windows Server® 2003 Enterprise Edition Windows Server® 2003 Standard ×64 Edition Windows Server® 2003 Standard Edition

項　　目	仕　　様
対応 OS ファクスドライバー	Windows Vista® Enterprise（×86/×64） Windows Vista® Business（×86/×64） Windows Vista® Ultimate（×86/×64） Windows Vista® Home Premium（×86/×64） Windows Vista® Home Basic（×86/×64） Windows® XP Professional×64 Edition Windows® XP Professional Windows® XP Home Edition

❑ インターネットファクス仕様

項　　目	仕　　様
通信プロトコル	送信：SMTP / SMTPS 受信：SMTP / POP3S / POP3
通信規格	ITU-T T.37（Simple Mode、Full Mode）
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
送信原稿サイズ	本商品から送信：B4、A4 ファクスドライバーから送信：A3、B4、A4
走査線密度	本商品から送信： 超高画質　主走査 8 画素 /mm × 副走査 15.4 本 /mm＊1 または主走査 200 dpi× 副走査 400 dpi 高画質　主走査 8 画素 /mm× 副走査 7.7 本 /mm または主走査 200 dpi× 副走査 200 dpi 標準　主走査 8 画素 /mm× 副走査 3.85 本 /mm または主走査 200 dpi× 副走査 100 dpi ファクスドライバーから送信： 主走査 200 dpi× 副走査 200 dpi 主走査 400 dpi× 副走査 400 dpi 受信： 主走査 8 画素 /mm× 副走査 3.85 本 /mm ～主走査 600 dpi x 副走査 600 dpi
データフォーマット	TIFF-S、TIFF-F、PDF

＊1　該当モードを持たない装置とは交信できません。

❑ ネットワーク設定仕様

項　　目	仕　　様
対応ブラウザー	Microsoft Internet Explorer 6 Microsoft Internet Explorer 7 Microsoft Internet Explorer 8 Microsoft Internet Explorer 9 Microsoft Internet Explorer 10 Microsoft Internet Explorer 11 Mozilla Firefox 2.0 以降
動作環境	対応ブラウザーおよび各ドライバー・ユーティリティーが動作する Windows 環境
登録可能ユーザー数	20 ユーザー

❑ マルチアクセス

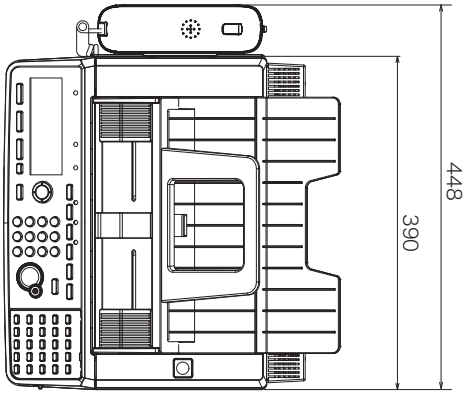
マルチアクセスとは、1 つの作業をしているときに他の作業を同時におこなえる機能のことです。本商品では、最大3つまでの作業を同時に行うことができます。
同時にできる作業の組み合わせは下表を参照してください。

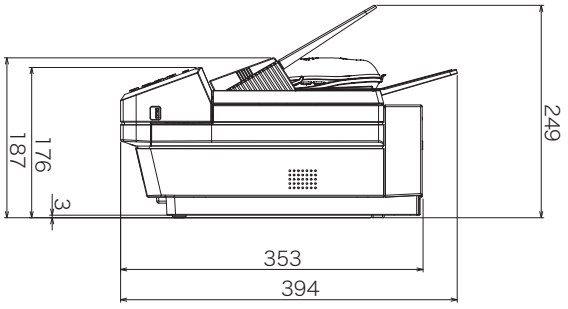
○ ･･･ できる　△ ･･･〈ストップ〉のみ操作可能　×･･･ できない

1つ目の作業 / 2つ目の作業	メモリー送信	受信	送信原稿読み取り	コピー原稿読み取り	受信プリント	リストのプリント	機器の操作
メモリー送信		×	○	○	○	○	○
受信	×		○	○	○	○	○
送信原稿読み取り	○	○		×	○	○	○
コピー原稿読み取り	○	○	×		○	○	○
受信プリント	○	○	×	×		×	○
リストのプリント	○	○	×	×	×		○
機器の操作	○	○	△	△	○	○	

1つ目の作業 / 2つ目の作業 / 3つ目の作業	メモリー送信				受信			
	送信原稿読み取り	コピー原稿読み取り	受信プリント	リストのプリント	送信原稿読み取り	コピー原稿読み取り	受信プリント	リストのプリント
メモリー送信					×	×	×	×
受信	×	×	×	×				
送信原稿読み取り		×	○	○		×	○	○
コピー原稿読み取り	×		○	○	×		○	○
受信プリント	×	×		×	×	×		×
リストプリント	×	×	×		×	×	×	
機器の操作	△	△	○	○	△	△	○	○

外形寸法





第 12 章

付録

アフターサービスについて 12-2
保証について 12-2
修理を依頼されるときは 12-2
その他の場合 12-2
オプション品・別売品について 12-3
オプション品について 12-3
別売品について 12-3
環境対応および規格について 12-4
国際エネルギースタープログラムについて 12-4
高調波の抑制について 12-4
FASEC について 12-4
ハンドセット接続時の直流抵抗値について 12-4
環境基準ラベル「ダイナミックエコマーク」について 12-5
さくいん 12-6

アフターサービスについて

ご使用中に異常が発生したときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜いて NTT 通信機器お取扱相談センタまでご連絡ください。（裏表紙）

- お客様または第三者が本商品の使用誤りによって生じた故障ならびにその不都合によって受けられた損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本商品は厳重な品質管理と製品検査をへて出荷されますが、万一故障または不具合がありましたら、至急 NTT 通信機器お取扱相談センタまでご連絡ください。（裏表紙）

保証について

- 本商品には保証書がついています。保証書は所定の事項を記入してお渡ししますので、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
- アフターサービスに関する詳しい内容は、別紙「保守サービスのご案内」をお読みください。

修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、「故障かなと思ったら」（10-15 ページ）の項目で、故障かどうかをお確かめください。故障の場合はお名前、住所、電話番号、機種名、購入年月日、故障の状態、道順と目標物、駐車可能な場所などを NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）までご連絡ください。お申し出により出張修理いたします。

ご注意

1 使用上の誤りや不当な修理・改造や当社指定以外の消耗品のご使用による故障および破損で修理サービスを依頼されますと、保証期間内であっても有償となります。

2 修理の内容によっては、登録内容が消去される可能性があります。あらかじめ登録内容をメモしておいてください。この場合再登録はお客様ご自身でお願いいたします。

その他の場合

下記のような変更がある場合は、事前に NTT 通信機器お取扱相談センタにご相談ください。

1 移設の場合
当社への手続きや機器の再調整が必要な場合があります。事前に NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）にご連絡ください。

2 電話回線に関する契約変更や新規サービス加入をされる場合
機器の再調整が必要な場合があります。事前に NTT 通信機器お取扱相談センタ（裏表紙）にご相談ください。

オプション品・別売品について

オプション品について

品　　名	備　　考
済スタンプ 梱包箱には右記の内容が同梱されています。	済スタンプ（青色）　1 個 ピン　　1 個

別売品について

品　　名	備　　考
キャリアシート　B4 用　A4 用	紙厚が薄い原稿やカールした原稿を送信するときに使用します。
ドキュメントラック（B4 対応）	排出される原稿をためることができます。

環境対応および規格について

- このモデルは日本仕様の認可機です。日本国内でのみ設置できます。（日本から海外のファクスとの国際電話による交信もできます。）
- This facsimile machine is designed for use only in Japan and can not be used in any other country.

国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本商品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、省エネルギー化推進の国際プログラムです。このプログラムは、“ エネルギーを必要なときに効率よく使う ” という省エネルギーの観点から、長時間電源を入れた状態になっていることが多いオフィス機器の消費電力の削減を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。

高調波の抑制について

本商品は、JIS C 61000-3-2 電源高調波規格に適合しています。

FASEC について

FASEC とは、情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）がファクシミリ通信のセキュリティ向上を目指して制定したガイドラインの呼称です。FASEC のロゴマークは、このガイドラインに準拠したファクシミリ・複合機に使用されます。

ハンドセット接続時の直流抵抗値について

ハンドセットを本商品に接続した状態の直流回路の抵抗値は 358.1 Ω（最大）です。線路の直流条件によってはご使用になれないことがあります。ただし、動作確認で通話やダイヤル動作に異常がなければ、ご使用には差し支えありません。

環境基準ラベル「ダイナミックエコマーク」について

当社は、循環型社会構築に向けた環境にやさしい通信機器の提供を推進するために、環境ガイドライン「＜追補版＞通信機器グリーン調達のためのガイドライン」を設定しております。さらに、より厳しい環境基準を満足した製品をダイナミックエコマーク認定製品と位置づけます。
ダイナミックエコマークは下記の条件を満足した製品に適用します。

ダイナミックエコマーク認定基準

＜環境に配慮した素材の採用＞
- ●当社が指定する含有禁止物質は、製品に使用しない。
- ●当社が指定する含有抑制物質は、使用を抑制すると共に物質名・量を管理する。
- ●酸性雨で地中に溶け出して人体に影響がある鉛を、製品に使用することを抑制する。
- ●焼却時にダイオキシン発生の恐れがあるＰＶＣ(ポリ塩化ビニール)、非デカプロ系難燃剤以外のハロゲン系難燃剤を、製品に使用することを抑制する。
- ●廃棄やリサイクルのために、製品には推奨プラスチック材料（ポリスチレン等)、推奨金属材料を使用する。
- ●取扱説明書等に使用する紙は再生紙を使用し、使用する印刷インキは、オゾン層破壊物質などの含有禁止物質を含まないものを使用する。

＜リサイクルしやすい設計＞
- ●製品のリサイクル可能率を 70%以上とする。
- ●リサイクルを容易にするために、すべてのプラスチック製部品に材料名を表示し、リサイクルに支障のない方法で製品名を表示する。

＜環境に配慮した梱包材＞
- ●発泡スチロールの使用量を削減する。

＜省エネルギー＞
- ●省エネルギーを考慮した設計を行う。
- ●国際エネルギースタープログラム対象製品は、これに準じた設計を行う。

さくいん

数字・アルファベット

2 度押し 2-49
CD-ROM 内の取扱説明書 xvi
ECM モード 7-18
F コード通信
　F コード受信通知 2-63
　F コード送信 2-65
　F コードポーリング 2-66
　F コードボックス 2-54
　F コードボックスリスト 2-60
　掲示板ボックスへの保存 2-61
　掲示板ボックス登録 2-57
　親展ボックス登録 2-55
ID チェック送信 2-47
LAN ケーブルの接続 1-9
LAN（有線）の設定 1-20
LCD コントラスト 7-13
PB 信号 2-4, 2-15, 4-2
PDF 3-7
POP 受信 3-4
TCP ／ IP 設定 8-15
TIFF 3-7
TIFF-S 3-7

あ

アース線 1-8
アイコン 1-24
宛先確認 2-7, 2-48
宛先グループ 7-7
宛先表 5-2
　登録・変更 7-2
宛先名表示 7-17
アフターサービス 12-2
アラーム 10-5

い

インターネットファクス
　受信 3-4
　初期値 7-15
　送信 3-3

え

液晶ディスプレイの濃度設定 7-13
エラーコード 10-7

お

応用機能一覧 1-23
音設定 7-12
オプション品 12-3

か

カウンターリセット 8-12
画質
　コピー 4-11
　設定 2-5
画面自動リセット時間 7-12
管理者パスワード 8-4

き

機器情報 7-28
機能プロテクト設定 8-8
逆順プリント 7-18
キャッチホン 4-4
記録紙
　交換 9-2
　セット 1-10
記録紙づまり解除 10-2

く

グループ送信 5-6
　個人 5-6

け

原稿
　使用できる原稿サイズ 1-29
　セットする 1-28
　読み取り範囲 1-28
原稿づまり解除 10-4
言語設定 1-15

こ

ご愛用スイッチ設定 7-22
故障
　画質が悪い 10-18
　受信できない 10-17
　送信できない 10-16
　動作しない 10-15
コピー 4-9
　ソート・ノンソート 4-10
　メモリーオーバー 4-9
コピー機能初期値 7-13

コピー禁止 8-10
コピー予約 7-14

さ

索引 5-3

し

時刻指定送信 2-12
時刻設定 1-16
自動配信 2-33
　設定 2-38
　配信設定 2-35
自動ログアウト時間 8-21
シャットダウン 1-25
修理依頼 12-2
受信タイムスタンプ 7-18
受信モード
　設定 1-17
　電話 / ファクス待機 2-27
　ファクス待機 2-26
　ファクス / 電話待機 2-26
　留守 / ファクス待機 2-27
手動受信
　受信のしかた 2-25
手動送信 2-4
受話音量 4-5
仕様 11-2
消去通知 10-20
初期値設定 7-11
　一覧 7-12
ジョブメモリー 7-23

す

スーパー G3 の設定 1-20
済スタンプ
　交換 9-4
　設定 2-6

せ

清掃 9-6
セキュリティー受信 2-52
設置モード 1-14
節電モード 1-13, 7-19
節電キー 1-5

そ

送信確認証
　初期値 7-17
　発行 6-2
増設電話（留守番電話）
　接続 1-7
　ファクス受信 2-28
送付案内書 2-9
　初期値 7-17

た

第 1 発信 2-15
代行受信 2-29
第 2 発信 2-15
タイムゾーンの設定 1-20
ダイヤルイン
　ダイヤルインについて 2-31
　ダイヤルインの動き 2-32
ダイヤル記号 2-15
ダイヤル種別設定 1-16
ダイヤルトーン検出設定 1-18
ダイレクトメール防止 2-39
短縮送信 5-4
　個人 5-3, 5-5
短縮ダイヤル 5-9
　登録 7-10

ち

チェックメッセージ 10-5
蓄積原稿リスト 2-23

つ

通信管理レポート
　印字 6-6
　自動プリント 6-7
　手動プリント 6-6
　並べ替え 7-18
通信結果確認・プリント 2-22
通信モード選択 2-15
通信予約中止 2-20

て

停電のとき 10-20
電源コードの接続 1-8
電源スイッチ 1-13
電話機ヒモの接続 1-7
電話のしかた
　受けかた 4-3

と

同梱品 1-3
同報送信 2-7
　宛先を個別に中止・確認 2-21
　禁止 2-51
トーン 2-15, 4-5
特定通信 2-15, 7-17
時計の設定 1-16

取扱説明書の種類 xv

な

ナンバー・ディスプレイ 4-6

ね

ネットワーク設定 8-13

の

濃度
　コピー 4-11
　設定 2-5

は

廃棄 xiv
ハイフン 2-15
パスコード 2-45
発信元情報 2-14
発信元番号の登録 1-19
発信元名
　登録 1-18
　標準発信元名の設定 1-19
　プリント設定 7-17
ハンドセット 4-3
　回線種別 4-4
　短縮ダイヤル登録 7-10
　着信音設定 4-5
　取り付け 1-6

ふ

ファイル形式 3-7
ファクシミリ通信網 1-21
ファクス機能初期値 7-16
　送信初期値 7-17
　その他の設定 7-17
ファクス受信モード
　設定 1-17
ファクス中止 2-19
ファクス番号直接入力 5-7
プレフィクス 2-15
　設定 7-18
プロテクトコード 8-5
分割送信 3-6

へ

閉域送信
　ON/OFF 設定する 2-42
　閉域受信の設定 2-43
閉域通信 2-42
ベル回数 7-17

ほ

ポーズ 2-15
　時間設定 7-17
ポーリング
　パスコードポーリング 2-44
　ポーリング受信 2-18
　ポーリング送信 2-16
保証 12-2
ボリューム調整 2-4

み

ミュート 4-5

め

メール
　編集 3-5
　履歴 5-8
メールアドレス直接入力 5-7
メール機能初期値 7-15
メール定型文初期値 7-16
メッセージと処置 10-12
メモリー送信 2-13

も

モード禁止設定 8-10
文字入力 7-29
　英字・数字・記号 7-35
　漢字・ひらがな 7-34
　空白 7-36
　入力モード 7-32
　文字の割り当て 7-33

ゆ

ユーザー使用状況管理リスト 8-11
優先応用機能 7-21

よ

呼出ベル回数 7-17

り

リアルタイム送信 2-13
リスト 7-26
　プリント禁止 8-10
リダイヤル 2-8, 5-8
　回数 7-17
　間隔 7-17
　ハンドセット 5-9
リモート受信 2-28

る

留守番電話
　接続 1-7
　ファクス受信 2-27

ろ

ログアウト 1-27
ログイン 1-26

わ

ワンタッチキー 5-4

本商品はダイナミックエコマーク認定商品です。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。
本商品を最適にご利用いただくために、定期的にごらんいただくことをお勧めします。

当社ホームページ： http://web116.jp/ced/
http://flets-w.com/solution/kiki_info/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：FREE 0120-970413

※PHS・携帯電話・050IP電話からのご利用は：03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間：9：00～17：00
※年末年始：12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：FREE 0120-248995

※PHS・携帯電話からも利用可能です。

受付時間：9：00～17：00
※年末年始：12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

故障に関するお問い合わせ

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。（24時間 年中無休）

※ 携帯電話・PHSからは下記の電話番号にてお受けしています。
NTT東日本エリア　0120-000-113
NTT西日本エリア　0120-444-113
※ 故障修理等の対応時間は9:00～17:00となります。
(17:00～翌日9:00までは録音にて受付しており順次ご対応いたします。)

電話番号はお間違えにならないように、ご注意願います。

© 2013 NTTEAST・NTTWEST

NTT

VEGETABLE OIL INK

この取扱説明書は、環境に配慮したベジタブルオイルインキを使用しています。

本3283-2(2015.11)
DE2-90040-61